

授業科目名： 日本語学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：麻生（森） 玲子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語を客観的に分析するための基本的な考え方が説明できる。 客観的に分析できるようになった結果、例えば、次のような質問に答えられるようにする。 <p>平仮名の「ん」で表される日本語の音はすべて同じ音か？「読んだ」の「だ」と「食べた」の「た」は違うのか？動詞の活用はどのようにまとめたらいいか？「学校に」と「学校で」の違いは何だろうか？</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、私たちが日常的に使用している現代日本語を客観的に観察し、日本語をはじめ、様々な言語を分析する練習を通して、日本語の仕組みを学ぶ。主に次の4つの分野に分け、日本語の仕組みを観察する。①音声に関するもの（音声学）、②音声をどのように認識しているかに関するもの（音韻論）、③語内部の構造に関するもの（形態論）、④語同士がどのように関係し、意味を成しているかに関するもの（統語論）。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 導入（ガイダンス）自己紹介、授業の目的、内容・単位認定に関する説明</p> <p>第2回 音声学①「音声学とは何か？」調音器官の紹介と実践</p> <p>第3回 音声学②「子音①」破裂音・鼻音・ふるえ音・はじき音の解説と実践練習</p> <p>第4回 音声学③「子音②」摩擦音・側面摩擦音・接近音・側面接近音の解説と実践練習</p> <p>第5回 音声学④「子音③」その他の子音の解説と実践練習</p> <p>第6回 音声学⑤「母音①」母音の解説と実践練習</p> <p>第7回 音声学⑥「母音②」母音の解説と実践練習</p> <p>第8回 音韻論①「音韻論とは何か？」実際の音声の観察と、自分にどう聞こえるかの観察</p> <p>第9回 音韻論②「音素とは何か？」音素認定の実践練習</p> <p>第10回 形態論①「形態論とは何か？」語の内部に何があるかの観察</p> <p>第11回 形態論②「形態素分析①」形態素分析の実践練習（接辞付加）</p> <p>第12回 形態論③「形態素分析②」形態素分析の実践練習（複合・重複・改変）</p> <p>第13回 統語論①「統語論とは何か？」格の分析①」統語論にはどのようなトピックがあるかの紹介・格関係の解説と身近言語の格組織の紹介</p> <p>第14回 統語論②「格の分析②」格関係の分析の実践練習</p> <p>第15回 統語論③「格の分析③」格関係の分析の実践練習</p> <p>期末試験</p>			

テキスト 特になし。授業内容に応じて適宜印刷配布する。

参考書・参考資料等 : Payne, Thomas E. Exploring language structure. 2006. Cambridge university press.

学生に対する評価 : 毎授業の振り返りシート 50点 (出欠確認も兼ねる)、定期試験 50点 (合計100点)

授業科目名：日本語史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：麻生（森）玲子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義の到達目標は次の4点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かつての日本語はどのような姿をしていて、現在とどのように違っていたのか例を挙げて説明できる。 ・ これまでの日本語の変化をどのように明らかにし、捉えられてきたのか説明できる。 ・ 専門分野の文章を正しく理解し、他人に伝えられる。 ・ 複数メンバーでの活動を円滑に進められる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、日本語の歴史について主に次の2点について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かつての日本語はどのような姿をしていて、現在とどのように違っていたのか。 ・ これまでの日本語に起こった変化をどのように明らかにし、捉えるのか。 <p>上記2点を中心に学ぶ他、専門分野の文章内容を理解し、それを他者に伝える訓練を含む。</p> <p>したがって、受講生をグループに分け、教科書の担当範囲をまとめてきて発表するという授業進行方法をとる。本授業は講義・演習（グループワークを含む）形式で実施する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：導入（ガイダンス）授業の目的、内容、単位認定に関する説明</p> <p>第2回：教科書第1章 ことばは変化する—歴史言語学序説</p> <p>第3回：教科書第2章 ことばはなぜ変化するのか</p> <p>第4回：教科書第3章 信頼できるテキストを求めて</p> <p>第5回：教科書第4章 文献にあらわれた言語の性格（1）—作品成立時の言語の姿にせまる</p> <p>第6回：教科書第5章 文献にあらわれた言語の性格（2）—言語の位相差と地域差</p> <p>第7回：教科書第6章 文献による言語の歴史</p> <p>第8回：教科書第7章 文献以前の言語の姿をさぐる</p> <p>第9回：教科書第8章 言語の地域差と言語の歴史（1）—比較方言学とその方法</p> <p>第10回：教科書第9章 言語の地域差と言語の歴史（2）—言語地理学とその方法</p> <p>第11回：教科書第10章 方言による言語史と文献による言語史</p> <p>第12回：教科書第11章 言語の体系性と言語の歴史—内的再建</p> <p>第13回：教科書第12章 社会のなかの言語と言語変化</p> <p>第14回：歴史言語学の実践研究の紹介</p> <p>第15回：まとめ</p>			

期末試験

テキスト 大木一夫 『ガイドブック 日本語史』 ひつじ書房. 2013年.

参考書・参考資料等：特になし。授業内容に応じて適宜紹介する。

学生に対する評価：毎授業の振り返りシート 20点、発表 40点（グループメンバーによる相互評価と担当教員による評価）、期末試験 40点

合計 100点

授業科目名： 現代日本語論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：麻生（森）玲子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・アクセントの聞き取りおよび再現ができる。 ・アクセント規則を考える際の基礎を理解できる。			
授業の概要 この授業では、日本語のアクセントについて主体的に学ぶ。アクセントとは、語中の音の高・低、強・弱に関する決まりのことである。日本語の諸方言の多くは音の高・低が語の意味の区別に関係している。本授業では特に東京方言を中心に日本語に観察されるアクセント現象を扱う。毎時間、発音練習と聞き取り練習を行う。各地のアクセントを観察し、規則を発見する面白さ・言語研究を行う面白さを体験する。			
授業計画 第1回 導入（ガイダンス）自己紹介、授業の目的、内容・単位認定に関する説明 第2回 「アクセントって何？」東京方言の聴き取りと発話練習 第3回 「知らない単語のアクセント・名前のアクセント」自分の母方言で知らない単語を発音してみる 第4回 「地名のアクセント」地名のアクセントをできる限り並べて傾向を見つける 第5回 「アクセントはいくつ？・動詞と形容詞のアクセント」身の回りの単語のアクセントを調べて観察する 第6回 「カタカナ語のアクセント」カタカナ語のアクセントの特徴を見つける 第7回 「複合名詞のアクセント」大学名をできる限り並べて観察する 第8回 「日本各地のアクセント体系」自分の出身地のアクセント体系を見る 第9回 「東京方言のアクセント体系まとめ」まとめ 第10回 「鹿児島方言のアクセント体系①」東京方言のアクセント体系との違いを見つける 第11回 「鹿児島方言のアクセント体系②」外来語や動詞・形容詞のアクセントの規則を考える 第12回 「方言アクセントの多様性」各地の方言のアクセント体系から日本語の歴史を探る 第13回 「北部・中部・南部のヤマトウグチのアクセント体系」クラスのメンバーをインフォーマントにして実際に調査する① 第14回 「北部・中部・南部のヤマトウグチのアクセント体系」クラスのメンバーをインフォーマントにして実際に調査する② 第15回 これまでのまとめ 期末試験（筆記テスト・実技テスト）			

テキスト 特になし。授業内容に応じて適宜印刷配布する。

参考書・参考資料等 窪菌晴夫『アクセントの法則』2006. 岩波書店.

学生に対する評価：毎授業の振り返りシート 30点、実技テスト 30点（聞き取り・再現）、筆記テスト 40点

合計 100点

授業科目名：沖縄の言語	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：麻生（森） 玲子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 沖縄の言語に関する知識を深め、沖縄の言語のどのような点が興味深いか（日本語とどのように似ていて、異なるか、あるいは世界の言語と比べてどのような特徴を持っているか）説明できる。			
授業の概要 この授業では、自身が住む沖縄にどのような言語があるのか、沖縄の言語はどのような点で興味深いのかを紹介する。沖縄には島ごと、字ごとに異なることばが数多く存在するため、様々な地域の沖縄の言語を観察し、多様性を捉えるとともに、日本語あるいは他の言語との共通点や相違点を、例を挙げながら解説する。これは言語学・日本語学の入門的側面を持つ。			
授業計画 第1回：導入（ガイダンス） 授業の目的、内容、単位認定に関する説明 第2回：沖縄と日本の関係「北上？南下？日本人はどこから来たか？」 人類の系統と言語の系統 第3回：沖縄の言葉のバリエーション「沖縄にはどんな言葉がいくつある？」 島の配置とことばの区画 第4回：音声から見た沖縄の言葉の特徴①「しりとりは永遠に終わらない」 どんな子音があるか 第5回：音声から見た沖縄の言葉の特徴②「息が強すぎる！」 どんな母音があるか 第6回：アクセントから見た沖縄の言葉の特徴①「意味の区別には音の高低も関係している」 第7回：アクセントから見た沖縄の言葉の特徴②「沖縄の言語のアクセント体系色々」 第8回：形態から見た沖縄の言葉の特徴①「2種類の【私たち】の謎」 第9回：形態から見た沖縄の言葉の特徴②「見つけてみよう！どこが日本語と違うだろう？」 第10回：統語から見た沖縄の言葉の特徴①「私【が】で、犬【ぬ】？ どのような規則で使い分け？」 第11回：統語から見た沖縄の言葉の特徴②「ここで「が」食べる、ってどういう意味？」 第12回：沖縄の言葉の歴史的な変化「日→沖 変換ルールで自動翻訳?!」 第13回：沖縄の言葉の分析①「聞き取ってみよう！」 第14回：沖縄の言葉の分析②「分析してみよう！」 第15回：消滅危機言語としての沖縄のことば「沖縄のことばを取り巻く現状」 期末試験			
テキスト 特になし。授業内容に応じて適宜印刷配布する。			
参考書・参考資料等 特になし。授業内容に応じて適宜紹介する。			
学生に対する評価：理解度を測るミニテスト（15点×2回） 30点 ※第5週目と9週目に実施 期末テスト 70点			

合計 100点

授業科目名： 日本古典文学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小番 達 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 古典文学に親しむとともに、文学に関する基礎的な知識を身につけ、中世文学の特質の一端を理解する。			
授業の概要 日本の中世文学における散文の代表的作品を鑑賞する。主に“男性／女性”、“笑い”をキーワードとして作品を読み進める。その際、前後の時代の関連ジャンルの作品も取り上げることで古典文学のジャンルの諸相をおさえつつ、中世文学の特質を読み取る。			
授業計画 第1回：ガイダンス（授業の内容・進め方、履修の留意点についての説明） 第2回：中古文学概観 第3回：中古文学① 『土佐日記』・『蜻蛉日記』・『枕草子』を読む 第4回：中古文学② 『今昔物語集』を読む 第5回：中世文学概観 第6回：中世文学① 『十六夜日記』を読む 第7回：中世文学② 『保元物語』・『平治物語』を読む 第8回：中世文学③ 『平家物語』を読む 第9回：中世文学④ 『宇治拾遺物語』・『古今著聞集』を読む 第10回：中世文学⑤ 『沙石集』を読む 第11回：中世文学⑥ 『徒然草』を読む 第12回：近世文学概観 第13回：近世文学① 『醒睡笑』・『きのふはけふの物語』を読む 第14回：近世文学② 『花月草紙』を読む 第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト 配付資料を用いる。			
参考書・参考資料等 授業時に適宜紹介・指示する。			
学生に対する評価			

活動状況：20点、リアクションペーパーの内容：20点、期末試験：60点 合計：100点

授業科目名： 日本近代文学概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小嶋 洋輔
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的な事項 国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①「小説」を「読む」ことの意義を知る。			
②各時代の代表的な小説を精読することで、「小説」を「研究」する内実を理解する。			
授業の概要			
<p>日本近現代文学の「代表作」「問題作」（本講義では国語教育で取り上げられた、問題とされた短編作品）を取り上げ、その「研究方法」について学ぶ。とくに、作品が生成された背景を知る「方法」及び、テキスト・テクストの一文字一文字を読む「方法」を知る。具体的には、扱う作品に対して「発表」を行ってもらい、それをもとにして全体との討議を行うものである。参考資料として河野龍也/佐藤淳一/古川裕佳/山根龍一/山本良『大学生のための文学トレーニング近代編』（三省堂 2012）などが上げられ、そこに収載された作品を教員が適宜ピックアップし、リスト化したもののなかから作品を選んでもらう予定である。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 本科目は演習形式である。発表とディスカッションからなる。			
第2回：「小説」を読む／教えるということ：井伏鱒二「山椒魚」についての講義と意見交換 ＜準備学習：扱う作品を読む＞			
第3回：「小説」を「読む」—文学と病というテーマから考える ＜準備学習：扱う作品を読み、「意見」を持ち寄ること＞			
第4回：「小説」を「読む」—近年の芥川賞受賞作品を読む ＜準備学習：扱う作品を読み、「意見」を持ち寄ること＞			
第5回：担当作品確定と発表レジュメについての解説 ＜準備学習：作品について基礎調査を行い、自身が発表する作品を選んでくる＞			
第6回：志賀直哉「小僧の神様」／国木田独歩「鎌倉夫人」についての発表と意見交換 ＜準備学習：（予習）発表者以外も、扱う作品を読み、「意見」を持ち寄ること （復習）発表者は補足資料の作成。それ以外の学生はディスカッションの振り返り＞			
第7回：横光利一「蠅」／葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」についての発表と意見交換 ＜準備学習：（予習）発表者以外も、扱う作品を読み、「意見」を持ち寄ること （復習）発表者は補足資料の作成。それ以外の学生はディスカッションの振り返り＞			
第8回：芥川龍之介「舞踏会」についての発表と意見交換 ＜準備学習：（予習）発表者以外も、扱う作品を読み、「意見」を持ち寄ること （復習）発			

表者は補足資料の作成。それ以外の学生はディスカッションの振り返り>

第9回：坂口安吾「真珠」／石川淳「焼跡のイエス」についての発表と意見交換

<準備学習：（予習）発表者以外も、扱う作品を読み、「意見」を持ち寄ること（復習）発表

表者は補足資料の作成。それ以外の学生はディスカッションの振り返り>

第10回：森鷗外「普請中」／泉鏡花「海城発電」についての発表と意見交換

<準備学習：（予習）発表者以外も、扱う作品を読み、「意見」を持ち寄ること（復習）発表

表者は補足資料の作成。それ以外の学生はディスカッションの振り返り>

第11回：太宰治「千代女」／吉屋信子「ヒヤシンス」についての発表と意見交換

<準備学習：（予習）発表者以外も、扱う作品を読み、「意見」を持ち寄ること（復習）発表

表者は補足資料の作成。それ以外の学生はディスカッションの振り返り>

第12回：谷崎潤一郎「小さな王国」についての発表と意見交換

<準備学習：（予習）発表者以外も、扱う作品を読み、「意見」を持ち寄ること（復習）発表

表者は補足資料の作成。それ以外の学生はディスカッションの振り返り>

第13回：野坂昭如「火垂るの墓」についての発表と意見交換

<準備学習：（予習）発表者以外も、扱う作品を読み、「意見」を持ち寄ること（復習）発表

表者は補足資料の作成。それ以外の学生はディスカッションの振り返り>

第14回：村上春樹「午後の最後の芝生」／角田光代「橋の向こうの墓地」についての発表と

意見交換

<準備学習：（予習）発表者以外も、扱う作品を読み、「意見」を持ち寄ること（復習）発表

表者は補足資料の作成。それ以外の学生はディスカッションの振り返り>

第15回：中島敦「マリヤン」／目取真俊「セミの声」についての発表と意見交換

<準備学習：（予習）発表者以外も、扱う作品を読み、「意見」を持ち寄ること（復習）発表

表者は補足資料の作成。それ以外の学生はディスカッションの振り返り>

定期試験は行わない。

テキスト

河野龍也 [ほか] 編著『大学生のための文学トレーニング 近代編』（三省堂 2012）

飯田祐子 [ほか] 編『文学で考える<日本>とは何か』（双文社出版 2007）

飯田祐子 [ほか] 編『文学で考える<仕事>の百年』（双文社出版 2010）

など。

参考書・参考資料等

講義中に示す。

学生に対する評価

活動状況(意見交換) 20点

リアクションシート 10点

発表 40点

不足点補足レポート 30点

合計100点

本授業の成績評価における秀・優・良・可・不可の意味は、全学の成績評価基準に従う。

到達目標と評価方法との対応については、オリエンテーションで解説する。

生成AIによる情報の偽装を禁止する。学生が生成AIによって出力された情報を自分の意見や主張として偽装し、それを課題レポートなどに使用することは不正行為とみなす。学生自身の考えや知識の表現としての学術的価値を損なうためである。

授業科目名： 日本古典文学史 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小番 達 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 上代から中古までの日本文学の流れ・全体像が把握できる。</p> <p>② 各時代の代表的な作品を通して、その思潮が把握できる。</p>			
授業の概要			
<p>上代と中古の文学の展開や変化、ジャンルの特質を〈死〉をキーワードとして捉える。また、背景となる歴史の流れ、日本社会・文化の構造も視野にいれながら、それぞれの時代の代表的作品に触れる。文学作品を通じて、その時代に生きた人びとの思想・精神文化を読み解いていく。以上とともに、古典文学を読解する上で必要な知識の習得を図る。</p>			
授業計画			
第1回 ガイダンス（授業の内容・進め方、履修の留意点についての説明）			
第2回 上代文学概観			
第3回 上代文学①『古事記』（1）—黄泉国訪問神話			
第4回 上代文学②『古事記』（2）—倭建命の死			
第5回 上代文学③『日本書紀』—二人の生け贄（仁徳紀）			
第6回 上代文学④『万葉集』—柿本人麻呂「泣血哀慟歌」			
第7回 上代文学の振り返り・小テスト			
第8回 中古文学概観			
第9回 中古文学①『伊勢物語』—24・45・124・125段			
第10回 中古文学②和泉式部の詠歌—『和泉式部集』・『和泉式部続集』・『和泉式部日記』			
第11回 中古文学③『源氏物語』—浮舟関連記事			
第12回 中古文学④『今昔物語集』（1）—『往生要集』にみる地獄、巻19—19			
第13回 中古文学⑤『今昔物語集』（2）—巻27—25・26、巻29—17・18			
第14回 中古文学の振り返り・小テスト			
第15回 総括			
期末試験			
テキスト			
配付資料を用いる。			
参考書・参考資料等			
授業時に適宜紹介・配付する。			

学生に対する評価

活動状況：20点、小テスト：30点（15点×2回）、期末試験：50点 合計：100点

授業科目名： 日本近代文学史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小嶋 洋輔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的な事項 国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①近世末期から現代までの日本文学の流れ・全体像が把握できる。 ②各時代の代表的な作品や作家を通して、その思潮が把握できる。			
授業の概要			
近世末期から現代までの日本文学の展開や変化、ジャンルの特徴を捉える。また、背景となる歴史の流れや、日本社会・文化の構造まで視野に入れながら、各時代・時期の代表的作品に触れる。文学作品を通じて、その時代・時期に生きた人々の思想・精神文化を読み解いていく。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（講義の内容・進め方、履修上の留意点についての説明） 本科目は講義形式で行う。			
第2回：過渡期の文学―一曲亭馬琴と戯作〈準備学習：戯作とはなにか調査〉			
第3回：二葉亭四迷一言文一致運動とは何だったのかを探る。〈準備学習：二葉亭四迷『浮雲』を読む〉			
第4回：森鷗外の試み―『舞姫』を読む。〈準備学習：森鷗外『舞姫』を読む〉			
第5回：紅露時代から泉鏡花―泉鏡花の文学史的な位置づけについて捉え直す。〈準備学習：泉鏡花について調査〉			
第6回：自然主義について―一田山花袋と島崎藤村が主導した自然主義について学ぶ。〈準備学習：自然主義について調査〉			
第7回：夏目漱石とその時代―夏目漱石の作品とその人生から、日本近代史を見直す。〈準備学習：夏目漱石について調査〉			
第8回：志賀直哉と白樺派―白樺派とは何だったのかを探ることで、日露戦争後の日本を見直す。〈準備学習：志賀直哉について調査〉			
第9回：大正期の文学―大正時代の15年間とはどのようなものだったか、文学から捉え直す。 【2～6に関するまとめレポートの提出】〈準備学習：モダニズムについて調査〉			
第10回：昭和ゼロ年代の文学―日本近代文学史では三派鼎立と呼ばれるこの時代についてまとめる。〈準備学習：プロレタリア文学について調査〉			
第11回：梶井基次郎について―梶井作品から大正昭和を読み解く。〈準備学習：梶井基次郎『檸檬』『冬の蠅』を読む〉			
第12回：戦争と文学―大戦期に文学が置かれた状況から第二次戦後派までまとめる。〈準備学習：大岡昇平について調査〉			

第13回：「第三の新人」について一高度経済成長期と文学の関係について講じる。 <準備学習：安岡章太郎について調査>

第14回：内向の世代と村上龍・村上春樹の登場－1970年から80年代にかけての文学状況について見る。 【7～12に関するまとめレポートの提出】 <準備学習：内向の世代について調査>

第15回：女性と文学
定期試験は行わない。

テキスト

特に指定はなし。授業の際に配付する。

参考書・参考資料等

講義中に示す。

学生に対する評価

- ・ 振り返りシートの記述内容 20点
- ・ 中間レポート 30点
- ・ 期末レポート 50点
- ・ 合計 100点

授業科目名： 日本古典文学史Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小番 達 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ① 中世から近世までの日本文学の流れ・全体像が把握できる。 ② 各時代の代表的な作品を通して、その思潮が把握できる。			
授業の概要 中世と近世の文学の展開や変化、ジャンルの特質を〈死〉をキーワードとして捉える。また、背景となる歴史の流れ、日本社会・文化の構造も視野にいれながら、それぞれの時代の代表的作品に触れる。文学作品を通じて、その時代に生きた人びとの思想・精神文化を読み解いていく。以上とともに、古典文学を読解する上で必要な知識の習得を図る。			
授業計画 第1回 ガイダンス（授業の内容・進め方、履修の留意点についての説明） 第2回 中世文学概観 第3回 中世文学①『発心集』—巻3—8を中心に 第4回 中世文学②『今物語』—第25話を中心に 第5回 中世文学③『平家物語』—重盛熊野参詣記事 第6回 中世文学④『山家集』—「願はくは」歌を中心とする桜歌 第7回 中世文学⑤『徒然草』—7・30・59・93段 第8回 中世文学の振り返り・小テスト 第9回 近世文学概観 第10回 近世文学①『曾根崎心中』—浄瑠璃（文楽）鑑賞 第11回 近世文学②『仮名手本忠臣蔵』—歌舞伎鑑賞 第12回 近世文学③『雨月物語』—「菊花の約」 第13回 近世文学④『誹風柳多留』—17編を中心に 第14回 近世文学の振り返り・小テスト 第15回 総括			
期末試験			
テキスト			
配付資料を用いる。			
参考書・参考資料等 授業時に適宜紹介・配付する。			
学生に対する評価			

活動状況：20点、小テスト：30点（15点×2回）、期末試験：50点 合計100点

授業科目名： 日本古典文学論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小番 達 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①『平家物語』という作品への理解を深める。</p> <p>②『平家物語』を通して日本中世の社会、文化、思想の特質を把握する。</p> <p>③古典文学の読解と研究方法の基礎的な知識を身につける。</p>			
授業の概要			
<p>『平家物語』巻八（全十一章段）を読む。『平家物語』は「治承・寿永の争乱」いわゆる源平合戦を主な舞台として、平家の滅びを主題としながら、様々な物語が織り込まれている。</p> <p>巻八の前半では都を離れて九州へと赴いた平家一門の劣勢が、そして、後半では平家一門に代わって都へ入った木曾義仲とその軍勢の動向が語られる。この間、活写される合戦場面も扱うことは勿論だが、野生児的な義仲をはじめ、大蛇を祖先にもつ緒方維義、戦場で踊り出す鼓判官知康など個性的な登場人物の描かれ方に注目する。また、義仲が後白河法皇と衝突したことを契機に、頼朝との溝が深まり、ついには頼朝の派遣した軍勢に打ち取られてしまうことになるが（その最期は巻九で語られる）、寿永二年における平家、義仲、頼朝、そして後白河法皇という四つの勢力の対立構造について歴史的な側面からも注目する。</p> <p>このように本授業では、人物形象、時代背景（政治や思想、文化）、そして諸本の異同等の問題に関わる先行研究の成果を紹介しつつ、巻八の物語内容を深く読み解いてゆく。</p> <p>各授業の最後に感想や意見、質問などをリアクションペーパーに記入し、提出してもらう（提出された内容については次回の授業の初めに適宜回答する）。また、本文や語意、史料などに関連する課題について調査報告してもらう。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス（授業の内容・進め方、履修の留意点についての説明）			
第2回：『平家物語』概説①—成立について			
第3回：『平家物語』概説②—諸本について			
第4回：「御幸」を読む			
第5回：「名虎」を読む			
第6回：「緒環」を読む、調査報告（1）			
第7回：「大宰府落」を読む、調査報告（2）			
第8回：「征夷大將軍院宣」を読む、調査報告（3）			
第9回：「猫間」を読む、調査報告（4）			

第10回：「水島合戦」を読む、調査報告（5）
第11回：「瀬尾最期」を読む、調査報告（6）
第12回：「室山」を読む、調査報告（7）
第13回：「鼓判官」を読む、調査報告（8）
第14回：「法住寺合戦」を読む、調査報告（9）
第15回：調査報告（10）、まとめ
定期試験は実施しない

テキスト

配付資料を用いる。

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介・配付する。

学生に対する評価

活動状況：20点、調査報告：30点、レポート：50点 合計：100点

授業科目名： 日本近代文学論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小嶋 洋輔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的な事項 国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①日本近・現代文学の通史的な流れを把握する。</p> <p>②文学と宗教の関係について理解する。</p> <p>③作家が宗教思想をどのように作品化し、「救い」を描いたか理解する。</p>			
授業の概要			
<p>明治以降、現在に至るまで、日本近・現代文学に描かれた「救い」について捉え直す。作家が宗教思想をどのように受容しているのか、またその思想をどのように作品化しているのかを把握する。そのために宗教を描く特徴を有するいくつかの短篇作品を読むことになる。なかでも、本講義ではその中心に遠藤周作の代表作『沈黙』と『深い河』を据え、この二作品をじっくり読むことで、文学における「救い」の変遷を見る。</p>			
授業計画			
<p>第1回：授業内容のガイダンスー 近代以降の文学を研究するとは</p> <p>第2回：日本近代文学とキリスト教ー文学という表現ジャンルのスタートと近代社会のスタート、そしてキリスト教の輸入という状況について把握する。＜準備学習：明治維新以降の歴史について復習しておく＞</p> <p>第3回：北村透谷についてー北村透谷の生涯を見ることで、第2週の内容を具体的に理解する。＜準備学習：北村透谷の評論を読む＞</p> <p>第4回：宮沢賢治とその宗教観　＜準備学習＞ 宮沢賢治「ひかりの素足」を読む＞</p> <p>第5回：芥川龍之介「神神の微笑」を読むー芥川龍之介の作品から宗教と日本について捉え直す。　＜準備学習：芥川龍之介「神神の微笑」を読む＞</p> <p>第6回：芥川龍之介「おぎん」を読むー芥川龍之介の作品から宗教と日本について捉え直す。　＜準備学習：芥川龍之介「おぎん」を読む＞</p> <p>第7回：太宰治「駈込み訴へ」を読むー太宰治の宗教色の強い作品から、日本人と信仰について考える。　＜準備学習：太宰治「駈込み訴へ」を読む＞</p> <p>第8回：予備日＝ここまでのまとめレポートの提出</p> <p>第9回：遠藤周作『沈黙』を読む①ー『沈黙』という作品が刊行された時代について解説する。　＜準備学習：高度経済成長期について調査＞</p> <p>第10回：遠藤周作『沈黙』を読む②ー『沈黙』を読み解く。　＜準備学習：『沈黙』を読む＞</p>			

第11回：遠藤周作『深い河』を読む①—『深い河』という作品が刊行された時代について解説する。 <準備学習：新興宗教をめぐる事件について調査>

第12回：遠藤周作『深い河』を読む②—『深い河』を読み解く。 <準備学習：『深い河』を読む>

第13回：遠藤周作『深い河』を読む③—『深い河』を読み解く。 <準備学習：『深い河』を読む>

第14回：大江健三郎『燃え上がる緑の木』を読む

第15回：村上春樹について—90年代のユングブームと村上春樹について考える。 <準備学習：村上春樹『神の子どもたちはみな踊る』を読む>

定期試験は行わない。レポート提出日

テキスト

授業時に配付する資料を用いる。

参考書・参考資料等

第1回授業ガイダンスの際に、参考文献目録を配布する。ただ第2回目の講義に必要な『北村透谷選集』（岩波文庫。Web上の「青空文庫」を利用しても可）は第1回時に持っていることが望ましい。

小嶋洋輔『遠藤周作論—「救い」の位置』（双文社出版 2012・12）

学生に対する評価

- ・振り返りシート 20点
- ・中間レポート 30点
- ・期末レポート 50点
- ・合計 100点

授業科目名： 沖縄の文学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小嶋 洋輔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的な事項 国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①提示する作品を読み、沖縄という「場所」の描き／描かれ方についての理解を深める。</p> <p>②文学作品を「評」する方法について学ぶ。</p> <p>③「沖縄県」の近代史について理解する。</p>			
授業の概要			
<p>・本講義は、沖縄の文学、つまり近代以降の「沖縄県」に関わる文学作品について講じるものである。明治以降沖縄の作家によって書かれた作品及び日本の作家によって作品化された沖縄像について紹介しながら概説し鑑賞する。</p> <p>・とくに4名の芥川賞受賞作家の作品については、詳細に読み解き、受講者の見解を求める（レポート）</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス 本科目は講義形式である。			
第2回：「沖縄県」の文学の誕生－近代文学とは何か <準備学習：沖縄県と「廃藩置県」に関する基礎知識をwebなどで調査してくる>			
第3回：広津和郎「さまよへる琉球人」の時代－関東大震災前後の沖縄の実情を読み解く <準備学習：広津和郎に関する調査及びソテツ地獄に関する調査を各自行ってくる>			
第4回：広津和郎「さまよへる琉球人」のモデル、池宮城積宝の作品を読む <準備学習：池宮城積宝『奥間巡査』を読んでくる>			
第5回：山之口貌の位置（小テスト①） <準備学習：小テストの準備および山之口貌に関する基礎調査を各自行ってくる>			
第6回：戦後沖縄文学史概説			
第7回：「ひめゆりの塔」をめぐる <準備学習：「ひめゆりの塔」をめぐる歴史の流れについて各自調査してくる>			
第8回：火野葦平と沖縄 <準備学習：火野葦平に関する調査を各自行ってくる>			
第9回：大城立裕「カクテル・パーティー」と「復帰」の時代 <準備学習：大城立裕「カクテル・パーティー」を読む>			
第10回：東峰夫「オキナワの少年」の芥川賞受賞の意味(小テスト②) <準備学習：小テストの準備および東峰夫「オキナワの少年」を読む>			
第11回：島尾敏雄のヤポネシア <準備学習：島尾敏雄に関する調査を各自行ってくる>			

第12回：又吉栄喜「豚の報い」と「沖縄ブーム」 <準備学習：又吉栄喜「豚の報い」を読む>

第13回：目取真俊「水滴」のマジックリアリズム <準備学習：目取真俊「水滴」を読む>

第14回：「やんばる」を舞台とする小説 <準備学習：大城貞俊について各自基礎調査を行ってくる>

第15回：沖縄を描くということ(調整日・小テスト③)

期末試験は実施しない。

テキスト

原則として配付資料を用いる。読んでくるべき小説作品についてはこちらから指示する。

参考書・参考資料等

原則として配付資料を用いる。読んでくるべき小説作品についてはこちらから指示する。

学生に対する評価

- ・振り返りシートの内容 20点
- ・小テスト(持ち込み不可)×3回または講義まとめレポート2回 30点
- ・期末レポート 50点
- ・合計 100点

授業科目名： 琉球文学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：照屋 理 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国文学（国文学史を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義は、琉球・沖縄で生まれ、育まれてきた琉球文学について概説する。 ・ここでの「琉球文学」とは、琉球王国時代、あるいはその時代を背景として、琉球の人々によって生み出された文芸を基本的に意味する。 ・到達目標としては、「おもろさうし」や琉歌の歌碑を読んで理解し、地域の豊年祭等で上演される組踊を観劇し理解するなど、身近にある琉球文学の世界を味わい、鑑賞する力を身につけることを目標とする。 			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琉球文学には、「おもろさうし」をはじめとする、琉球語を媒体とした筆録および口承文芸がある他、和歌・和文を主とする琉球和文学、そして漢詩・漢文を主とする琉球漢文学といった、大きく3つの作品群がある。これらについて具体的作品をとりあげながら、個々の作品の背景や作者、研究史、解釈・鑑賞の方法等について概説する。 ・受講生は、講義の中で文学作品を鑑賞しつつ、普段から琉球・沖縄地域の文芸をはじめ、歴史や文化、民俗等に親しむことが要求される。 ・なお、毎回リアクションペーパーを提出させる。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス・琉球文学の概要説明</p> <p>第2回：琉球語文芸作品概説（『おもろさうし』、古謡等について）</p> <p>第3回：琉球語文芸作品概説（琉歌、アヤグ、トゥッバラマ等について）</p> <p>第4回：『おもろさうし』と琉球史</p> <p>第5回：『おもろさうし』と民俗文化</p> <p>第6回：奄美古謡と琉球史</p> <p>第7回：奄美古謡と民俗文化</p> <p>第8回：宮古古謡と琉球史</p> <p>第9回：宮古古謡と民俗文化</p> <p>第10回：八重山古謡と琉球史</p> <p>第11回：八重山古謡と民俗文化</p> <p>第12回：琉球和文学と琉球史</p> <p>第13回：琉球和文学と民俗文化</p>			

第14回：琉球漢文学と琉球史

第15回：琉球漢文学と民俗文化

定期試験

テキスト

なし。資料を適宜配布する。

参考書・参考資料等

波照間永吉監修『琉球文学大系』シリーズ（令和4年～） ゆまに書房

学生に対する評価

- ・授業態度（リアクションペーパー含む） 40点
 - ・期末試験 60点
- 計100点

授業科目名： 漢文学概論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：前堂 颯世 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的な事項 漢文学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①中国文学、中国古典詩の通史的な流れ及び、琉球における漢詩文文化の特徴を説明できる。</p> <p>②漢詩文の訓読に関する基礎的知識を身に付け、訓読・現代語訳をすることができる。</p> <p>③漢詩文文化について理解した上で、漢詩とはどのようなものかについて記述、解説することができる。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では中国古典文学または漢文学について、漢詩を中心に講義を行う。中国文学史の大まかな流れを確認した上で、近体詩の成立する唐までの代表的な詩を鑑賞し、それぞれの詩の特徴を時代背景とともに捉える。さらに、「琉球漢詩」を鑑賞し、琉球における漢詩文文化を確認していく。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス 本科目は講義形式。			
第2回：中国文学史概説、文学史における詩の位置づけ 〈準備学習〉（予習）：中国の歴史について確認する。（復習）：配布資料をもとに漢詩の変遷について理解を深める。			
第3回：古詩と近体詩の特徴、漢詩の修辞技法、訓読について 〈準備学習〉（予習）：訓読について確認する。（復習）：配布資料をもとに古体詩と近体詩の違い、修辞技法、訓読について理解を深める。			
第4回：漢詩作品の鑑賞①、『詩経』についての概説、収録された作品の鑑賞 〈準備学習〉（予習）：『詩経』とは何かを確認する。（復習）：配布資料をもとに『詩経』についての理解を深める。			
第5回：漢詩作品の鑑賞②、『詩経』に収録された作品の鑑賞 〈準備学習〉（予習）：前週に扱った作品について確認する。（復習）：配布資料をもとに『詩経』についての理解を深める。			
第6回：漢詩作品の鑑賞③、『楚辞』についての概説、収録された作品の鑑賞 〈準備学習〉（予習）：『楚辞』とは何かを確認する。（復習）：配布資料をもとに『楚辞』についての理解を深める。			
第7回：漢詩作品の鑑賞④、『楚辞』に収録された作品の鑑賞 〈準備学習〉（予習）：前週に扱った作品について確認する。（復習）：配布資料をもとに『楚辞』についての理解を深める。			

第8回：漢詩作品の鑑賞⑤、五言詩についての概説、作品の鑑賞

〈準備学習〉（予習）：訓読の方法及び五言詩とは何かを確認する。（復習）：配布資料をもとに五言詩及び『文選』について理解を深める。

第9回：漢詩作品の鑑賞⑥、五言詩作品の鑑賞

〈準備学習〉（予習）：『文選』とは何かを確認する。（復習）：配布資料をもとに五言詩及び『文選』について理解を深める。

第10回：漢詩作品の鑑賞⑦、唐代の詩人についての概説、作品の鑑賞

〈準備学習〉（予習）：近体詩について確認する。（復習）：配布資料をもとに唐代の詩人について理解を深める。

第11回：漢詩作品の鑑賞⑧、唐代の作品の鑑賞

〈準備学習〉（予習）：前週に扱った作品について確認する。（復習）：配布資料をもとに唐代の詩人について理解を深める。

第12回：琉球漢詩の鑑賞①、琉球漢詩についての概説、琉球人の詠んだ作品の鑑賞

〈準備学習〉（予習）：訓読及び作品を鑑賞する詩人について確認する。（復習）：配布資料をもとに作品について理解の理解を深める。

第13回：琉球漢詩の鑑賞②、琉球人及び冊封使の詠んだ作品の鑑賞

〈準備学習〉（予習）：訓読及び作品を鑑賞する詩人について確認する。（復習）：配布資料をもとに作品について理解の理解を深める。

第14回：琉球漢詩の鑑賞③、琉球人及び冊封使の詠んだ作品の鑑賞

〈準備学習〉（予習）：訓読及び作品を鑑賞する詩人について確認する。（復習）：配布資料をもとに作品について理解の理解を深める。

第15回：まとめ〈準備学習：ここまでの復習〉

定期試験は行わない。

テキスト

特に指定なし。授業時に配布する資料を用いる。

参考書・参考資料等

前野直彬『中国文学史』（東京大学出版会、1991年）、興膳宏『中国文学を学ぶ人のために』（世界思想社、1991年）、赤嶺守『琉球王国：東アジアのコーナーストーン』（講談社、2004年）、上里賢一『琉球漢詩選』（ひるぎ社、1990年）など。その他、授業の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

コメントシート 20点

中間レポート 30点

期末レポート 50点

合計 100点

授業科目名： 漢文学概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：前堂 颯世 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的な事項 漢文学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①中国文学における漢詩の通史的な流れ・全体像を理解することができる。</p> <p>②漢詩文の訓読に関する知識を身に付け、訓読・現代語訳をすることができる。</p> <p>③琉球における漢詩文文化について記述、解説することができる。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では中国古典文学または漢文学について、漢詩を中心に講義を行う。漢文学概論Ⅰでは近体詩の成立する唐までの詩を鑑賞した。本講義では続く宋から清までの代表的な詩を鑑賞し、それぞれの詩の特徴を時代背景とともに捉える。さらに、琉球と中国との関係を確認したうえで、「琉球漢詩」を鑑賞し、琉球における漢詩文文化を確認するとともにその特徴を捉える。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス 本科目は講義形式。			
第2回：中国文学史、中国古典詩について〈準備学習〉漢文学概論Ⅰの内容の復習			
第3回：漢詩作品の鑑賞①、宋代の詩についての概説、作品の鑑賞 〈準備学習〉（予習）：宋代の詩人にどのような人物がいるのか確認する。（復習）：配布資料をもとに宋代の詩についての理解を深める。			
第4回：漢詩作品の鑑賞②、金・元代の詩について概説、作品の鑑賞 〈準備学習〉（予習）：金・元代の詩人にどのような人物がいるのか確認する。（復習）：配布資料をもとに金・元代の詩についての理解を深める。			
第5回：漢詩作品の鑑賞③、明代の詩について概説、作品の鑑賞 〈準備学習〉（予習）：明代の詩人にどのような人物がいるのか確認する。（復習）：配布資料をもとに明代の詩についての理解を深める。			
第6回：漢詩作品の鑑賞④、清代の詩について概説、作品の鑑賞 〈準備学習〉（予習）：清代の詩人にどのような人物がいるのか確認する。（復習）：配布資料をもとに清代の詩についての理解を深める。			
第7回：ここまでのまとめ、琉球と中国、琉球漢詩についての概説 〈準備学習〉（予習）：琉球の歴史について確認する。（復習）：ここまでの内容について			
第8回：琉球漢詩の鑑賞①、琉球人、冊封使などの作品の鑑賞 〈準備学習〉（予習）：訓読及び作品を鑑賞する詩人について確認しておく。（復習）：配布資料をもとに作品について理解の理解を深める。			
第9回：琉球漢詩の鑑賞②、琉球人、冊封使などの作品の鑑賞			

〈準備学習〉（予習）：訓読及び作品を鑑賞する詩人について確認しておく。（復習）：配布資料をもとに作品について理解の理解を深める。

第10回：琉球漢詩の鑑賞③、琉球人、冊封使などの作品の鑑賞

〈準備学習〉（予習）：訓読及び作品を鑑賞する詩人について確認しておく。（復習）：配布資料をもとに作品について理解の理解を深める。

第11回：琉球漢詩の鑑賞④、琉球人、冊封使などの作品の鑑賞

〈準備学習〉（予習）：訓読及び作品を鑑賞する詩人について確認しておく。（復習）：配布資料をもとに作品について理解の理解を深める。

第12回：琉球漢詩の鑑賞⑤、琉球人、冊封使などの詠んだ作品の鑑賞

〈準備学習〉（予習）：訓読及び作品を鑑賞する詩人について確認しておく。（復習）：配布資料をもとに作品について理解の理解を深める。

第13回：琉球漢詩の鑑賞⑥、琉球人、冊封使などの詠んだ作品の鑑賞

〈準備学習〉（予習）：訓読及び作品を鑑賞する詩人について確認しておく。（復習）：配布資料をもとに作品について理解の理解を深める。

第14回：琉球漢詩の鑑賞⑦、琉球人、冊封使などの詠んだ作品の鑑賞

〈準備学習〉（予習）：訓読及び作品を鑑賞する詩人について確認しておく。（復習）：配布資料をもとに作品について理解の理解を深める。

第15回：まとめ〈準備学習：ここまでの復習〉

定期試験は行わない。

テキスト

特に指定なし。授業時に配布する資料を用いる。

参考書・参考資料等

前野直彬『中国文学史』（東京大学出版会、1991年）、興膳宏『中国文学を学ぶ人のために』（世界思想社、1991年）、赤嶺守『琉球王国：東アジアのコーナーストーン』（講談社、2004年）、上里賢一『琉球漢詩選』（ひるぎ社、1990年）など。その他、授業の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

コメントシート 20点

中間レポート 30点

期末レポート 50点

合計 100点

授業科目名： 書写・書道概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：幸喜 洋人 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 書道（書写を中心とする。）		
授業のテーマ及び到達目標 国語科書写の学習内容を理解し、身に付けた技能を教壇及び日常生活でも活用できるようにする			
授業の概要 本講義は教員免許取得を目指す者が国語科書写を担当するため身に付けるべき書写指導の意義目的、指導者としての資質や態度、並びに書写の内容と技能を修得するためのものとする			
授業計画 第1回：書写における指導事項概説 第2回：文字を書くことの意義、筆順の原則 第3回：姿勢と筆記具の使い方 第4回：平仮名、片仮名の字源 第5回：平仮名の特徴と基本 第6回：片仮名の特徴と基本 第7回：楷書の特徴と基本 第8回：楷書の基本的な線と書き方 第9回：字形Ⅰ（要素と全体の整え方） 第10回：字形Ⅱ（点画の組み合わせ方） 第11回：字形Ⅲ（部分の組み立て方） 第12回：許容される書き方 第13回：文字の大きさと配置（字配り、配列） 第14回：教科書教材の分析の視点と授業への生かし方 第15回：教材開発の視点と方法 ※定期試験は行わない			
テキスト 『国語科書写の理論と実践』 全国大学書写書道教育学会編、萱原書房			
参考書・参考資料等 『常用漢字表の字体・字形に関する指針』 文化審議会国語分科会報告 文化庁編			
学生に対する評価 提出物、授業への参加度による総合評価 毎回の小テスト（50点）、講義内で行われる実技課題提出（50点）合計100点			

授業科目名： 国語科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員名：久高利美子 担当形態：単独
科目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>① 国語科教育の歴史的変遷と教科特性を理解している。（知識・理解）</p> <p>② 学習指導要領における国語科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。（知識・理解）</p> <p>③ 学習指導案の構造を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。（技能・表現）</p> <p>④ 他者とのコミュニケーションを図りながら、主体的に授業に参加することができる。（態度）</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中学校・高等学校における国語科教育の目標・内容・方法・評価等に関する基本的な知識を扱う。また中学校国語科ならびに高等学校国語科の具体的な教材研究の方法について学ぶ。</p> <p>なお、本科目は講義・演習（グループワーク）形式で行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の目的・内容・進め方について、シラバスの確認をする。 <p>第2回：国語科の歴史的変遷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科教育の歴史的変遷について、学術書や学習指導要領を基に理解する。 <p>第3回：中学校国語科教育の目標と学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領を中心に、国語科の目標や学習内容及びに全体構造について理解する。また、小学校から高等学校までの系統性について理解する。 <p>第4回：中学校国語科 [知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項の学習指導</p> <p>第5回：中学校国語科 [知識及び技能] (2) 情報の扱い方 (3) 我が国の言語文化に関する事項の学習指導</p> <p>第6回：中学校国語科 [思考力, 判断力, 表現力等] A話すこと・聞くことの学習指導</p> <p>第7回：中学校国語科 [思考力, 判断力, 表現力等] B書くことの学習指導</p> <p>第8回：中学校国語科 [思考力, 判断力, 表現力等] C読むこと（文学的文章）の学習指導</p> <p>第9回：中学校国語科 [思考力, 判断力, 表現力等] C読むこと（説明的文章）の学習指導</p> <p>第10回：教材研究の理論と方法 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項</p> <p>第11回：教材研究の理論と方法 (2) 情報の扱い方 (3) 我が国の言語文化に関する事項</p> <p>第12回：教材研究の理論と方法 A話すこと・聞くこと</p> <p>第13回：教材研究の理論と方法 B書くこと</p> <p>第14回：教材研究の理論と方法 C読むこと（文学的文章）</p>			

第15回：教材研究の理論と方法 C読むこと（説明的文章）

第16回：国語科授業デザイン①

- ・学習指導案の構造を理解し、授業を想定した授業設計と学習指導案を作成し、模擬授業を行う。

第17回：国語科授業デザイン②

- ・模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善を行う視点を身につける。

第18回：国語科授業デザイン③

- ・デジタル、アナログ双方のメリットやデメリットを考え、ハイブリッド型学習指導案を作成する。

第19回：スピーチ「中学校国語科教育の課題について考える」

- ・国語を取り巻く子供たちの実態と国語科教育の課題について、グループワークを通して考える。

第20回：高等学校国語科教育の目標と内容（学習指導要領）

第21回：高等学校国語科 現代の国語の学習指導

第22回：高等学校国語科 言語文化の学習指導

第23回：高等学校国語科 論理国語の学習指導

第24回：高等学校国語科 文学国語の学習指導

第25回：高等学校国語科 国語表現の学習指導

第26回：高等学校国語科 古典研究の学習指導

第27回：国語科授業デザイン①

- ・学習指導案の構造を理解し、授業を想定した授業設計と学習指導案を作成し、模擬授業を行う。
- ・デジタル、アナログ双方のメリットやデメリットを考え、ハイブリッド型学習指導案を作成する

第28回：国語科授業デザイン②

- ・模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善を行う視点を身につける。

第29回：スピーチ「国語科教育法Ⅰを学んで」

- ・国語科教育の在り方について、これまでの学びを踏まえて自己の考えをまとめ、他者との交流を通して考えを広げる。

第30回：まとめ これからの時代に求められる国語科教育

- ・講話、並びに前時を踏まえてレポートを書く。

テキスト

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」文部科学省

「高等学校学習指導要領 解説 総則編」文部科学省

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」文部科学省

「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編」文部科学省

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

リフレクションシート：20点 レポート：40点 演習：40点 合計：100点

授業科目名： 国語科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員名：久高利美子 担当形態：単独
科目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 学習指導案の構造を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。（知識・理解）</p> <p>② 「目標—内容—方法—評価」の一貫性ある国語科模擬授業を実践することができる（技能・表現）</p> <p>③ 情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計や実践に活用することができる。（技能・表現）</p> <p>④ 国語科の授業を設計・実践・観察・省察し、授業改善の視点を身につけている。（技能・表現）</p> <p>⑤ 他者とのコミュニケーションを図りながら主体的・協働的に授業に参加し、計画的に課題に取り組むことができる。（態度）</p>			
授業の概要			
<p>国語科の実践研究の動向を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計力や実践力、授業改善の視点を身に付けるために、講義や授業研究の方法論を取り入れた模擬授業実践及び授業観察を通して習得する。また、模擬授業においてICTを活用し、ICT活用指導力の向上もねらう。なお、本科目は講義・演習（模擬授業）形式で行う。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション 講義：国語科授業づくりの基本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の目的、進め方等を説明する。模擬授業の計画を立案する。 <p>第2回：中学校国語科学習指導案の作成方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業実施にあたり、国語科教育法Ⅰで学んだ学習指導案の作成方法を復習し具体的な授業を想定した授業設計について学ぶ。 <p>第3回：学習評価「指導と評価の一体化」（内容のまとめりごとの評価基準）</p> <p>第4回：学習評価「指導と評価の一体化」（学習評価に関する事例）</p> <p>第5回：中学校国語科〔知識及び技能〕の教材研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。 <p>第6回：中学校国語科〔知識及び技能〕の模擬授業と授業研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行う。リフレクションシートを用いて振り返りを行い、授業の省察力を身につける。 <p>第7回：中学校国語科〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くことの教材研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。 			

- 第8回：中学校国語科〔思考力，判断力，表現力等〕A話すこと・聞くこと模擬授業と授業研究会
・作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行う。リフレクションシートを用いて振り返りを行い、授業の省察力を身につける。
- 第9回：中学校国語科〔思考力，判断力，表現力等〕B書くことの教材研究
・具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。
- 第10回：中学校国語科〔思考力，判断力，表現力等〕B書くことの模擬授業と授業研究会
・作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行う。リフレクションシートを用いて振り返りを行い、授業の省察力を身につける。
- 第11回：中学校国語科〔思考力，判断力，表現力等〕C読むことの教材研究
・具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。
- 第12回：中学校国語科〔思考力，判断力，表現力等〕C読むこと模擬授業と授業研究会
・作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行う。リフレクションシートを用いて振り返りを行い、授業の省察力を身につける。
- 第13回：国語科におけるICT活用の事例
- 第14回：ICTを活用した国語科授業デザイン
- 第15回：模擬授業の総括と授業研究会
- 第16回：〇〇中学校 校内研修への参加
- 第17回：スピーチ「校内研修へ参加して考えたこと」
- 第18回：高等学校国語科学習指導要領の理解
- 第19回：高等学校国語科 現代の国語 の教材研究①
・具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。
- 第20回：高等学校国語科 現代の国語 の教材研究②
・具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。
- 第21回：高等学校国語科 現代の国語 の模擬授業と授業研究会①
・作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行う。リフレクションシートを用いて振り返りを行い、授業の省察力を身につける。
- 第22回：高等学校国語科 現代の国語 の模擬授業と授業研究会②
・作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行う。リフレクションシートを用いて振り返りを行い、授業の省察力を身につける。
- 第23回：高等学校国語科 言語文化 の教材研究①
・具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。
- 第24回：高等学校国語科 言語文化 の教材研究②
・具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。
- 第25回：高等学校国語科 言語文化 の模擬授業と授業研究会①
・作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行う。リフレクションシートを用いて振り返りを行い、授

業の省察力を身につける。

第26回：高等学校国語科 言語文化 の模擬授業と授業研究会②

・作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行う。リフレクションシートを用いて振り返りを行い、授業の省察力を身につける。

第27回：模擬授業の総括と授業研究会

第28回：これからの時代に求められる国語科授業（中学校教師を招聘して）

第29回：スピーチ「国語科教育法Ⅱを学んで」

・国語科教育の在り方について、これまでの学びを踏まえて自己の考えをまとめ、他者との交流を通して考えを広げる。

第30回：まとめ これからの時代に求められる国語科授業

テキスト

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」文部科学省

「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編」文部科学省

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校 国語」文部科学省国立教育政策研究所

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 高等学校 国語」文部科学省国立教育政策研究所

参考書・参考資料等：授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価：活動状況 15点 学習指導案 25点 模擬授業等演習：35点

リフレクションシート：25点 合計：100点

授業科目名： 日本史概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：比嘉吉志
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 日本史・外国史		
授業のテーマ及び到達目標			
① 日本の歴史に関する基礎的な知識を身につける。			
② 日本の歴史の流れと時代ごとの特徴を理解し、歴史的思考力を身につける。			
授業の概要			
<p>この授業は講義形式で行い、国際社会との関わり・日本社会の多様性を通して歴史を学びます。歴史的な偉人や事件を暗記するのではなく、当時の社会や人々について理解を深め、現在の日本が歴史的に形成されたものであることを理解することが目標です。大学で学ぶ歴史には、試験問題のような「正解」はありません。受講生の皆さんもぜひ、講義のなかで歴史的な問いをみつけてください。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：原始の日本を探る			
第3回：倭国と東アジア			
第4回：律令国家と平安王朝			
第5回：日本にとって中世とは何か？			
第6回：グローバルヒストリーからみた戦国時代			
第7回：第1回～第6回まとめ、中間試験			
第8回：近世国家と「四つの口」			
第9回：江戸時代の双六から考える身分と社会			
第10回：明治日本の変革と貧困問題			
第11回：大正デモクラシーの時代			
第12回：戦間期と戦争への道			
第13回：戦後体制と経済成長			
第14回：平成の失われた30年			
第15回：講義のまとめ			
期末試験			
テキスト			
特にありません。講義の際に資料を配布します。			
参考書・参考資料等			

佐藤信編『大学の日本史 教養から考える歴史へ①古代』（山川出版社、2016年）
五味文彦編『大学の日本史 教養から考える歴史へ②中世』（山川出版社、2016年）
杉森哲也『大学の日本史 教養から考える歴史へ③近世』（山川出版社、2016年）
小風秀雅『大学の日本史 教養から考える歴史へ④近代』（山川出版社、2016年）
大津透・桜井英治・藤井譲治・吉田裕・李成市編『岩波講座 日本歴史』全22巻（岩波書店、
2013年～2016年）

学生に対する評価

毎授業後に提出するリアクションペーパーの内容：30点

期末試験（論述問題）：中間試験30点

：期末試験40点 計100点

授業科目名： 日本の歴史 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：屋良健一郎 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 日本史・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①国内政治史と対外関係史（外国との交流史）を関連づけながら日本の歴史を理解する。 ②史料に基づいて思考する力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本は早くから中国や朝鮮との交流を持ち、これらの国から多くの知識や文化を学んできた。そのため、日本の歴史を理解する上では東アジアの国々との関係を知ることが重要だと言えよう。また、現在、私達が日本と認識している領域のすべてが、当初から日本であったわけではない。北海道や沖縄をはじめ、かつて「異国」や「異域」であった地域をその内に含んで、今日の日本が存在していることも忘れてはならない。本講義では、前近代における周辺諸国や日本の内なる「異国」「異域」との関係史を概観することで、日本史の多角的な理解を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス・対外関係史研究の流れ 第2回：倭国の登場 第3回：古代の外交① 一遣隋使一 第4回：古代の外交② 一遣唐使一 第5回：元寇とその影響 第6回：倭寇から見た東アジアの中世 第7回：鉄砲伝来 第8回：前半のまとめ・中間試験 第9回：前近代の日本と琉球 第10回：前近代の日本と蝦夷地 第11回：豊臣秀吉・徳川家康の外交 第12回：「鎖国」への道 第13回：教科書の中の「鎖国」 第14回：江戸時代の「領土問題」 第15回：ペリー来航</p> <p>期末試験</p> <p>テキスト 特になし。プリントを配布する。</p> <p>参考書・参考資料等</p>			

村井章介『境界をまたぐ人びと』（山川出版社）

桃木至朗『海域アジア史研究入門』（岩波書店）

学生に対する評価

活動状況 30点

中間試験 30点

期末試験 40点

計 100点

授業科目名： 日本文化概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：屋良健一郎 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 日本史・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>原始・古代から現代までの我が国で展開した生活・学問などを概観することで、①日本における古代から現代までの歴史の変遷を理解し、②日本史の各時代の政治・社会の特徴を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本の文化史は、担い手となる階層や社会状況の違いにより、各時代それぞれ特徴的な様相を見せている。それらがどのような歴史的背景によって育まれたのか、また、どのような変遷を経て、現代に生きる我々の文化につながっているのかを考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス・日本史概説①（原始・古代） 第2回：日本史概説②（中世・近世） 第3回：日本史概説③（近現代） 第4回：年号の歴史①（東アジアと年号） 第5回：年号の歴史②（日本における改元の歴史） 第6回：食べ物の歴史①（古代・中世） 第7回：食べ物の歴史②（近世・近現代） 第8回：前半のまとめ・中間試験 第9回：穢（ケガレ）の歴史①（古代・中世） 第10回：穢（ケガレ）の歴史②（近世・近現代） 第11回：肉食の歴史 第12回：夢の世界 第13回：妖怪 第14回：江戸時代のはやり病（病気と人々の祈り） 第15回：短歌の世界（歌に込められてきたもの）</p> <p>期末試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし。プリントを配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>園田英弘編著『逆欠如の日本生活文化』（思文閣出版）</p>			
<p>学生に対する評価</p>			

活動状況	30点
中間試験	30点
期末試験	40点
計	100点

授業科目名： 日本史史料講読	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：屋良健一郎 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 日本史・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①史料を読解するための基礎力を身につける。</p> <p>②ひとつの史料から論点を見出し、自分なりの解釈を出すという作業を通じて歴史を多角的に考察する力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、日本の古代から近代までの様々な史料をとりあげ、史料から読み取ることができる思想・社会・文化について学ぶ。前半の講義では古文書・古記録（日記）に関する基礎的な事柄を講義し後半では実際にそれらの史料の読解を行う。訓読・現代語訳によって史料を読解しつつ、その史料が記された背景を考え、日本の歴史への理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス・史料とは</p> <p>第2回：さまざまな史料</p> <p>第3回：古文書の基礎知識</p> <p>第4回：書札礼</p> <p>第5回：花押</p> <p>第6回：印章</p> <p>第7回：古記録を読む</p> <p>第8回：前半のまとめ・中間試験</p> <p>第9回：古代の古文書</p> <p>第10回：神仏に誓う 一起請文一</p> <p>第11回：戦国時代の古文書</p> <p>第12回：男女の別れ 一離縁状一</p> <p>第13回：絵画史料から見た江戸時代</p> <p>第14回：近代人の日記</p> <p>第15回：偽文書</p> <p>期末試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし。プリントを配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>飯倉晴武『古文書入門ハンドブック』（吉川弘文館）</p>			

小山田和夫『入門 史料を読む 古代・中世』（吉川弘文館）

日本歴史学会編『概説古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館）

日本歴史学会編『概説古文書学 近世編』（吉川弘文館）

学生に対する評価

活動状況 30点

中間試験 30点

期末試験 40点

計100点

授業科目名： 国際社会と日本	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高嶺 司
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 日本史・外国史		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 戦後日本の国際社会とのかかわりを学び、戦後日本外交史についての関心を高める。 2. 戦後国際システムにおける日本の安全保障及び政治経済の役割を理解する。 3. 戦後の日本外交の課題を理解する。 			
授業の概要			
<p>本講義では、戦後日本の国際社会とのかかわりを外交史を通して考察する。敗戦から現在にいたるまで日本は国際社会をどのように航海し、また、めまぐるしく変化する国際環境に適応してきたのか？ 戦争によって失ったアジア諸国との信頼関係を、どのように修復し発展させようとしてきたのか？ 米ソ冷戦(1945-91)という状況の中で、どのように安全保障を確保し、どのようにして経済大国への道を行っていったのか？ 湾岸戦争、地下鉄サリン事件、東アジア経済危機、米国同時多発テロ、アフガン・イラク戦争、リーマン・ショック、東日本大震災といった近年の危機に日本はどのように対応してきたのか？ こうしたテーマを含む戦後日本の対外関係を詳細な事例をもとに解説する。</p>			
授業計画			
第1回： ガイダンス（講義概要、評価基準、参考文献等の説明）			
第2回： 占領下日本の「外交」			
第3回： 占領改革をめぐる日米交渉			
第4回： サンフランシスコ講和と日米安全保障条約			
第5回： 国際社会への復帰			
第6回： 先進国への道			
第7回： 戦後の未解決問題：韓国、中国、東南アジア、沖縄			
第8回： 「ニクソン・ショック」と日中国交正常化			
第9回： 危機の時代：石油ショック、中越戦争、アフガン侵攻、米ソ新冷戦			
第10回： 日本の経済大国化と日米同盟の実質化			
第11回： 日本外交のグローバル化			
第12回： 冷戦の勝者日本の「敗北」			
第13回： 安全神話の崩壊：地下鉄サリン事件、阪神淡路大震災			
第14回： 衝撃の21世紀へ：9.11テロ事件後の国際社会			
第15回： まとめ：「戦後日本外交」とは何か？			

期末試験は実施しない。

テキスト

五百旗頭真編『戦後日本外交史』第3版、有斐閣 2010年

参考書・参考資料等

高嶺司『日本の対中国関与外交政策』明石書店 2016年

原貴美恵編『在外日本人研究者がみた日本外交』藤原書店 2009年

Glen D. Hook, *Japan's International Relations*, Routledge, 2005.

学生に対する評価

小テスト 40点

期末レポート(小論文) 60点

合計 100点

授業科目名： 世界史概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大浜聖香子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		
授業のテーマ及び到達目標： （１）世界史に関する基本的な知識を習得し、特定の歴史事象について論理的に説明できる。 （２）過去の出来事を、当事者の立場に立って考え、自分の言葉で表現できる。 （３）歴史に関係する資料や文献を分析・読解し、その結果を表現できる。 （４）時間外学習に主体的に取り組み、「考える歴史学」を学ぼうとする姿勢を有することができる。			
授業の概要： 本授業では、先史から現代までの世界の歴史を扱う。歴史的な事象を現在とは断絶した出来事と捉えるのではなく、その繋がりに注目する。現代に繋がる世界の歴史的経緯や体系について多角的・創造的に捉える力を養う講義内容となっている。			
授業計画 第1回：ガイダンス～オリエンと地中海世界 第2回：アジア・アメリカの古代文明 第3回：内陸アジア世界・東アジア世界の形成 第4回：イスラーム世界の形成と発展 第5回：ヨーロッパ世界の形成と発展 第6回：内陸アジア世界・東アジア世界の展開 第7回：アジア諸地域の繁栄 第8回：近世ヨーロッパ世界の形成 第9回：近世ヨーロッパ世界の展開 第10回：近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 第11回：欧米における近代国民国家の発展 第12回：アジア諸地域の動揺 第13回：帝国主義とアジアの民族運動 第14回：二つの世界大戦 第15回：冷戦と第三世界の独立～現代の世界 定期試験は実施しない。			
テキスト 特になし。授業内容に応じて適宜印刷し配布する。			

参考書・参考資料等

『世界史B』 山川出版社

学生に対する評価

活動状況（ふりかえりシート） 30点

期末レポート 70点

合計 100点

授業科目名： 世界の歴史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤波 潔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 日本史・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <p>【授業のテーマ】ヨーロッパ近代を国際関係史の視点から理解する</p> <p>【到達目標】</p> <p>①16～19世紀のヨーロッパ近代史の基本的な知識を理解できる。</p> <p>②特定の歴史事象に関する歴史資料を多面的・多角的に読みとることができる。</p> <p>③特定の歴史事象が有する意義について論理的に表現できる。</p> <p>④ヨーロッパ近代史に関する歴史事象を現代との関わりにおいて探究することができる。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>学習指導要領の改訂によって、中学校社会科の歴史的分野、高等学校地理歴史科の歴史系科目において、内容的には近現代史分野が充実された一方で、学習方法的にはこれまでの通史学習から課題探究学習への転換がなされた。これにより、中等教育で歴史系科目を担当する者には、史資料の分析・読解に基づいた近現代史の知識の修得とともに、歴史的事象の意義に課する深い理解が求められる。このため、本講義では主として15世紀から19世紀のヨーロッパの歴史を取り扱い、史資料の読解能力と歴史的事象の意義の理解の修得をめざすこととする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：15世紀の世界①（大航海時代の到来）</p> <p>第3回：15世紀の世界②（ルネサンス）</p> <p>第4回：16世紀の世界①（宗教改革の広がり）</p> <p>第5回：16世紀の世界②（イベリア諸国の対外進出）</p> <p>第6回：17世紀の世界①（ネーデルラントの独立と対外関係）</p> <p>第7回：17世紀の世界②（ネーデルラントの対外進出）</p> <p>第8回：17世紀の世界③（三十年戦争とヨーロッパの国際関係）</p> <p>第9回：17世紀の世界④（名誉革命体制の成立）</p> <p>第10回：18世紀の世界①（フランスの重商主義）</p> <p>第11回：18世紀の世界②（イギリスの工業化）</p> <p>第12回：18世紀の世界③（フランス革命とヨーロッパ）</p> <p>第13回：19世紀の世界①（イギリスの自由主義と対外進出）</p> <p>第14回：19世紀の世界②（ドイツの統一と「世界政策」）</p> <p>第15回：19世紀の世界③（ヨーロッパ諸国の「帝国主義」）</p>			

定期試験**テキスト**

特定のテキストは使用しない

参考書・参考資料等

【参考書】①小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史[近現代]』ミネルヴァ書房、2011年；②南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵責任編集『新しく学ぶ西洋の歴史ーアジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年；③金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年；④『世界の歴史』全30巻、中央公論新社

【参考資料】歴史学研究会編『世界史史料』全12巻、岩波書店

学生に対する評価

到達目標①の評価：予習プリントの提出（15%）15点

到達目標②の評価：ワークシートの内容（25%）25点

到達目標③の評価：学期末試験の内容（40%）40点

到達目標④の評価：レポートの内容（20%）20点

合計 100点

授業科目名： 中南米の歴史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：長尾 直洋 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 日本史・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>① ラテンアメリカ・カリブ海地域の歴史について、先住民の時代から現代までの概要を学び、全体の流れを説明することができる。</p> <p>② ラテンアメリカ・カリブ海地域の各国史の基礎的知識を身につけ、さらに自身の関心を掘り下げて論じることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では、ラテンアメリカ・カリブ海地域の歴史について、先コロンブス期、植民地期、独立期、現代と時代順に追っていくことで、先住民の時代から現代までの通史の把握を目指す。本科目は、講義形式を中心とし、またアクティブ・ラーニングとして毎講義後のコメントシートによる双方向性のやり取りを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1週 オリエンテーション</p> <p>シラバスの説明（目的、計画、成績評価、予習復習、授業方法）、中南米とは、関連情報源の紹介 復習：講義内容の復習とコメントシートの提出</p> <p>第2週 ラテンアメリカ史入門</p> <p>呼称、地域区分、時代区分、言語・文化区分、日本とラテンアメリカ 予習：前回講義関連の情報（書籍、ニュース等）収集と読解 復習：講義内容の復習とコメントシートの提出</p> <p>第3週 先コロンブス期中米・カリブ海</p> <p>アジアからアメリカへ、狩猟から農耕生活へ、古代文明、中央アメリカとカリブ海の民族 予習：前回講義関連の情報（書籍、ニュース等）収集と読解 復習：講義内容の復習とコメントシートの提出</p> <p>第4週 先コロンブス期の南米</p> <p>中央アンデスの諸文明（チャビン、ワリ、ティワナク、ナスカ、モチェ、シカン、チムー、インカ） 予習：前回講義関連の情報（書籍、ニュース等）収集と読解 復習：講義内容の復習とコメントシートの提出</p> <p>第5週 大航海時代</p> <p>中世西欧の世界観、ポルトガルと大航海時代、コロンブス航海、アメリゴ・ヴェスプッチ、マゼラン一行の世界周航 予習：前回講義関連の情報（書籍、ニュース等）収集と読解</p>			

復習：講義内容の復習とコメントシートの提出

第6週 旧世界と新世界の接触

コロンブスとカリブ海域の征服、コルテスとアステカ王国の征服、ピサロとインカ帝国の征服、ヨーロッパ人の到来と新旧両世界の影響

予習：前回講義関連の情報（書籍、ニュース等）収集と読解

復習：講義内容の復習とコメントシートの提出

第7週 スペイン・ポルトガルによる植民地統治と開発

先住民認識と魂の征服、スペイン・ポルトガルの植民地統治機構、人種別身分制社会、重商主義

予習：前回講義関連の情報（書籍、ニュース等）収集と読解

復習：講義内容の復習とコメントシートの提出

第8週 ラテンアメリカ世界の出現（スペイン領）

ラテンアメリカ世界の出現、カリブ海世界の出現、カトリック世界の形成、植民都市の形成、ブルボン改革

予習：前回講義関連の情報（書籍、ニュース等）収集と読解

復習：講義内容の復習とコメントシートの提出

第9週 ラテンアメリカ世界の出現（ポルトガル領）

ブラジル社会の形成、植民都市の形成、奴隷制社会の成立、領土の拡張、ポンバル改革とブラジルの統合

予習：前回講義関連の情報（書籍、ニュース等）収集と読解

復習：講義内容の復習とコメントシートの提出

第10週 ラテンアメリカ諸国の独立運動

植民地社会の反乱、独立への目覚め、ナポレオンの影響、カリブ海域／メキシコ／中米／南米地域の独立

予習：前回講義関連の情報（書籍、ニュース等）収集と読解

復習：講義内容の復習とコメントシートの提出

第11週 近代国家形成の過程

カウディーリョの時代、植民地時代の遺産、近代化への道、ラテンアメリカを巡る国際関係

予習：前回講義関連の情報（書籍、ニュース等）収集と読解

復習：講義内容の復習とコメントシートの提出

第12週 近代化と従属構造

近代化の事例（アルゼンチン、ブラジル、メキシコ、チリ）、19世紀自由主義思想、国際分業思想、国際資源紛争、キューバ・パナマの独立とアメリカ合衆国の影響

予習：前回講義関連の情報（書籍、ニュース等）収集と読解

復習：講義内容の復習とコメントシートの提出

第13週 革新運動と国民国家形成

西欧への接近、欧州移民の導入、革新勢力の台頭、国民国家形成、1930年代経済危機、アメリカ合衆国の政策変更

予習：前回講義関連の情報（書籍、ニュース等）収集と読解

復習：講義内容の復習とコメントシートの提出

第14週 第二次世界大戦後の躍進と変革

汎アメリカ主義、ポピュリズム型政権、輸入代替工業化、カリブ海諸国の独立、伝統社会の変貌、国内外への人口移動、冷戦とキューバ革命

予習：前回講義関連の情報（書籍、ニュース等）収集と読解

復習：講義内容の復習とコメントシートの提出

第15週 現代のラテンアメリカと今後の展望

中米紛争・カリブ海域の諸相、ネオリベラリズム、民主政治と市民社会定着の可能性、左傾化、中国との関係

予習：前回講義関連の情報（書籍、ニュース等）収集と読解

復習：講義内容の復習とコメントシートの提出

期末課題：

期末レポート提出

予習：期末レポート作成

復習：講義全体の復習

テキスト

なし（授業内で適宜文献を紹介、またプリント配布を行う）。

参考書・参考資料等

参考文献：『概説ラテンアメリカ史』新評論、3,000円（税別）（図書館開架）

学生に対する評価

各講義後のコメントシート（2点×15回）	30点
講義内での活動状況（発言等）	10点
期末課題	60点
計	100点

授業科目名： アジアの歴史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：坪井 祐司 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 日本史・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東南アジアを中心とした海域アジアの歴史の基礎的な知識を習得する。 ・ 東南アジアの歴史の流れをつかみ、自分の言葉で表現できるようになる。 ・ 現代の東南アジアを取り巻く諸課題について、歴史的な視点で分析できるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>海域という視点から、東南アジアを中心としたアジアの歴史を講義する。</p> <p>東南アジアは、外来の文化を取り入れ、多様性を持ちながら成長してきた。前半では前近代の海の交易世界を扱う。アジアの海上交易路の要衝に位置した東南アジアの沿海地域では、様々な地域との間の文化、人間、商品の交流により、多様性を持った社会が形成され、交易を基盤とする港市国家という独特な政体が発展した。海の交易ネットワークの展開に連動して変化する地域秩序について論じる。後半では19、20世紀の近代史を扱う。東南アジアでは、近代の植民地化により現在の国境線がひかれ、言語や宗教を異にする多くの民族が共存する国家が形成された。東南アジア諸国が植民地統治を経て独立を手にし、経済発展によって存在感を高めていく過程を論じる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>講義の進め方や概要を説明する。現在の東南アジアを構成する11か国について、民族、宗教、言語などの面から特徴を紹介する。</p> <p>第2回 海域東南アジア世界</p> <p>東南アジア地域の海域世界としての特徴について紹介する。半島、多島海という地理や熱帯の自然環境により人口密度が低く移動性の高い社会が形成されてきたことを理解し、自然環境と人間の歴史の関係について考える。</p> <p>第3回 交易の時代と港市国家</p> <p>海域世界である東南アジアに特徴的な国家形態である港市国家とそれが繁栄した15～17世紀の「交易の時代」について説明する。港市に位置する王が内陸の後背地の住民と外部からくる商人との間を媒介し、交易を行うという港市国家のあり方について理解を深める。</p> <p>第4回 港市国家の事例：マラッカとアユタヤ</p> <p>交易の時代に繁栄した港市国家としてマラッカとアユタヤをとりあげ、その特徴を考える。二つの王権は、外来の商人たちを宮廷で登用し、外来の文化を取り入れることで、国内的な基盤を強化した。その活動を通じて、東南アジアにおける前近代の国家のあり方を考える。</p>			

第5回 日本人町の形成

交易の時代の東南アジアに形成された日本人町について紹介する。南シナ海沿岸の港市に形成された日本人町の事例を通じて、「交易の時代」の東南アジアにおける日本人の役割を理解し、日本史からみた日本人町のイメージを相対化する。

第6回 ヨーロッパ勢力の進出：ポルトガル、スペイン、オランダ

16世紀以降の東南アジアにおけるヨーロッパ勢力について、その時代的変遷を整理する。ポルトガル、スペイン、オランダという各国のアジア進出の過程を学び、16～18世紀のアジアとヨーロッパの関係がどのように変化してきたのかを考える。

第7回 海域世界のアジア系ネットワーク：華人、イスラム

南シナ海沿岸における華人、インド洋からマラッカ海峡におけるイスラムのネットワークについて学ぶ。東南アジア周辺海域では、東西を結ぶ広域的な人的ネットワークがはりめぐらされていたことを学び、現在の東南アジアにおける多民族・多文化状況についての理解を深める。

第8回 東南アジアの植民地化

19世紀のヨーロッパ勢力による東南アジアの植民地化の過程を整理する。植民地化が自由貿易の拡大を契機に進められたことを学び、国境線や行政府などの現代につながる政治・社会秩序が出現する過程を通じて、近代という時代の意味を考える。

第9回 植民地経済の展開

植民地体制下で形成された東南アジアの輸出型経済の特徴を紹介する。東南アジアが近代世界システムに組み込まれることを通じて、輸出型の経済が出現したことを学ぶとともに、この時期に東南アジア内やアジア間の経済関係が強まったこともあわせて理解する。

第10回 東南アジアのナショナリズム

植民地支配に対抗して各地で形成されたナショナリズム（民族主義）について紹介する。植民地統治の反作用として民族の団結、独立を求める政治運動が高まる一方、その運動が植民地の領域を単位としたものであったため、多様な人々を抱え込むことになったことを理解する。

第11回 第二次世界大戦

東南アジアにおける日本の占領と軍政について述べる。日本軍の統治が現地の政治指導者との連携を目指した点でその後につながる要素がある一方で、軍政が経済破綻をもたらしたことを学び、東南アジアの視点から見た第二次世界大戦の意義について考える。

第12回 東南アジア諸国の独立

第二次世界大戦後の東南アジアの植民地からの独立の過程を整理する。東南アジア諸国が独立により政治的に高揚する一方で、内部には深刻な対立を抱えていたことを学び、現在の国家がどのようにして統合されてきたのかについて理解を深める。

第13回 冷戦と開発体制

1960、1970年代の東南アジアにおける資本主義陣営と社会主義陣営の対立について説明する。ベトナム戦争をはじめ、社会主義陣営が国家統合のための戦争が続いた一方で、資本主義陣営は経済成長

優先の開発独裁が成立し、大きく方針が転換されたことを学ぶ。

第14回 現代の東南アジア

東南アジアの経済発展と現代の社会について説明する。冷戦終結後、社会主義諸国が対外開放政策に転じ、東南アジア諸国はASEANとして関係を深めている。一方で、急速な経済発展は大きな社会変化をもたらしていることを学び、現在の東南アジアを見る視角について考える。

第15回 まとめ

全体の内容のまとめを行う。

定期試験

テキスト

教科書は使用しない。授業ではパワーポイントスライドを使用する。

参考書・参考資料等

参考文献は、講義中に提示する。授業で使用するスライドは、事前に配布するので、予習として目を通しておくこと。

学生に対する評価

- ・ 授業への取り組み（授業内提出の課題）：40点
- ・ 中間レポート：20点
- ・ 期末試験：40点

授業科目名： 人文地理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：卯田 卓矢 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 地理学（地誌を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>人文地理学は現代社会の様々な事象を地域的・空間的な視点から読み解く学問である。本科目では人文地理学の諸概念・視点・対象を学習したうえで、①地理学的な視点から都市、地方、ものづくり、商業、観光などを理解すること、②現代社会の諸事象・諸問題を地域的・空間的に捉えることを達成目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目は人文地理学が扱う基本的なテーマとその視点を解説する。講義では都市、地方、農業、ものづくり、商業、文化、観光、女性、ライフコースなどを取り上げ、人文地理学的視点から論じる。具体的には、都市、地方、ものづくり、商業、観光、行動などのテーマを取り上げ、地理学的視点から論じる。この科目を通して現代社会における諸事象・諸問題を地域的・空間的に捉える視点の獲得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスー人文地理学の諸概念・視点・対象ー</p> <p>第2回：都市①：なぜ都市は拡大するのかー戦後日本の都市発展と人口移動</p> <p>第3回：都市②：なぜ都市に人が集まるのかー都市とサービス消費機会</p> <p>第4回：地方①：人口移動を地方からみると</p> <p>第5回：地方②：地方に人を呼び寄せるー地方移住の現状と課題</p> <p>第6回：地方③：高齢者が地方で暮らすには</p> <p>第7回：農業：現代農業の地域的展開</p> <p>第8回：ものづくり：「近さ」から考えるものづくりー産業立地と近接性</p> <p>第9回：商業①：私たちはどこでモノを買っているかー小売業の環境変化と大型ショッピングセンターの登場</p> <p>第10回：商業②：沖縄の伝統的商業活動ー共同店の歴史と現在ー</p> <p>第11回：観光：観光地域の形成と展開ー時代による変化と対応ー</p> <p>第12回：文化：初詣を地理学から考える</p> <p>第13回：ライフコース：女性のライフコースを地理学から考える</p> <p>第14回：政策：「平成の大合併」と福祉サービス</p>			

第15回：人文地理学からみた現代日本ーまとめー

期末試験

テキスト

なし（授業内で適宜文献を紹介、またプリント配布を行う）。

参考書・参考資料等

竹中克行編『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房，2015

稲垣稜『現代社会の人文地理学』古今書院，2014

小林茂，宮澤仁編『グローバル化時代の人文地理学』放送大学教育振興会，2012

高橋伸夫ほか編『都市空間の見方・考え方』古今書院，2013

神田孝治編『観光の空間：視点とアプローチ』ナカニシヤ出版，2009

松井圭介『日本の宗教空間』古今書院，2003

宮澤仁編『地図でみる日本の健康・医療・福祉』明石書店，2017

学生に対する評価

- ・小テスト 30点（3回実施）
- ・コメントシート 20点（授業の感想や疑問点などを記述）
- ・期末試験 50点（記述方式）

授業科目名： 地誌学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：卯田卓矢 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 地理学（地誌を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>地誌学とは地理学の一分野であり、地域を自然、歴史、文化、生活などの観点から「総合的」に把握し、各事象の関係性の中から「地域性」を理解しようとする学問である。本科目は、①地誌的な視点から日本およびヨーロッパの特徴を包括的に理解すること、②日本、世界の地域性やその課題を地誌的な観点から捉えることを達成目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目は前半に日本の各地方の地誌と観光、後半にヨーロッパ諸国（イギリス、フランス、アルプス、スペイン）の地誌と観光を説明する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスー地誌学の諸概念・視点・対象ー</p> <p>第2回：日本の地誌ー自然、文化、地域性を概観する</p> <p>第3回：日本の離島ー離島の隔絶性と地域差</p> <p>第4回：日本の地誌と観光1：北海道・東北</p> <p>第5回：日本の地誌と観光2：関東</p> <p>第6回：日本の地誌と観光3：中部</p> <p>第7回：日本の地誌と観光4：近畿</p> <p>第8回：日本の地誌と観光5：中国・四国</p> <p>第9回：日本の地誌と観光6：九州</p> <p>第10回：世界の観光：観光の世界的動向と地域的特徴</p> <p>第11回：ヨーロッパ諸国の地誌と観光1：イギリス</p> <p>第12回：ヨーロッパ諸国の地誌と観光2：フランス</p> <p>第13回：ヨーロッパ諸国の地誌と観光3：アルプス山脈</p> <p>第14回：ヨーロッパ諸国の地誌と観光4：スペイン</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>期末試験</p>			

テキスト

なし（授業内で適宜文献を紹介、またプリント配布を行う）。

参考書・参考資料等

上野和彦，本木弘悌，立川和平編『日本をまなぶ 西日本編・東日本編』古今書院，2017.

田林明編『商品化する日本の農村空間』農林統計出版，2013.

小泉武栄『観光地で学ぶ自然学』古今書院，2013.

石毛直道『食の文化地理：舌のフィールドワーク』朝日新聞社，1995.

淡野明彦編『観光先進地ヨーロッパ』古今書院，2016.

加賀美雅弘編『世界地誌シリーズ ヨーロッパ』朝倉書店，2019.

学生に対する評価

- ・小テスト 30点（3回実施）
 - ・コメントシート 20点（授業の感想や疑問点などを記述）
 - ・期末試験 50点（記述方式）
- 合計 100点

授業科目名： 自然地理学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺本 潔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 自然地理の特性をテーマに、地球環境や国土、沖縄県などの空間スケールにおける様々な自然の様相に関して自然地理の基本的な考え方にに基づき、事例地域をあげつつ解説することで気候や地形に対する見方を獲得することができる。			
授業の概要 主に気候と地形を窓口に、地球環境や国土、沖縄県の自然地理の特色を風土との関連で解説する。デジタル地図（地理院地図）やハザードマップ等の活用法についても論じる。			
授業計画 第1回：自然地理学の成立とフンボルト 第2回：自然地理学からみた環境と風土 第3回：気候の成り立ちと大気の構造 第4回：気候の基本的な要素（気温、地温、雲、降水、日射、風） 第5回：大気と海洋の大循環 第6回：都市化に伴う気候環境の変化 第7回：日本の気候区分と中高地理教科書で扱われる典型事例 第8回：水の分布と特性（河川、流域、湖沼、地下水） 第9回：地形の基本的な要素（河成地形、海成地形、内的営力のつくる地形） 第10回：国土の地形でみられる典型事例（段丘、扇状地、自然堤防、三角州） 第11回：沖縄県の地形でみられる典型事例（サンゴ礁海岸、岩石海岸、カルスト地形） 第12回：氷河地形と風のつくる地形 第13回：世界の植生分布と日本列島の植生分布 第14回：日本の自然の特色と日本の風土（自然災害・ハザードマップの利用） 第15回：デジタル地図（地理院地図）を活用した沖縄県の自然地理と世界自然遺産 期末試験			
テキスト 特になし			

参考書・参考資料等

高橋日出男・小泉武栄編著『地理学基礎シリーズ2 自然地理学概論』朝倉書店

学生に対する評価

期末試験（60点）と沖縄県北部地域を題材とした自然地理レポートの発表（40点）に対して評価する。合計（100点）

授業科目名： 法学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大城渡
			担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「法律学、政治学」 「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「法」に基づいて論理的に物事を考えていくこと(リーガルマインド)への関心を促しつつ、「法」のありようを知り、わが国の実定法制度を学び続けることの重要性を最終的には認識していただければと思う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日常生活に見受けられる「法」に関する事象や時事問題（新聞やテレビ等で取り上げられる「法」に関する話題）を主たる素材として、社会における「法」の存在意義や、「法」はどのような役割を果たしているか / 果たすべきものかを考察し、また、わが国の主要な「法」制度に関する基礎について学習する。主な講義内容としては、「法」のイメージ・種類、「法」の一生（「法」の誕生から消滅まで）、「法」の本質、我が国の主な「法」体系の概説等である。なるべく分かり易く、興味深いものとして、「法」について講じたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：法 学 講義オリエンテーション；「法」を学ぶ講義の目的や概要の説明等</p> <p>第2回：「法」のイメージと種類；スポーツ競技におけるルール等との比較</p> <p>第3回：立法（法律制定）過程のしくみⅠ；国会のしくみ、その活動等に関する解説</p> <p>第4回：立法（法律制定）過程のしくみⅡ；国民と国会の関係、立法過程をめぐる諸問題等に関する解説</p> <p>第5回：私たちの日常生活における法；国会で制定された法律はどのように活用されるのかを考える！</p> <p>第6回：行政（法執行）過程のしくみⅠ；行政のしくみ、その職務等に関する解説</p> <p>第7回：行政（法執行）過程のしくみⅡ；地方自治や現代行政の諸問題等に関する解説</p> <p>第8回：司法（裁 判）過程のしくみⅠ；裁判制度のしくみ、裁判上の諸原則に関する解説</p> <p>第9回：司法（裁 判）過程のしくみⅡ；裁判員制度等に関する解説</p> <p>第10回：法の体系と法の発展Ⅰ；我が国の主要な法分野に関する解説（刑事法分野）</p> <p>第11回：法の体系と法の発展Ⅱ；我が国の主要な法分野に関する解説（公法・国際法分野）</p> <p>第12回：法の体系と法の発展Ⅲ；我が国の主要な法分野に関する解説（私法分野）</p> <p>第13回：世界の法と日本の法Ⅰ；世界の主要な法系の特徴</p>			

第14回：世界の法と日本の法Ⅱ；わが国の法体系との比較

第15回：「法」とは何か？ どういうものか？；これまでの講義内容を顧みたま講義の総まとめ

期末試験

テキスト 特になし。講義の進行に応じて、事前に講義内容に関するプリント・資料を適宜配布する。

参考書・参考資料等

- ① 伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門（第4版）』（有斐閣、2005年） 価格 1,260 円
- ② 安念潤司ほか『法学ナビゲーション（第2版）』（有斐閣、2001年） 価格 1,785 円
- ③ 長谷部恭男『法律学の始発駅』（有斐閣、2021年） 価格 1,870 円
- ④ 平野仁彦ほか『法哲学』（有斐閣、2002年） 価格 2,420 円
- ⑤ 瀧川裕英ほか『法哲学』（有斐閣、2014年） 価格 3,080 円
- ⑥ 瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年） 価格 2,750 円
- ⑦ 村山眞維・濱野亮『法社会学』（有斐閣、2019年） 価格 1,870 円
- ⑧ 中山竜一ほか『法思想史』（有斐閣、2019年） 価格 2,520 円

学生に対する評価

【出席・活動状況】

学則等に基づき、6回以上の欠席が確認された者には単位を認定しない。

また、成績評価に際して、他の受講生に迷惑を及ぼすような受講姿勢にも厳格に対処する。出席確認は、原則として学生証の提示と「出席カード」を活用して行うが、例外的な確認方法もある。

また、講義の進行に特に資するような積極的な言動については、成績評価においても考慮する。

【中間レポート】50点（講義前半部分の復習も兼ね、自分なりの考え方を練り上げていくための課題を提示する。）

【学期末試験】50点（自分なりの考え方をまとめてもらうために、予め試験問題を公表する場合がある。）

※不正行為の恐れがある場合、試験方法が変更されることもある。

合 計 100 点満点

授業科目名： 国際法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 志田淳二郎
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「法律学、政治学」 「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、国際法について幅広く学習し、現在の国際社会を「法」の視点から理解・分析できる視座を養うことをテーマにしています。本講義の到達目標は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 国際法の主要な概念・思想・理論を学び、国際社会に対する理解を深める。（知識） ② 日常の国際情勢に関するニュースや情報を「法」の視点から批判的に処理する力を身につける。（思考力・判断力・表現力） ③ 現在の国際社会において、国際法がどのように機能しているかについて、自分の言葉で説明し、意見を表明できる。（態度） 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、近代ヨーロッパで形成された伝統的国際法と第二次大戦後に発展した現代国際法を幅広く学習します。伝統的国際法は、主権国家間の権利衝突を調整する、「共存の国際法」の性格を持っていました。第二次大戦以降は、人権や環境など、国際社会に共通する法益が認識されるようになり、現代国際法は主権国家間の調整という消極的役割だけでなく、国際社会の法益の追求という積極的な役割を担う、「協力の国際法」として発展していくこととなります。</p> <p>また、歴史的に国際法は「戦争と平和」という問題とも密接に関係してきました。こうしたことから、本講義は、大きく次の3つのパート、①共存の国際法（第1回～第5回）、②協力の国際法（第6回～第10回）、③戦争と平和（第11回～第15回）に分けて学習します。本講義は対面授業を基本とし、「コメントシート」の提出等を通じた双方向型の授業を行います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス—国際法とは何か</p> <p>第2回：国際法の歴史、国家、外交</p> <p>第3回：領域、不干渉原則、国家管轄権</p> <p>第4回：海洋、南極、空、宇宙</p> <p>第5回：日本の領土、東シナ海情勢、南シナ海情勢</p> <p>第6回：国際機構</p> <p>第7回：経済</p>			

第8回：人権

第9回：刑事

第10回：環境

第11回：紛争の平和的解決

第12回：安全保障

第13回：武力紛争法

第14回：軍備管理・軍縮

第15回：まとめ—国際法を学ぶ意義とは何か

定期試験

テキスト

単元毎にその都度、講義資料を配布します。必要に応じて参考文献や参考資料を紹介します。

参考書・参考資料等

①玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法（第2版）』（有斐閣ストゥディア、2022年）。

②中谷・植木・河野・森田・山本『国際法（第4版）』（有斐閣アルマ、2021年）。

③加藤・植木・森川・真山・酒井・立松編『ビジュアルテキスト国際法（第3版）』（有斐閣、2023年）。

学生に対する評価

A：授業態度・姿勢（講義毎のコメントシートの提出、出席状況、確認テストなど）30点、B：期末試験70点の合計100点で評価します。評価の内容は全学の成績評価基準に基づいて行います。

なお、本講義では生成AIを利活用した課題作成・提出を認めません。生成AIを利活用した形での課題・試験の作成は成績評価の対象としません。

授業科目名： 政治学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 志田 淳二郎
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「法律学、政治学」 「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治学の基礎的な概念・思想・理論を学び、政治に対する理解を深める。 ・日常の政治に関するニュースや情報を批判的な視点をもって処理する力を身につける。 ・「グローバル化」、「多文化共生」の時代といわれる現代の政治現象に対し、自分の言葉で意見を表明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、政治学の基礎的な概念を幅広く学習して、現実の政治現象を理解・分析できる視座を養うことを目的としています。本講義は大きく次の4つのパート、①政治学の基礎理論（第2回～第5回）、②政治学の諸学説（第6回～第9回）、③新しい政治の課題（第10回～第12回）、④日本政治論（第13回～第14回）に分けて進めます。それぞれのパートで登場する理論・思想や諸事例を多角的に学ぶことで、政治学の基礎的な概念をしっかりと習得することができるでしょう。</p> <p>政治学は、大学生であればぜひ身につけておきたい教養の一つであると同時に、教員採用試験や公務員試験の教養・専門科目、さらには就職試験の一般教養試験でも必須科目になっています。「政治に関心がある」、「教養を深めたい」、「キャリア形成のために学んでみたい」というすべての学生の積極的な参加を期待しています。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：「政治」とは何か、「政治学」とは何か</p> <p>第2回：秩序の原理—国家の理論、権力論、個人</p> <p>第3回：自由の論理—古典的自由主義、「新しい自由主義」、新自由主義（ネオリベラリズム）</p> <p>第4回：正義の論理—夜警国家から福祉国家、ロールズとセンの正義論</p> <p>第5回：民主主義の論理—古代ギリシア、近代アメリカ、現代政治理論における民主主義理論</p> <p>第6回：政治制度論—各国の政治制度、議会制度、選挙制度</p> <p>第7回：政治過程論—政党、官僚制、圧力団体、マスコミ・世論</p> <p>第8回：政治の意識と行動—政治的無関心、イデオロギー、投票行動</p> <p>第9回：現代政治学の発達—政治制度論から行動科学的政治学へ</p> <p>第10回：環境をめぐる政治</p>			

第11回：アイデンティティをめぐる政治—多文化主義理論からポピュリズムへ

第12回：グローバル化時代の政治—グローバル・イシューズとグローバル・ガバナンス

第13回：戦後日本政治の歴史—55年体制、規制緩和の時代から二度の政権交代まで

第14回：中央地方関係・地方自治

第15回：まとめ—これからの政治学の課題と日本政治の行方を展望する

定期試験

テキスト

単元毎にその都度、講義資料を配布する。必要に応じて参考文献や参考資料を紹介する。

参考書・参考資料等

① 久米・川出・古城・田中・真淵『政治学〔補訂版〕』（有斐閣、2011年）。

② 川崎修・杉田敦編『現代政治理論〔新版〕』（有斐閣、2012年）。

③ 砂原庸介・稗田健志・多湖淳『政治学の第一歩〔新版〕』（有斐閣、2020年）。

学生に対する評価

A：授業態度・姿勢（振り返りシートの提出・復習プリントの提出など）30点、B：期末試験70点の合計100点で評価する。

授業科目名： 国際政治論	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校 社会） 必修科目（高等学校 公民）	単位数： 2単位	担当教員名：高嶺 司 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「法律学、政治学」 「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 国や地域の範囲をこえた政治経済活動の拡大とグローバル化についての理解を深める。</p> <p>2. 基礎的な国際政治理論について学ぶ。</p> <p>3. ニュース、商品、情報、資本、技術、文化、感染症などがすばやく全世界を駆けまわる状況とその問題点を学ぶ。</p>			
授業の概要			
<p>過去30年間、政治経済から文化や科学や環境に至るあらゆる領域において「地球規模のスケールをともなった相互接続(Globalization)」が顕著となってきた。本講義では、Globalizationをキーワードに国際政治の動向と問題点を、実例や理論を通して深く考察する。</p>			
授業計画			
第1回： ガイダンス（講義概要、評価基準、参考文献等の説明）			
第2回： Globalizationと世界			
第3回： 国際貿易と金融			
第4回： 情報通信技術革命と国際政治			
第5回： ヨーロッパ連合(EU)の地域統合と地域主義			
第6回： 国際政治の理論：Neo-liberalism, Neo-realism, Social constructivism			
第7回： NGO、多国籍企業、国境なき医師団			
第8回： 地球温暖化対策をめぐる環境政治			
第9回： 戦争の科学			
第10回： 国際テロリズムとアルカイダ			
第11回： 捕鯨問題と日本外交			
第12回： 貧困、飢餓、開発援助			
第13回： 日中関係の基本構図			
第14回： ハンティントンの「文明の衝突論」			
第15回： Globalizationの今後と私たち			
期末試験は実施しない。			
テキスト			

特定の教科書は定めず、講義にそって参考文献や参考資料を配布する。

参考書・参考資料等

添谷芳秀編 『21世紀国際政治の展望』 慶応義塾大学出版会 1999年

日本国際政治学会編 『新しいヨーロッパ—拡大EUの諸相』 有斐閣 2005年

日本国際政治学会編 『周縁からの国際政治』 有斐閣 2007年

高嶺司『日本の対中国関与外交政策』 明石書店 2016年

原貴美恵編『在外日本人研究者がみた日本外交』 藤原書店 2009年

John Baylis, Steve Smith and Patricia Owens (eds.), *The Globalization of World Politics*, OUP, 2008.

学生に対する評価

中間レポート 40点

期末レポート(小論文) 60点

合計 100点

授業科目名： 社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：玉城 福子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「社会学、経済学」 社会学、経済学（国際経済を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 社会学の基礎概念について、定義や事例を挙げることができる（知識）。</p> <p>(2) 身近な社会現象や日常生活での経験について、社会学の概念を適用することに関心を持つ（主体的意欲・態度）。</p> <p>(3) 社会学の概念を使って、社会現象や経験を説明することができる（思考力・判断力／表現力）。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>社会学は、社会や人と人とのつながりについて探求する学問である。本授業では、社会学者が取り組んできた多様なテーマを取り上げながら、現代社会の課題や複雑な社会現象がどのような仕組みで起きているのかについて考察する。基本的には講義形式だが、適宜個人ワークやグループディスカッション等を取り入れる。受講者には、講義の終わりに、授業を通じて考えたことや質問をコメントシートに書いてもらい、次回の講義のはじめに紹介・回答する時間を持つ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション（シラバスの説明・序章）</p> <p>シラバスの内容を基に、本講義の概要や目的を確認し、授業の進め方等について理解する。社会学とはどのような学問かを概観し、これから学ぶことのイメージを掴む。</p> <p>〈予習〉教科書の該当箇所を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。</p> <p>〈復習〉本授業を通じての学習目標を明確にする。講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。</p> <p>第2回：社会とは何か（第1章）</p> <p>公共空間や親密空間における人々のふるまいに関する理論や概念を学ぶ。</p> <p>〈予習〉教科書の該当箇所を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。</p> <p>〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。</p> <p>第3回：相互行為と自己（第2章）</p> <p>相互行為をキーワードにして、社会学の中で「自己」がどのように議論されてきたのかを理解する。</p> <p>〈予習〉教科書の該当箇所を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。</p>			

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第4回：社会秩序と権力（第3章） ※オンデマンド

社会秩序がどのように成り立っているのかを権力、合意、ガバナンス等のキーワードを学ぶことを通じて理解する。

〈予習〉教科書の該当箇所を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第5回：家族とライフコース（第11章）

家族に関する基礎的な分析概念を学び、家族をめぐる変化や諸問題について理解する。

〈予習〉教科書の該当箇所を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第6回：ジェンダーとセクシュアリティ（第12章）

ジェンダーやセクシュアリティに関する基礎的な分析概念を学び、ジェンダーやセクシュアリティをめぐる変化や諸問題について理解する。

〈予習〉教科書の該当箇所を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第7回：組織とネットワーク（第4章）

組織に関する基礎的な分析概念を学び、分析的な視点で身近な組織について考えることができる。

〈予習〉教科書の該当箇所を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第8回：格差と階層化（第14章）

映画を通じて、身近な暴力や貧困の問題について考える。

〈予習〉教科書の該当箇所を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第9回：文化と再生産（第15章） ※オンデマンド

文化に関する基礎的な分析概念を学び、分析的な視点で文化について考えることができる。

〈予習〉教科書の該当箇所を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第10回：環境と技術（第8章）

環境に関する社会学の基礎的な概念を学び、分析的な視点で環境について考えることができるようになる。

〈予習〉教科書の該当箇所を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第11回：メディアとコミュニケーション（第5章）

メディアとコミュニケーションに関する基礎的な概念を学び、分析的な視点でメディアとコミュニケーションについて考えることができるようになる。

〈予習〉教科書の該当箇所を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第12回：エスニシティと境界（第13章）

エスニシティに関する基礎的な概念を学び、分析的な視点でエスニシティについて考えることができるようになる。

〈予習〉教科書の該当箇所を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第13回：歴史と記憶（第6章）

日本軍「慰安婦」問題に関するドキュメンタリー映画を視聴し、人々が歴史を紡ぎだす営みについて考える。

〈予習〉教科書の該当箇所を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第14回：国家とグローバリゼーション（第10章） ※オンデマンド

国家とグローバリゼーションに関する基礎的な概念を学び、分析的な視点で国家とグローバリゼーションについて考えることができるようになる。

〈予習〉教科書の該当箇所を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第15回：社会運動と社会構想（第16章）

社会運動に関する基礎的な概念を学び、分析的な視点で社会運動について考えることができるようになる。

〈予習〉教科書の該当箇所を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

テキスト

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志（2019）〔新版〕社会学 有斐閣（3,500円＋税）。

参考書・参考資料等

池田緑編（2024）日本社会とポジショナリティ 明石書店（4,800円＋税）。

学生に対する評価

平常点 45点

期末レポート 55点

合計 100点

※平常点は毎回授業内で提出するコメントシート

- ・本授業の成績評価における秀・優・良・可・不可の意味は、全学の成績評価基準に従う。
- ・到達目標と評価方法との対応については、オリエンテーションで解説する。
- ・生成AIが生成した文章を、自分のレポートとしてそのまま提出する行為や実際には参照していない情報や論文を参考文献として記載することは認められない

授業科目名： 日本の社会	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：玉城 福子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「社会学、経済学」 社会学、経済学（国際経済を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) ジェンダー論の基礎概念について理解し、適切な事例と結びつけて説明ができる（知識）。</p> <p>(2) 日本社会で起きている社会現象について、ジェンダー論の概念を適用することに関心を持つ（主体的意欲・態度）。</p> <p>(3) ジェンダー論の概念を使って、日本社会で起きている社会現象を考察することができる（思考力・判断力／表現力）。</p>			
授業の概要			
<p>本授業では、社会学の知見を基盤にジェンダー論の視点から日本社会を読み解く。身近な人間関係（恋愛や家族）、教育、労働、国家など様々なトピックを取り上げる。基本的には講義形式だが、適宜個人ワークやグループディスカッション等を取り入れる。受講者には、講義の終わりに、授業を通じて考えたことや質問をコメントシートに書いてもらい、次回の講義のはじめに紹介・回答する時間を持つ。</p>			
授業計画			
<p>第1回：イントロダクション（シラバスの説明・ジェンダー論とは何か）</p> <p>シラバスの説明（授業の概要・成績評価の方法等）を聞き、授業の概要を理解する／ジェンダー論とは何か、これから学ぶことを概観する。</p> <p>〈予習〉教科書の該当箇所（教科書 unit0）を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。</p> <p>〈復習〉本授業を通じての学習目標を明確にする。講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。</p>			
<p>第2回：性別を捉えなおす</p> <p>ジェンダー論の基礎的な概念を学びながら、私たちが当たり前だと考えている性別がどのように作られているかを考える。</p> <p>〈予習〉教科書の該当箇所（教科書 第1章unit1～3）を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。</p> <p>〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。</p>			

第3回：日常生活とジェンダー

日常生活に着目し、ジェンダーの問題を考える。特に日常に潜む性暴力の問題について詳しく取り上げる。

〈予習〉教科書の該当箇所（教科書 第5章unit14、15）を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第4回：事例から考える デートDV編

身近な暴力であるデートDVの基礎について学び、実践的な対応策について学ぶ。

〈予習〉事例に関する情報収集を行い、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第5回：家族とジェンダー

近代社会を構成するシステムの1つとして家族を捉え、家族におけるジェンダーのあり方を学ぶ。

〈予習〉教科書の該当箇所（教科書 第2章unit4～6）を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第6回：教育とジェンダー

他の組織と比較するとジェンダー平等概念が浸透している学校の中で、ジェンダーがどのように作り上げられているのかを学ぶ。

〈予習〉教科書の該当箇所（教科書 第4章unit11～13）を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第7回：身体とジェンダー①

人を「男」と「女」に二分する力が、人々の生にどのように影響しているのかを学ぶ。特に、性と生殖に関する権利、売買春、セックスワーク、ポルノグラフィについて取り上げる。

〈予習〉教科書の該当箇所（教科書 第7章unit20、21）を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第8回：身体とジェンダー②

前回に引き続き、人を「男」と「女」に二分する力が、人々の生にどのように影響しているのかを学ぶ。特に、クィアとトランスジェンダーについて取り上げる。

〈予習〉教科書の該当箇所（教科書 第7章unit22）を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第9回：事例から考える LGBT編

セクシュアリティをめぐる問題を取り上げた映画を視聴し、LGBTなど性的少数者をめぐる問題について理解を深める。

〈予習〉事例に関する情報収集を行い、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第10回：労働とジェンダー①

労働とジェンダーの問題について考える。特に女性の労働と賃金格差、職場慣行について取り上げる。

〈予習〉教科書の該当箇所（教科書 第3章unit7、8）を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第11回：労働とジェンダー②

前回に引き続き、労働とジェンダーの問題について考える。特に、ライフスタイル、無償労働、ケアワークについて取り上げる。

〈予習〉教科書の該当箇所（教科書 第3章unit9、10）を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第12回：国家とジェンダー①

女性と政治をめぐる歴史や戦時性暴力の問題について考える。

〈予習〉教科書の該当箇所（教科書 第6章unit16、17）を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第13回：事例から考える 戦時性暴力編

戦時性暴力の1つである日本軍「慰安婦」制度について学ぶ。

〈予習〉事例に関する情報収集を行い、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第14回：国家とジェンダー②

日本の女性の政治参加率に関する問題と国際開発をめぐる問題について学ぶ。

〈予習〉教科書の該当箇所（教科書 第6章unit18、19）を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

第15回：フェミニズムとジェンダー

フェミニズムの歴史とフェミニズムがめざすものについて考える。

〈予習〉教科書の該当箇所（教科書 第8章unit23、24）を通読し、全体像を掴み、分からない語句は調べておく。

〈復習〉講義で習ったことを身近な社会現象や日常生活での経験に引き付けて考察する。

テキスト

千田有紀・中西裕子・青山薫（2013） ジェンダー論をつかむ 有斐閣（1,900円＋税）。

参考書・参考資料等

池田緑編（2024） 日本社会とポジショナリティ 明石書店（4,800円＋税）。

学生に対する評価

平常点 45点

期末レポート 55点

合計 100点

※平常点は毎回授業内で提出するコメントシート

- ・ 本授業の成績評価における秀・優・良・可・不可の意味は、全学の成績評価基準に従う。
- ・ 到達目標と評価方法との対応については、オリエンテーションで解説する。
- ・ 生成AIが生成した文章を、自分のレポートとしてそのまま提出する行為や実際には参照していない情報や論文を参考文献として記載することは認められない。

授業科目名： 中南米の社会	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：上原なつき
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「社会学、経済学」 社会学、経済学（国際経済を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①ラテンアメリカの政治・経済へのアメリカ合衆国の影響を理解する。</p> <p>②地域統合によって国家間の協力関係がどのように結ばれているのかを理解する。</p> <p>③貧困、経済格差、民族問題など国内の事情とイデオロギーがどのように結びつき、政治・経済に影響を与えているのかを理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ラテンアメリカはアメリカ合衆国の影響からいち早く新自由主義経済化が進んだが、貧困、経済格差、先住民運動などを背景に、新自由主義に対抗し左派政権が台頭する国々もある。また、ラテンアメリカ諸国の地域統合も多様化しており、国家間の連帯も重視している。本講義ではラテンアメリカの政治、経済、社会問題について学び、当該地域の現状を考察する。</p> <p>本科目は講義形式で行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： ガイダンス</p> <p>第2回： 植民地支配・独立・革命</p> <p>第3回： グローバリズムと新自由主義</p> <p>第4回： 軍事政権と新自由主義の登場</p> <p>第5回： 社会運動の激化</p> <p>第6回： ポスト新自由主義としての左派政権</p> <p>第7回： 社会運動と国家</p> <p>第8回： 地域統合の始まり</p> <p>第9回： 地域統合の多元化</p> <p>第10回： ラテンアメリカの先住民</p> <p>第11回： 20世紀の先住民運動</p> <p>第12回： 経済のグローバル化と国際分業</p> <p>第13回： グローバル化と格差</p> <p>第14回： 在米ラテンアメリカ移民</p> <p>第15回： まとめ</p>			

定期試験は行わない

テキスト

後藤政子・山崎圭一編著 2017年『ラテンアメリカはどこへ行く』ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

松下洋・乗浩子編 2004年『ラテンアメリカ政治と社会』新評論、

ラテン・アメリカ政経学会編 2014年『ラテン・アメリカ社会科学ハンドブック』新評論

学生に対する評価

授業参加態度・リアクションシート 30点

中間課題 25点

期末課題 45点

合計 100点

授業科目名： 沖縄の地域史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：中田耕平 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「社会学、経済学」 社会学、経済学（国際経済を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 多様な事項を記録、記述してきた沖縄の地域史を学ぶことで、沖縄の歴史・社会背景、地域 的特性が理解できる。地域社会、住民にとって「歴史」を記録し学ぶことの意義を理解できる。			
授業の概要 沖縄本島中部を中心とした地域史編さんに関わる様々な事例から地域史の特異性や多様性を 学び、その意義を掴むことで、それらの成果を地域学習に活かす能力を養う内容である。			
授業計画 第1回：イントロダクション；地域史とは？なぜ沖縄は地域史編さんが盛んなのか？ 第2回：沖縄県における地域史編さんの歴史①萌芽～「沖縄学」とは？ 第3回：沖縄県における地域史編さんの歴史②地域史編さん事業の隆盛と現在 第4回：多種多様な沖縄の「地域史」―自治体史各編・字誌を事例に 第5回：「沖縄戦」を記録すること・学ぶことの意味① 地域史から学ぶ「沖縄戦」 第6回：「沖縄戦」を記録すること・学ぶことの意味② 地域史と平和学習 第7回：「戦後」を記録する意味― 地域史から現在的問題を考える 第8回：移民史からみる地域の歴史―移民から社会背景を読み解く 第9回：地域史編さんと交流事業：世界のウチナーンチュネットワーク構築 第10回：地域史編さんと公文書― 公文書と史資料の保存・管理 第11回：地域史編さんとデジタルアーカイブ― その利活用と課題 第12回：地域史編さんとレファレンス― 地域住民や研究者との応答・連携 第13回：地域史編さんとアウトプット① 文化や歴史の普及（ガイドマップ作成を事例に） 第14回：地域史編さんとアウトプット② 地域住民とともに編む。地域学習の意義 第15回：地域史編さんの未来。その需要と展望			
期末試験			
テキスト 授業内容に応じて資料を適宜配布する。			
参考書・参考資料等 適宜授業内で紹介する。			

学生に対する評価

期末試験：55点。 平常点45点（15回×3点。出席と授業内課題）

授業科目名： 経済学総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮平栄治 担当形態：単独																														
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）																																
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「社会学、経済学」 社会学、経済学（国際経済を含む。）																																
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>経済学の到達目標は3点です。①他の社会科学系科目と経済学の違いを学びます。②経済学の基礎科目であるミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を方法論の違いから理解します。ミクロ経済学を動かす最小単位の分析であるのに対し、マクロ経済学は一国全体から分析を行います。③一国の経済活動の動き影響を与える政府と国際経済の基礎を学びます。政府経済活動は各種の法的規制や制度、税や補助金で社会秩序の安定と人々の暮らしの向上を目的とします。国際経済では、日本の通貨である円と外国通貨の交換比率(外国為替)の変化や経済活動の基礎である資本の流出入、技術変化などが日本の経済へどのように影響するのかを理解できるようにします。</p>																																	
<p>授業の概要</p> <p>経済学総論は講義形式による授業を行います。経済学総論では、経済は、私たちの日々の暮らしや将来の生活設計に関連していることを学びます。例えば、私たちの生活に欠かせない所得は国民総生産(GDP)と関連しています。GDPが安定的であれば問題はないのですが、何らかのショックで変化します。GDPが変化するのは、需要と供給の不一致、予測の失敗による売れ残り(意図しない在庫)の拡大があります。そして、GDPの変化の生活に与えるダメージには、失業、貧困、物価上昇(インフレーション)や物価下落(デフレーション)などがあります。講義ではこれらの経済現象の原因と影響を構造化し、経済の動きと生活の関連性を学びます。</p>																																	
<p>授業計画</p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>：経済学と他の社会科学との相違</td> <td>準備学習</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>：経済合理性と経済非合理性</td> <td>pp.2-15</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>：ミクロ経済学の基礎Ⅰ 分業の利益</td> <td>pp.19-25</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>：ミクロ経済学の基礎Ⅱ 分業の利益と比較優位</td> <td>pp. 26-32</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>：ミクロ経済学の基礎Ⅲ 需要曲線と供給曲線</td> <td>pp.34-48</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>：ミクロ経済学の基礎Ⅳ 価格メカニズム</td> <td>pp.49-64</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>：ミクロ経済学の基礎Ⅴ 市場の効率性と余剰分析</td> <td>pp.65-81</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>：ミクロ経済学の基礎Ⅵ 市場の失敗</td> <td>pp.83-98</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>：ミクロ経済学の基礎Ⅶ 市場の限界</td> <td>pp.99-113</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>：ミクロ経済学の基礎Ⅷ 労働市場の機能と限界</td> <td>pp.115-132</td> </tr> </table>				第 1 回	：経済学と他の社会科学との相違	準備学習	第 2 回	：経済合理性と経済非合理性	pp.2-15	第 3 回	：ミクロ経済学の基礎Ⅰ 分業の利益	pp.19-25	第 4 回	：ミクロ経済学の基礎Ⅱ 分業の利益と比較優位	pp. 26-32	第 5 回	：ミクロ経済学の基礎Ⅲ 需要曲線と供給曲線	pp.34-48	第 6 回	：ミクロ経済学の基礎Ⅳ 価格メカニズム	pp.49-64	第 7 回	：ミクロ経済学の基礎Ⅴ 市場の効率性と余剰分析	pp.65-81	第 8 回	：ミクロ経済学の基礎Ⅵ 市場の失敗	pp.83-98	第 9 回	：ミクロ経済学の基礎Ⅶ 市場の限界	pp.99-113	第 10 回	：ミクロ経済学の基礎Ⅷ 労働市場の機能と限界	pp.115-132
第 1 回	：経済学と他の社会科学との相違	準備学習																															
第 2 回	：経済合理性と経済非合理性	pp.2-15																															
第 3 回	：ミクロ経済学の基礎Ⅰ 分業の利益	pp.19-25																															
第 4 回	：ミクロ経済学の基礎Ⅱ 分業の利益と比較優位	pp. 26-32																															
第 5 回	：ミクロ経済学の基礎Ⅲ 需要曲線と供給曲線	pp.34-48																															
第 6 回	：ミクロ経済学の基礎Ⅳ 価格メカニズム	pp.49-64																															
第 7 回	：ミクロ経済学の基礎Ⅴ 市場の効率性と余剰分析	pp.65-81																															
第 8 回	：ミクロ経済学の基礎Ⅵ 市場の失敗	pp.83-98																															
第 9 回	：ミクロ経済学の基礎Ⅶ 市場の限界	pp.99-113																															
第 10 回	：ミクロ経済学の基礎Ⅷ 労働市場の機能と限界	pp.115-132																															

第 11 回：マクロ経済学の基礎Ⅰ	国内総生産(GDP)の仕組み	pp.135－148
第 12 回：マクロ経済学の基礎Ⅱ	GDP の決定要因	pp.149－163
第 13 回：マクロ経済学の基礎Ⅲ	消費・投資と GDP への影響	pp.165－178
第 14 回：マクロ経済学の基礎Ⅲ	貨幣量変動と GDP への影響	pp.179－194
第 15 回：政府の経済活動(財政)と経済への影響		pp.195－212
第 16 回：国際経済と経済への影響		pp.213－227
期末テストは実施しない。		

テキスト

中谷武・中村保編集(2010 碩学社) 『1からの経済学』 2,640円

参考書・参考資料等

永田良・荻沼隆・荒木一法著(2019 東洋経済新報社) 『標準ミクロ経済学－第2版』 3,520円

二神孝一・堀敬一著(2017 有斐閣) 『マクロ経済学－第2版－』 3,520円

ダロン・アセモグル/デヴィッド・レイブソン/ジョン・リスト著 岩本康志監訳(2019 東洋経済新報社) 『マクロ経済学』 4,180円

池宮城秀正編集(2019 ミネルヴァ書房) 『財政学』 2,640円

井堀利宏(2013 新世社) 『財政学－第4版－』 2,530円

沼尾波子他著(2017) 『地方財政を学ぶ』 2,640円

土居丈朗著(2018 日本評論社) 『入門公共経済論－第2版－』 3,190円

大川良文(2019 中央経済社) 『入門国際経済学』 3,190円

学生に対する評価

講義開始直後に行う15回のアチーブメントテスト(10点満点)の合計点で経済学総論の成績を評価します。

授業科目名： 哲学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：林由貴子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学」 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 授業中に学んだ哲学的思考構造を応用し、様々な社会的問題を批判的に検討、分析し、物事を多角的に捉えられるようになる。			
授業の概要 「哲学」とは何だろうか。「哲学」はギリシャ語で「知を愛する」という意味である。では「知を愛するとはどういうことだろう。既存の常識にとらわれず、常に問いかける姿勢が、哲学する（知を愛する）ことへとつながる。本授業は、現代の社会課題にも目を配りながら、「考えること」、「生きること」などの様々な哲学の中心的な問題について、それらに対峙してきた哲学者たちの考え方を学びつつ、自身でも「哲学する」ことを目指す。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業の進行、授業準備や評価等の説明。） 第2回：古代：哲学とは何か。 ソクラテス、プラトン 第3回：古代：人間とは何か。 アリストテレス 第4回：中世：「オッカムの剃刀」 オッカム 第5回：近世：「我思う、ゆえに我あり」 デカルト 第6回：近世：「万人の万人に対する闘争」 ホッブズ 第7回：近代：人間はいかに認識するか。 カント 第8回：近代：理性とは何か。 カント2 第9回：近代：人はどう生きる（べき）か。 カントとショーペンハウアー 第10回：近代：倫理学とは何か。 ショーペンハウアー2 第11回：現代：科学哲学とは何か。 ポパー、クーン 第12回：現代：「人間の条件」 アーレント 第13回：現代：「消費社会の神話と構造」 ボードリヤール 第14回：現代：自由とは何か。 フロム 第15回：まとめ			
テキスト 各資料は適宜、授業準備に必要な箇所を講師よりデータで配布する。			
参考書・参考資料等			

特になし
学生に対する評価
中間レポート 50点
期末レポート 50点
合計 100点

授業科目名： 倫理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：石川 知輝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学」 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：倫理学入門 古典的テーマから現代的トピックまで</p> <p>到達目標：倫理学の基本的な概念についての包括的な理解を得るとともに、現代の社会や個人を取り巻く問題について倫理学に基づいた問いと思考を自ら育む態度と能力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>『プレップ倫理学』を教科書とし、いくつかのトピックを追加して、倫理学の古典的問題から、現代において差し迫った課題となっている問題まで幅広くカバーする。それにより、受講者の一人一人が倫理的課題に直面した時に自ら問いを立てて思考するための「型」を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション・幸福</p> <p>授業計画の説明をするとともに、そもそも倫理学とはどのような学問なのか、哲学と倫理学は何が違うのか、といった問題を扱う。また、「人間は誰でも幸福を求める」という古典的な命題が、長らく倫理学の基礎に置かれてきた。幸福とは何か、という問題に加え、幸福によって道徳を基礎付ける幸福主義の倫理学について概観する。</p> <p>第2回：義務</p> <p>幸福主義と並ぶ倫理学の潮流が義務論、すなわち「なすべきことをなす」ことが道徳の原理であるとする立場である。カントに代表されるこの立場の倫理学を概観する。</p> <p>第3回：徳</p> <p>さらにもう一つの主要な潮流が、アリストテレスに端を発する「徳倫理学」である。「何をするか」よりも個人の道徳的発達を重視するこの立場は現代まで多大な影響を与えている。</p> <p>第4回：道徳判断</p> <p>倫理学が問題として表面化するの、個別具体の道徳的判断を迫られる場面である。道徳的判断は理性的なのか感情的なのか、といった問題を通して道徳判断についての考えを深める。</p> <p>第5回：道徳</p>			

我々が日常的に使う「道徳」という言葉はどのような意味なのだろうか。古代から絶えない道徳批判と合わせて、道徳とは何か、道徳は必要なのかといった問題に取り組む。

第6回：愛

愛は日常の様々な場面で感じられる強烈な経験であるとともに概念としてとても漠然としている。愛を根本狭義とするキリスト教の倫理学やプラトンのエロース論などの古典的な愛の議論を概観する。

第7回：自己と他者

他者とどう関わるべきかという問題は古くから人間の関心事だったが、近代になって「自己」という概念が確立すると新たな展開を迎える。近代以降の自己と他者の関わりについて概観する。

第8回：個人と社会

アリストテレスが「人間はポリスの動物である」と言って以来、個人と社会をめぐる問題は重要なものであり続けた。社会契約説からフーコーの権力論まで、様々な社会理論を概観する。

第9回：正義、自由、平等

正義は重要な倫理学の問題であるが、近頃は「それぞれの正義」などと相対化する言説が散見される。ここでは正義についての古典的定義からロールズの正義論までを概観し、それに付随する自由や平等の問題も扱う。

第10回：ケアの倫理学

正義を重視する古典的な倫理学に対抗して、近年注目を集めるのがケアの倫理学である。生きる現場の中で「気遣う」という現象に注目する新しい潮流の展開を追いかける。

第11回：医療・生命倫理

病気を患い、いずれ死ぬという我々の定めと切り離せないのが、医療と生命の倫理である。中には人工中絶問題のように政治を動かす力まで持つこの分野について考察する。

第12回：環境倫理と動物倫理

人間が自然環境を変える力を持ってしまった現代、温暖化をはじめとする環境問題に対して倫理学は何ができるのか。人間が動物に対して行使してきた特権性は擁護できるのか。以上のような問題を考察する。

第13回：科学技術と倫理

科学技術の倫理的側面は、ハイデガーなどの古典的議論から、AIをめぐる最新の問題まで厚い蓄積がある。ここでは科学技術がもたらす様々な倫理的課題を幅広く見渡して考察する。

第14回：ビジネスの倫理

ビジネスが単なる利益追求で完結するという見方は見直しが迫られている。ここではエシカル（倫理的）消費や企業の社会的責任といった問題を通して日常的な生産・消費行動の見直しを図る。

第15回：戦争の倫理

ロシアのウクライナ侵攻やガザでの紛争といった問題は、冷戦後の現代でも戦争が持つ倫理的課題があることを明らかにした。「正戦論」と呼ばれる議論に触れることで、戦争について倫理的に考える視座を得ることを目指す。

テキスト

柘植尚則（2021）『プレップ倫理学 増補版』弘文堂.

参考書・参考資料等

とくになし

学生に対する評価

オンライン講義であるため期末試験という形では公平な判断が難しいので、期末レポート（2000字程度の予定）を課す。また、出席点は課さず、毎回の授業後にリアクションペーパーの提出を求める。配分は以下の通り。

リアクションペーパー 合計48点（1回あたり3点相当。あとで録画を見て提出しても構わない）

期末レポート 52点

計 100点

授業科目名： 比較宗教学論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：坪井 祐司 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学」 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的な宗教に関する基礎的な知識を習得する。 ・ 各宗教を比較することを通じて、宗教間の共通性や違いについて説明できるようになる。 ・ 各宗教の持つ特徴を踏まえたうえで、現在の起こっている宗教をめぐる問題について自分の意見を述べる力をつける。 			
授業の概要			
<p>世界各地で信仰されている宗教を比較することで、それぞれの特質を明らかにする。各宗教の教義の概要やなりたち、発展の歴史、さらには現代社会における状況などについて、複数の宗教間の関係や比較の視点を織り交ぜながら解説する。教義の違いというだけではなく、宗教を取り巻く社会状況も含めた広い視野からみることで、現代社会における宗教問題に対する理解を深めるとともに、宗教とはなにかについて考える。</p>			
授業計画			
第1回 イン트로ダクション			
講義の進め方や概要を説明する。宗教とは何かについて、自らの考えを整理してみる。			
第2回 宗教の成り立ち			
宗教の成り立ちについて説明する。人間は太古の昔から、自然現象や死など、さまざまな事象に畏敬の念を持ち、それを儀礼などの行動で示してきた。そうした宗教として明確な形をとらない信仰や慣習が現在でも一定の影響をもっていることをふまえて、改めて宗教とは何かを考える。			
第3回 ユダヤ教 (1)			
ユダヤ教の教義と成立の背景について説明する。唯一無二の創造主である神と人間が契約を結ぶという一神教のあり方を理解し、ユダヤ教の世界観について学ぶ。ユダヤ教がユダヤ民族の歴史とかわりながら成立してきたことを学ぶ。			
第4回 ユダヤ教 (2)			
近現代のユダヤ教をめぐる問題について学ぶ。現在のイスラエルがユダヤ人のナショナリズムであるシオニズムの運動の結果成立したこと、それが同時にパレスチナにおけるアラブ人のナショナリズムを否定する形で起こったことを踏まえ、現在のパレスチナ問題について考える。			
第5回 キリスト教 (1)			
キリスト教の教義と拡大の過程について説明する。キリスト教は、イエスによるユダヤ教の改革運動			

の中で成立し、ユダヤ教と世界観を共有しつつも救済の対象をユダヤ民族以外にも広げたことで普遍性を獲得したことを理解する。同時に、キリスト教が拡大とともに宗派の分裂を繰り返したことを学ぶ。

第6回 キリスト教 (2)

キリスト教における宗教改革（カトリックとプロテスタント）について解説する。宗教改革により成立したプロテスタントとカトリックの教義や世界観の違いを理解し、宗教改革がキリスト教世界にどのような変化をもたらしたのかについて考える。

第7回 イスラム教 (1)

イスラム教の教義と拡大の過程について解説する。ユダヤ教、キリスト教と比較しながら一神教としてのイスラム教の特徴をとらえるとともに、イスラム教の戒律が法学者の解釈の積み重ねによって定まることを学び、現在も更新され続けるイスラム教の動的なあり方を理解する。

第8回 イスラム教 (2)

近現代のイスラム教をめぐる問題について説明する。ヨーロッパに対抗するなかで出現したイスラム改革思想から現在の急進的なイスラム主義へとつながる系譜を学び、欧米でのテロや中東の紛争のイメージをもたれがちな現代のイスラム教についてあらためて考える。

第9回 ヒンドゥー教

ヒンドゥー教の教義とインドの社会における役割について解説する。これまで扱ってきた一神教とは異なる多神教の世界観を学び、ヒンドゥー教がインドの文化と様々な形で結びついていることを理解する。それとともに、インドにおけるヒンドゥー教とイスラム教の関係についても触れる。

第10回 仏教 (1)

仏教の教義と成立の過程を説明する。ヒンドゥー教と比較しながら仏教の特徴を整理するとともに、仏教が二つの宗派に分かれて東アジア、東南アジアに伝播する過程を学ぶ。後半は上座部仏教をとりあげ、出家者の役割に注目しながら東南アジアの仏教社会について解説する。

第11回 仏教 (2)

大乘仏教についてとりあげ、上座部仏教と比較しながら、その世界観について学ぶ。大乘仏教が伝播した中国、そして日本における仏教の歴史や宗派ごとの違いについて理解し、東アジア社会において仏教が果たした役割について考える。

第12回 中国の宗教

中国における宗教の特徴について説明する。三教といわれる仏教、儒教、道教のうち、とくに儒教と道教を取り上げ、両者が中国社会における民間信仰や行動規範に影響を与えていることを学ぶとともに、朝鮮など東アジアの多くの地域でも共有されていることを理解する。

第13回 日本の宗教

日本社会における宗教について説明する。神道の世界観や歴史を学ぶとともに、それが仏教などの外来宗教と混交することで日本の宗教のあり方について理解を深める。また、日本の中でも独自の歴史と宗教世界を持つ沖縄の宗教についてもとりあげて解説する。

第14回 近代社会における宗教

近代社会における宗教の役割について考える。近代は政教分離の原則が確立し、脱宗教化が進んだとされるが、宗教が完全に衰退したわけではない。近代以降の宗教学の歴史をたどりながら、あらためて現在の視点から宗教を見ることの意義を考える。

第15回 まとめ 全体の内容のまとめを行う。

期末試験**テキスト**

教科書は使用しない。授業ではパワーポイントスライドを使用する。

参考書・参考資料等

参考文献は、講義中に提示する。授業で使用するスライドは、事前に配布するので、予習として目を通しておくこと。

学生に対する評価

- ・ 授業への取り組み（授業内提出の課題）：40点
- ・ 中間レポート：20点
- ・ 期末試験：40点

授業科目名： 日本の宗教	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：長崎 健吾 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学」 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 日本における宗教の歴史について体系的な理解を獲得し、それが現在の自分や社会とどのようにつながっているのか説明できるようになることを目指す。			
授業の概要 日本における宗教の歴史について、特に社会との関係に注目しながら概観していく。古代から近現代に至るまで日本社会に深く浸透してきた仏教を軸として、仏教需要と神祇信仰の関係、戦国期におけるキリスト教の伝来、近世儒学と国学・心学などを取り上げる。社会との関係を見ていくにあたっては宗教が社会に浸透する媒介としての布教活動、および死者の追善や葬送において宗教が果たしてきた役割を重視する。社会のなかで仏教が占めてきた位置を全体的な流れのなかで説明することを重視するとともに、各授業回ではその時代に現れた宗教を代表するテキストや事例を取り上げ、具体的なイメージを持って理解できるようにする。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回： 仏教伝来 第3回： 神仏習合 第4回： 鎌倉時代の仏教 第5回： 戦国時代の仏教 第6回： キリスト教の伝来 第7回： 家と先祖崇拜 第8回： 近世の宗教統制 第9回： 国学 第10回： 石門心学 第11回： 明治期の宗教政策 第12回： 近代の神道 第13回： 近代の仏教 第14回： 近代のキリスト教思想 第15回： 現代日本と宗教 期末試験は実施しない			

テキスト

なし。資料は基本的に講義ごとにレジュメを配布する。

参考書・参考資料等

- ・末木文美士『日本宗教史』、岩波書店、2006年
- ・安満利麿『日本人はなぜ無宗教なのか』、筑摩書房、1996年

学生に対する評価

平常点（リアクションペーパーの提出）	30点
期末レポート	70点
合計	100点

授業科目名： アジアの宗教	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：坪井 祐司 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学」 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東南アジア諸地域の宗教に関する基礎的な知識を習得する。 ・ 東南アジアの宗教に関連する諸事象について、自分の言葉で説明できるようになる。 ・ 宗教に着目することで、宗教を取り巻く東南アジア社会全体に対する理解を深める。 			
<p>授業の概要</p> <p>東南アジアを中心としたアジアにおける宗教について、教義、歴史、国家との関係、人々の生活とのかかわりなど、多面的に解説する。東南アジアでは、仏教、イスラム教、キリスト教といった世界的な宗教が混在することにくわえて、土着の多様な信仰が根付いており、重層的な構造を持っている。授業では、東南アジア各地の宗教状況について概観し、それぞれの地域社会についての理解を深めるとともに、宗教からみた東南アジア地域の社会の多元性について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 イン트로ダクション 講義の進め方や概要を説明する。現在の東南アジアを構成する11か国について、民族、宗教、言語などの面から特徴を紹介する。</p> <p>第2回 東南アジアの基層文化と宗教 地域としての東南アジアに共通してみられる基層文化について解説する。地理的な空間としての東南アジアでは、熱帯の豊かな自然環境に対応した生活文化が共有されており、そこには精霊信仰などの宗教的な要素が含まれていることを理解する。</p> <p>第3回 ベトナムの宗教（1） ベトナムにおける伝統的な宗教について学ぶ。歴史的に東アジア世界の一部をなし、中国からの影響の強いベトナムでは、土着の基層文化に中国からの仏教、儒教、道教といった宗教が混交するかたちで独自の宗教が形成されたことを理解する。</p> <p>第4回 ベトナムの宗教（2） 近現代におけるベトナムにおける宗教について解説する。現在のベトナムにおける宗教の状況は、フラ</p>			

ンスによる植民地化にともなうキリスト教の進出、独立後の社会主義体制による宗教の統制など、歴史を通じて変化してきたことを学ぶ。

第5回 東南アジアの仏教（1）

東南アジアの仏教について扱う。インドにおける仏教の成立と上座部と大乘という二つの宗派について学ぶ。そして、仏教の東南アジアへの伝播について、古代の「インド化」と呼ばれる現象の中で、インドの宗教がヒンドゥー教、仏教を問わず東南アジアに広まっていったことを解説する。

第6回 東南アジアの仏教（2）

東南アジアにおける仏教の展開について、タイとラオスを取り上げつつ解説する。タイやラオスでは、王権と上座部仏教が結びつくことで社会に定着したことを学ぶ。上座部仏教社会では、出家者と在家信者が相互に支え合う構造になっていることを理解する。

第7回 東南アジアの仏教（3）

主に近現代の東南アジアにおける仏教について、ミャンマー、カンボジアを取り上げつつ解説する。ミャンマーでは、植民地統治に対抗するナショナリズムのなかで仏教がアイデンティティの中核となったことを学ぶ。カンボジアでは、内戦からの復興における仏教の役割について考える。

第8回 東南アジアのイスラム教（1）

東南アジアのイスラム教について扱う。中東で成立したイスラム教の特徴について、一神教の世界を中心に学ぶ。そして、イスラム教の東南アジアへの伝播について、スーフイズムという形態に注目しながら、多神教的な基層文化を持つ東南アジアにイスラム教が定着した背景について考える。

第9回 東南アジアのイスラム教（2）

東南アジアにおけるイスラムの歴史的展開について解説する。イスラム教は海上交易を通じて伝播しており、王権が受容することで東南アジア島嶼部一帯に普及した。その後はヨーロッパ勢力の植民地統治を受けるが、ムスリムのネットワークは維持されていたことを学ぶ。

第10回 東南アジアのイスラム教（3）

現在の国家（インドネシア、マレーシア）におけるイスラム教について扱う。植民地化からの独立にあたり、イスラム国家を樹立しようとする動きがみられたこと、その後も「イスラム化」と呼ばれるイスラムの強まりがみられるなど、現代もイスラム教が影響を持ち続けていることを理解する。

第11回 島嶼部東南アジアの多宗教社会

島嶼部東南アジアは民族的な多様性が大きいことをふまえて、イスラムと他の宗教の共存のあり方につ

いて学ぶ。シンガポールやマレーシアでは中国系やインド系住民がマレー人ムスリムと一つの社会を形成しており、それぞれが独自性を保ちながら共生する仕組みについて考える。

第12回 東南アジアのキリスト教（1）

東南アジアのキリスト教について扱う。キリスト教の特徴および東南アジアへキリスト教が伝播する過程について学ぶ。最もキリスト教徒が多いフィリピンについて、スペインの統治とともに布教が進んだこと、土着の信仰との混交によりフォーク・カトリシズムと呼ばれる状況が生じたことを理解する。

第13回 東南アジアのキリスト教（2）

東南アジア各国におけるマイノリティとしてのキリスト教について解説する。フィリピン以外の各国でも、植民地期に宣教団が入ったこともあり、少数派ながらキリスト教徒が存在し、その影響力は無視できない。キリスト教徒の社会的地位や多数派宗教との関係性について理解を深める。

第14回 東南アジアにおける国家と宗教

これまでみてきた東南アジア各地の事例をふまえつつ、王権や国家との関係性に注目して、東南アジアにおける宗教の社会的な影響について考える。

第15回 まとめ。全体の内容のまとめを行う。

テキスト

教科書は使用しない。授業ではパワーポイントスライドを使用する。

参考書・参考資料等

参考文献は、講義中に提示する。授業で使用するスライドは、事前に配布するので、予習として目を通しておくこと。

学生に対する評価

- ・ 授業への取り組み（授業内提出の課題）：40点
- ・ 中間レポート：20点
- ・ 期末レポート：40点

授業科目名： 社会科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員名： 大城 ともみ 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校社会科で育成を目指す資質・能力について理解し、現行中学校学習指導要領における中学校社会科の目標・内容、教科指導の在り方などについて理解するとともに、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法の基礎を身につける。			
授業の概要 社会科教育の主な理論と中学校社会科の目標・内容（中学校学習指導要領）、授業づくりなどの基礎を学ぶ。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 社会科とはどのような教科かを理解する。 第2回：中学校社会科の歴史（変遷） 第3回：現行学習指導要領の特色 －現行学習指導要領社会科が求めていることは何か、どう実現するか－ 第4回：社会科の学力と各分野の目標 －社会科は公民的資質をどのように育成しようとするか－ 第5回：地理的分野の目標及び内容構成について(学習指導要領・教科書) 第6回：中学校地理的分野での授業実践の紹介 ② 第7回：中学校地理的分野での授業実践の紹介 ③ 第8回：地理実践①身近な地域調査（事前学習） テーマパークジャングリアから観光についての調査（案） ○大学周辺の地図からグループを作り調査テーマ・調査内容等を考える。役割分担 ○調査の方法も学ぶ。 第9回：地理実践②身近な地域調査 ○各グループで地域調査を実施する。 第10回：－テーマパークジャングリアから観光についての授業づくり－ 地域調査から、現状把握（良い点、課題点等）を踏まえたまとめ→発表 第11回：歴史的分野の目標及び内容構成について（学習指導要領・教科書） 歴史的分野での授業実践の紹介① 第12回：歴史的分野での授業実践の紹介② 第13回：歴史的分野での授業実践の紹介③			
		実際、学生を前に担当教員による模擬授業を実施。 教材での工夫等の説明を行う。 ICT活用の紹介 学習評価	
		学生を前に担当教員による模擬授業を実施。 教材での工夫等の説明を行う。 (ICT活用の紹介) 学習評価	

第14回：歴史実践①沖縄戦における名護市の状況を把握。（事前学習）

第15回：名護市戦跡巡り（場所等は、要検討）

第16回：歴史実践②沖縄戦における名護市の状況を把握し、平和発信についての授業づくり（案）
各班で授業作りをシェアする。

第17回：公民的分野の目標及び内容構成について

公民的分野での授業実践の紹介①

第18回：公民的分野での授業実践の紹介②

第19回：公民的分野での授業実践の紹介③

学生を前に担当教員による模擬授業を実施。
教材での工夫等の説明を行う。
(ICT活用の紹介) 学習評価

第20回：公民実践①多文化共生社会を創造するにはどうしたらよいか？（案）

名護市に住む外国人労働者を招いて現状を把握する。インタビュー
多文化共生社会を創造するにはどうしたらよいか検討会実施。

第21回：公民実践② 地方自治 名護市の課題をグループであげさせ解決策を考えた後発表する。

第22回：社会科の学習指導の方法についてのまとめ。

第23回：地理実践（地域調査）から学習指導案を作成しよう。

第24回：自分が作成した学習指導案をグループで発表し仲間からアドバイスをもらう。

第25回：歴史実践（地域調査）から学習指導案を作成しよう。

第26回：自分が作成した学習指導案をグループで発表し仲間からアドバイスをもらう。

第27回：公民実践から学習指導案を作成しよう。

第28回：自分が作成した学習指導案をグループで発表し仲間からアドバイスをもらう。

第29回：教育現場の実際

第30回：まとめ

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）、中学校学習指導要領解説社会編（平成29年告示 文部科学省）

中学校学習指導要領 中学校教科書（地理・歴史・公民）

参考書・参考資料等

学生に対する評価

・各分野ごとの授業づくり案（40%）、毎回の発言・レポート（30%）、小テスト（30%）の計100%

・毎回求める発言とレポートは、理解したこと、疑問や気づき、意見したこと等を整理できているかどうかを評価する。

・小テストでは、社会科に関する学習理論、授業構成等についての基本的な知識の理解ができているかどうかを評価する。

授業科目名： 社会科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員名：島袋 ゆい 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 実践事例分析等を通して、質の高い授業とは何かを考え、授業づくりにいかす。</p> <p>2. 生徒の深い学びを促すためのアクティブ・ラーニングの手法やICT機器への操作方法への理解を深める。</p>			
授業の概要			
<p>本授業では、実践事例の分析、授業方法の習得、学習指導案の作成、模擬授業等の作業を通して、中学校社会科において社会認識の形成と多文化共生社会の担い手としての市民性の育成をめざす実践的な授業づくりを行う。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（シラバス及び評価方法の説明、良い社会科の授業とは？）			
第2回：社会科で育てる人間像とは？			
第3回：社会科の方法原理			
第4回：社会科の学力と評価の理論①（社会科の学力とは？）			
第5回：社会科の学力と評価の理論②（評価の方法）			
第6回：授業づくりの方法①（アクティブ・ラーニングの手法）			
第7回：授業づくりの方法②（アクティブ・ラーニングの実践—貿易ゲームを通して—）			
第8回：授業づくりの方法③（ICT機器の利用—さまざまなツールを授業づくりにいかす—）			
第9回：実践事例の分析①（長岡文雄の授業実践から）			
第10回：実践事例の分析②（有田和正の授業実践から）			
第11回：実践事例の分析③（安井俊夫の授業実践から）			
第12回：実践事例の分析④（河原和之の授業実践から）			
第13回：実践事例の分析⑤（加藤公明の授業実践から）			
第14回：実践事例の分析⑥（石川照子の授業実践から）			
第15回：実践事例の分析⑦（梅津正美の授業実践から）			
第16回：地理実践①、指導案作成①～主題の設定、身につけさせたい力～			
第17回：地理実践②、指導案作成②～配慮が必要な生徒の意欲を高める工夫～			
第18回：地理実践③、模擬授業～授業を見る観点～			
第19回：地理実践④、模擬授業を終えて～改善に向けた取り組み、評価の方法と実践			
第20回：歴史実践①、指導案作成①～主題の設定、学習の過程～			
第21回：歴史実践②、指導案作成②～調べ方、史料の所蔵場所について～			

第22回：歴史実践③、模擬授業～授業者の話し方、間の取り方、時間配分について～

第23回：公民実践①、指導案作成①～主題の設定、メディア・リテラシー～

第23回：公民実践②、指導案作成②～公民的資質とは何か？

第24回：公民実践③、模擬授業③～評価の観点～

第25回：地域教材の授業実践①、名護博物館で授業を作ろう

第26回：地域教材の授業実践②、指導案の作成①

第27回：地域教材の授業実践③、指導案の作成②

第28回：地域教材の授業実践④、模擬授業

第29回：地域教材の授業実践⑤、模擬授業

第30回：振り返り、良い授業とは？

定期試験

テキスト

単元毎にその都度、レジユメを配布する。また必要に応じて関連図書を紹介する。

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）、中学校学習指導要領解説 社会編（平成29年告示 文部科学省）

原田智仁編著『社会科教育のルネサンスー実践知を求めてー』教育情報出版，2020年

学生に対する評価

A：毎時間の振り返りシート20点 B：模擬授業及び指導案60点

C：期末試験(小論)20点

授業科目名： アメリカ政治外交論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：志田淳二郎 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ政治外交に関連する基本的な概念や政策を、自分の言葉で説明できる。 2. 現代アメリカ政治外交に関連するニュースについて、自分の意見を表明できる。 3. 世の中にあふれているアメリカに関する情報を、批判的な視点をもって処理できる。 			
授業の概要			
<p>アメリカ合衆国は、現代世界において最も影響力のある国です。近年、インド太平洋戦略の下、アメリカは環太平洋地域での存在感を、これまで以上に強めています。本講義では、アメリカ政治外交の特徴を、建国期から順を追って学習していきます。アメリカが世界に影響を及ぼすようになった冷戦以降の歴史については、適宜、国際関係論の理論等も紹介しつつ、講義を進めていきます。</p> <p>大学卒業後、どのような仕事に就くのであれ、「アメリカ」への正確な理解なしには、活躍することはできません。本講義は、公務員、民間企業、ジャーナリスト、NGOへの就職を希望する学生に役に立つものですが、それ以外にも「アメリカ」に関心のあるすべての学生の積極的な参加を期待しています。</p>			
授業計画			
第1回： ガイダンス：アメリカ政治外交論への招待			
第2回： アメリカの外交的伝統			
第3回： 第一次世界大戦とアメリカ政治外交			
第4回： 第二次世界大戦とアメリカ政治外交			
第5回： 冷戦の起源とアメリカ政治外交			
第6回： 冷戦の展開とアメリカ政治外交①冷戦の構造化・グローバル化			
第7回： 冷戦の展開とアメリカ政治外交②戦争・危機とデタントの時代			
第8回： 冷戦の展開とアメリカ政治外交③冷戦の構造変容とデタントの崩壊			
第9回： 冷戦の終結とアメリカ政治外交			
第10回： 冷戦後世界とアメリカ政治外交①グローバリゼーションの時代			
第11回： 冷戦後世界とアメリカ政治外交②「テロとの戦い」の時代			
第12回： アメリカ一極の「終わりの始まり」①オバマ政権期のアメリカ			
第13回： アメリカ一極の「終わりの始まり」②トランプ政権期のアメリカ			
第14回： アメリカ一極の「終わりの始まり」③オバマ・トランプ両政権と日本			
第15回： まとめ：アメリカはどこへ向かうのか			

定期試験
テキスト
特定の教科書は定めず、必要に応じて参考文献や参考資料を配布する。
参考書・参考資料等
① 佐々木卓也編『戦後アメリカ外交史〔第3版〕』（有斐閣アルマ、2017年）。
② 青野・倉科・宮田編『現代アメリカ政治外交史』（ミネルヴァ書房、2020年）。
③ 村田・君塚・石川・栗栖・秋山『国際政治学をつかむ〔新版〕』（有斐閣、2017年）。
学生に対する評価
平常点（授業態度） 25点
中間レポート 25点
期末試験 50点 計100点

授業科目名： 公民科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：我如古 香奈子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教科公民及び各科目（公共・政治経済・倫理）について、学習指導要領における目標や内容構成の理解に基づく指導方法と観点別評価方法を学び、具体的な授業を想定した学習指導案を作成し、模擬授業の実施とその振り返りを通して、指導力を身に付けることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>全ての授業を通して、教科公民に関する講義と演習を行う。教科公民の設置背景や理念を理解し、学習指導要領に示されていることを具現化した授業づくりについて考察する。公民科における主体的・対話的で深い学び（以下、主対深）となる授業作りのため、ペアワークやグループワークを通して、問い設定力、資料・ICT活用力、授業形態構想力、アクティビティ仕掛け力、評価材料・方法の視点、関係諸機関との連携方法等を学び、一単元の学習指導案を作成して模擬授業を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：主対深のミニ模擬授業体験</p> <p>第3回：高校公民科の歴史や科目の性格・目標について「高校公民科を探究する」</p> <p>第4回：学習指導要領における「公共」の目標・内容構成・指導上の留意点等について</p> <p>第5回：学習指導要領における「政治経済」の目標・内容構成・指導上の留意点について</p> <p>第6回：学習指導要領における「倫理」の目標・内容構成・指導上の留意点について</p> <p>第7回：年間指導計画作成演習と学習指導案作成の手順及び留意点について</p> <p>第8回：「公共」一單元における授業実践例</p> <p>第9回：「公共」一單元における授業実践例と考察</p> <p>第10回：「政治経済」一單元における授業実践例と考察</p> <p>第11回：「倫理」一單元における授業実践例と考察</p> <p>第12回：「公共」一單元における学習指導案作成に基づく模擬授業</p> <p>第13回：「公共」一單元における学習指導案作成に基づく模擬授業とその検討</p> <p>第14回：「政治経済」一單元における学習指導案作成に基づく模擬授業とその検討</p> <p>第15回：「倫理」一單元における学習指導案に基づく模擬授業とその検討</p> <p>定期考査</p>			
テキスト			

- 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』（東山書房 2018）
 - 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説公民編』（東京書籍 2019）
 - 国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校公民』（東洋館出版社 2021）
- その他、必要に応じて関連書籍を紹介する。また、毎時間ごとにレジュメを配布する。

参考書・参考資料等

- 下記①～③は、全28冊のうち第1回の授業で示された教科書を購入すること。
 - ①文部科学省検定を受けた高等学校「公共」の教科書（全12冊）
 - ②文部科学省検定を受けた高等学校「政治経済」の教科書（全7冊）
 - ③文部科学省検定を受けた高等学校「倫理」の教科書（全9冊）
- 月間『社会科教育』（明治図書）
- 藤野敦 他8名/編『高等学校地理歴史科公民科必履修科目ガイド』（学事出版 2022）
- 石川一喜・小貫仁/編『教育ファシリテーターになろう』（弘文堂 2015）

学生に対する評価

- 毎時の振り返りシートの提出及び記入内容：30%
- 学習指導案・模擬授業内容：30%
- 定期考査：40%

授業科目名： 公民科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：我如古香奈子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業では公民科の各科目（公共、倫理、政治・経済）の授業実践に向けて、教材研究や課題の設定、評価方法などについて扱う。学習指導要領における各科目の理念を具現化できる授業を自分自身で開発・実践できるようになることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「公民科教育法Ⅰ」を踏まえ、公民科の各科目（公共、倫理、政治・経済）の各大項目について学習指導案を作成し模擬授業及びその検討を行う。特に、公民科における「社会的な見方・考え方」を働かせた授業作りと「指導と評価の一体化」を意識して学習指導案を作成することに留意しその模擬授業を行う。その際、公民科におけるICT活用の効果的な活用方法についても取り入れることとし、各模擬授業について全員で検討して改善点等を見出す。 ※次期学習指導要領に関する動向を注視し、講義中においても適宜取り上げる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（「公民科教育法Ⅰ」の振り返り等） 第2回：「公共」大項目Aに関する考察と授業作り（教材研究）について 第3回：「公共」大項目Aに関する模擬授業とその検討 第4回：「公共」大項目B（法）に関する考察と授業作り（教材研究）について 第5回：「公共」大項目B（法）に関する模擬授業とその検討 第6回：「公共」大項目B（政治）に関する考察と授業作り（教材研究）について 第7回：「公共」大項目B（政治）に関する模擬授業とその検討 第8回：「公共」大項目B（経済）に関する考察と授業作り（教材研究）について 第9回：「公共」大項目B（経済）に関する模擬授業とその検討 第10回：「公共」大項目Cに関する考察と授業作り（教材研究）について 第11回：「公共」大項目Cに関する模擬授業とその検討 第12回：「倫理」大項目A及びBに関する考察と大項目Aに関する授業作り（教材研究）について 第13回：「倫理」大項目Aに関する模擬授業とその検討 第14回：「政治・経済」大項目A及びBに関する考察と授業作り（教材研究）について 第15回：「政治・経済」大項目A及びBに関する模擬授業とその検討</p>			

テキスト

- 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』（東山書房 2018）
 - 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説公民編』（東京書籍 2019）
 - 国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校公民』（東洋館出版社 2021）
- その他、必要に応じて関連書籍を紹介する。また、毎時間ごとにレジュメを配布する。

参考書・参考資料等

- 下記①～③は、全 28 冊のうち第 1 回の授業で示された教科書を購入すること。
 - ①文部科学省検定を受けた高等学校「公共」の教科書（全 12 冊）
 - ②文部科学省検定を受けた高等学校「政治経済」の教科書（全 7 冊）
 - ③文部科学省検定を受けた高等学校「倫理」の教科書（全 9 冊）
- 月間『社会科教育』（明治図書）
- 藤野敦 他 8 名/編『高等学校地理歴史科公民科必履修科目ガイド』（学事出版 2022）
- 石川一喜・小貫仁/編『教育ファシリテーターになろう』（弘文堂 2015）

学生に対する評価

- 毎時の振り返りシートの提出及び記入内容：20%
- 学習指導案（模擬授業後の再提出含む）：40%
- 模擬授業内容：40%

授業科目名： 介護等体験	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校）	単位数： 1単位	担当教員名：神田奈津子 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 「介護等体験」の意義を理解し、実習の目的意識をもつことができる。</p> <p>(2) 「障害」と「福祉」について、基本的な考え方を理解することができる。</p> <p>(3) 社会福祉施設と特別支援学校について、実習に必要な基本的事項が理解できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>介護等体験に参加する学生を対象とし、介護等体験の目的、内容・方法(記録の方法を含む)を理解し、社会福祉施設や特別支援学校での介護等体験をよりよく行うことが出来るよう、向けて事前学習を行う(体験施設や利用者の理解、目標設定、自己理解など)。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション(位置づけ、事務手続き)、介護等体験の目的と意義</p> <p>第2回：介護等体験の実施施設(社会福祉施設、特別支援学校)について</p> <p>第3回：障害者および高齢者福祉施設と福祉サービスの理解</p> <p>第4回：障害者、高齢者の施設利用者の生活について考える</p> <p>第5回：自己理解と他者理解</p> <p>第6回：「インクルーシブとは何か」「利用者の権利」について考え</p> <p>第7回：「地域支援の根幹とは何か」について考える</p> <p>第8回：介護等体験の手続き</p> <p>第9回：介護等体験におけるルールとマナー</p> <p>第10回：事前学習のまとめー「向き合うこと」について考えるー</p> <p>介護等体験終了後、介護等体験報告会(課外活動)を実施する。</p>			
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人沖縄県社会福祉協議会 『教員免許特例法にもとづく介護等体験の手引き～社会福祉施設等における介護等体験』毎年発行 			
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に適宜資料を配布する ・現代教師養成研究会編『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック(三訂版)』2008年、大修館書店 			
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護等体験記録簿 60点 ・まとめレポート 20点 ・活動状況 20点 			

授業科目名： 憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大城 渡 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>憲法に基づき論理的に物事を考えること(リーガルマインド)への関心を促しつつ、わが国の将来を支える者として、日本国憲法を学び続けること、特に沖縄の憲法状況を常に意識し、幅広い憲法の知識を駆使して、主体的な分析・考察が可能となる能力の修得をめざす(主権者教育の一環)。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日常生活(特に沖縄で見られる憲法現象(新聞やテレビで取り上げられる憲法に関する話題))を主な素材として、日本国憲法のしくみや基本原理(人権論を中心に)、憲法をめぐる諸問題等について学習する。社会において憲法が果たしている重要な役割をなるべく分かり易くお話していきたい。特に、米軍基地や差別・貧困の問題等に見られるように、人間の価値・尊厳【Human Dignity】が軽視されかねない危険な傾向にもある現代社会にあって、だからこそ、依然として手厚く尊重され続けられなければならない「人間(個人)の価値」や憲法のあり方について考察を深めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1週 憲法講義オリエンテーション；憲法を学ぶ講義の目的や概要の説明等前半部分では、シラバスに基づき、「憲法」の科目概要や、成績評価の方法、テキスト・参考文献等について説明する。後半部分では、DVD教材を視聴しながら、第4週めの講義内容の一部でもある「日本国憲法の成り立ち」について学習する。</p> <p>第2週 平和主義の原理；平和主義原理の内容やその問題点、平和主義と沖縄との関係等を含めた解説憲法前文や9条を実際に読んで、その内容や意義を確認しつつ、戦争をなくすための平和主義の原理の内容や課題・論点等について講ずる。軍事力によらない平和(平和憲法の志向)と軍事力による平和(日米安保体制の志向)との相克を指摘しつつ、平和をめぐって私たちが今後歩むべき道を考える。</p> <p>第3週 国民主権の原理と象徴天皇制；国民主権原理の内容やその問題点、象徴天皇制との関係に関する解説。憲法の基本原理の一つである「国民主権の原理」と「象徴天皇制」について扱う。まず、【国民】や【主権】の意味等を各々探究しながら、国民主権の原理の意義について講ずる。次に、特に国民と天皇との関係に留意しながら、象徴天皇制に</p>			

ついて講ずる。

第4週 日本憲法史；大日本帝国憲法と日本国憲法との比較、日本憲法史における沖縄の特異性に関する解説。古今東西の諸憲法にも言及しながら、現行の日本国憲法をより理解するため“日本憲法史”について扱う。まず、日本史に登場した3つの“憲法”を概観する。次に、大日本帝国憲法と日本国憲法の共通点や相違点について考える。最後に、憲法と沖縄との関係について言及する。なお、本日の講義内容に関連するものとして、日本国憲法制定の経緯をDVD視聴で扱った第1週講義概要【ダイジェスト】も参照してほしい。

第5週 基本的人権 総論Ⅰ；人権の概念（歴史性・固有性・普遍性・不可侵性・不可譲性・国際性等）基本的人権 総論Ⅰとして、“人権”にはどのような性質があるか 全7項目（①歴史性 ②固有性 ③普遍性 ④国際化 ⑤不可侵性 ⑥不可譲性 ⑦個人の尊厳）に分けて講じることを通じ、全体（総括）として、人権とはどのようなものかについて理解を図る。

第6週 基本的人権総論Ⅱ；人権の分類 憲法が保障する多様な基本的人権にはどのようなものがあるかを体系的に理解し、その性質や特徴を明らかにするために、国家権力との関係で、人権の分類やその留意点について講ずる。具体的には、①自由権 ②参政権 ③社会権や第三世代の人権等について概説する。

第7週 基本的人権 総論Ⅲ；人権享有主体 基本的人権 総論Ⅲとして「人権享有主体」の問題を扱う。まず、人権享有主体の問題をめぐる基本的考え方を概説する。次に、人権享有主体をめぐる主なカテゴリー（類型）として、①天皇・皇族、②外国人、③法人、④子ども(未成年者)、⑤公務員、⑥在監者の人権状況について講ずる。なお、本講義を参考にして、高齢者や障がい者、L.G.B.T.（性的少数者）等の人権について、応用・発展学習として各自で考えてみたい。

第8週 基本的人権 総論Ⅳ；人権の限界 基本的人権 総論Ⅳとして“人権の限界”について扱う。まず、人権の限界に関する憲法上のキーワードである“公共の福祉”（憲12条、13条、22条、29条）を手がかりとしながら、人権が誕生した歴史的当初から既に自覚されていた人権の内在的制約（限界）について講じ、テキスト・参考文献 5. 準備学習 6. 成績評価の方法 7. 履修の条件 8. その他 そして、今日の経済活動の自由に伴う政策的制約（限界）について講ずる。

第9週 包括的基本権と法の下での平等；生命・自由・幸福追求権(憲法13条)と法の下での平等(憲法14条)の解説 個別具体的な人権（基本的人権 各論Ⅰ）として、国家権力との関係で複合的な性質を有する“幸福追求権”と“法の下での平等”について扱う。まず、幸福追求権の意義や「新しい人権」について講ずる。次に、法の下での平等の意義や内容について講ずる。

第10週 精神的自由権個別具体的な人権（基本的人権 各論Ⅱ）として、精神的自由権について扱う。まず、個人の内面的精神活動の自由（内心の自由）として、①思想良心の自由、

②信教の自由、③学問の自由につき、その歴史的意義や保障内容等を講ずる。そして、内心で形成された感情・信条等を外部に表明する「表現の自由」について講じていく。

第11週 人身の自由；「体の自由」（憲法18条,31条,33～39条）に関する解説 DVD教材（人身の自由が侵害された当事者たちの声や関連映像）を視聴しながら、個別具体的人権（基本的人権 各論Ⅲ）として、人身の自由（18、31、33～39）について扱う。まず、人身の自由の意義と基本原則について講ずる。次に、捜査過程における被疑者（容疑者）の権利について講ずる。最後に、刑事裁判における被告人の権利について講ずる。

第12週 参政権と社会権；参政権（憲法15条ほか）、社会権（憲法25～28条）等に関する概説 個別具体的な人権（基本的人権 各論Ⅳ）として、国家権力との関係で“国家への自由”と称される「参政権」と、“国家による自由”と称される「社会権」について扱う。はじめに、参政権の意義や選挙の基本原則等を講ずる。次に、社会権に属する生存権、教育を受ける権利、勤労の権利・労働基本権の意義等を講ずる。

第13週 統治機構の構造；人権の保障に資する統治機構（政治制度）の現状について講ずる。具体的には、まず統治機構をめぐる権力分立原理等につき言及し、次に、国会（第4章）や内閣（第5章）、裁判所（第6章）、地方自治（第8章）の国政における位置づけや仕組み・活動等を、憲法上の規定を中心に概説する。

第14週 統治機構の考究；前週の講義内容をふまえ、人権保障により相応しい統治機構（政治制度）のあり方（あるべき姿）について考究する。具体的には、諸外国の統治機構についても言及しながら、わが国の国会・内閣・裁判所、地方自治をめぐる諸課題を提示し、人権保障により相応しいあり方を検討する。

第15週 憲法の意義と保障；憲法の意義・特徴、憲法改正手続等に関する概説 講義の総括（憲法総論）として、これまでの講義内容も振り返りつつ、はじめに、憲法とは何か（憲法の意義）、憲法はどのような役割を現代国家において果たすべきか（立憲主義）について講ずる。そして、立憲主義に基づく憲法を絶え間ない政治の荒波からどのようにして護るか（憲法の保障）について講ずる。

期末試験

テキスト

テキストは特になし。講義の進行に応じて、事前に講義内容に関するプリント・資料を適宜配布する。

参考書・参考資料等

①初宿正典ほか編『目で見える憲法（第5版）』（有斐閣、2018年）

ビジュアル教材資料集

②芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法（第7版）』（岩波書店、2019年）

(税込) #わが国の代表的概説書

③野中俊彦ほか『憲法Ⅰ、Ⅱ(第5版)』(有斐閣、2012年)、

#代表的体系書

④長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ、Ⅱ(第7版)』(有斐閣、2019年)

#憲法に関する裁判例集

⑤仲地 博・水島朝穂編『オキナワと憲法』(法律文化社、1998年)

⑥沖縄県知事公室基地対策課編『沖縄の米軍基地(平成30年3月版)』(2018年)

学生に対する評価

①中間レポートの点数 50 点(講義前半部分の復習や、自分なりの考え方を練り上げるための諸課題を提示する。)

②期末試験の点数 50 点(自分なりの考え方をしっかり論述してもらうために、事前に試験問題を公表する。)*活動状況 学則等に基づき、6回以上の欠席が確認された者には単位を認定しない。また、成績評価に際し、他の学生に迷惑を及ぼすような受講姿勢にも厳格に対処する。出席確認は、原則として、学生証の提示と「出席カード」を利用して行うが、積極的な講義参加を求める例外的な方法もある。

また、講義の進行に資するような興味深い言動については、成績評価においても考慮する。

合計 100 点満点

授業科目名： 体育実技 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：大峰 光博 担当形態：単独・クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>【体育実技共通到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を通じて生涯スポーツの重要性を学び、自らの健康の保持増進を図る。 ・ スポーツを行うことで他者とのコミュニケーション能力を育み、ルールやマナーを理解することで社会性を養う。 ・ スポーツの文化的価値を理解し、「行うスポーツ」「見るスポーツ」「支えるスポーツ」についても理解する。 <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となる。【意欲・態度】 2) テニスとバウンドテニスのルールを理解する。【知識・理解】 3) テニスとバウンドテニスの基礎技術を身につける。【技能】 4) 目標（課題）を設定し、解決する努力を実践できる。【課題設定力・課題解決力】 5) 他者と協力して、授業を楽しむことができる。【コミュニケーション力】 6) 健康診断結果とふりかえりシートから、自身の心身の健康を管理することができる。【自己管理能力】 			
<p>【体育実技共通概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツは人類が育んだ世界共通の国際文化であり、豊かな感性を発揮させることができる。 ・ また、習慣的な運動は心身の健康の保持増進に効果がある。 ・ 本授業では、「スポーツ文化を学ぶ」と「スポーツ文化で学ぶ」の二つの側面から、スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となることを目的とし多様性に富んだスポーツ種目を展開する。 <p>授業の概要</p> <p>本授業では、テニスとバウンドテニスにおける関する基礎技術（グランドストローク、ボレー、サーブ）の習得を目指す。また、ゲームを中心に講座を進めていく中で、テニスとバウンドテニスにおける特有のルールや戦術を学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>授業の概要と進め方、成績評価、受講上の注意点について説明する。</p>			

第2回：基礎技術の習得①

アイズブレイクを行い、ラケットの握り方、スタンスの取り方について学ぶ。＜準備学習：文献を通して、ストレッチや準備体操について調査する。＞

第3回：基礎技術の習得②

フォアハンドストロークとバックハンドストロークについて学ぶ。＜準備学習：文献を通して、テニスのルールについて調べる。＞

第4回：基礎技術の習得③

サーブとボレーについて学ぶ。＜準備学習：文献を通して、テニスのルールについて調べる。＞

第5回：ルールと審判法

テニスにおけるゲームのルール・審判法について学ぶ。＜準備学習：テニスのシングルの試合について、ユーチューブの動画を確認する。＞

第6回：ゲーム①

ダブルスでゲームを行う。＜準備学習：テニスのダブルスの試合について、ユーチューブの動画を確認する。＞

第7回：ゲーム②

ダブルスでゲームを行う。＜準備学習：撮影した自身のフォームについて、確認する。＞

第8回：ゲーム③

ダブルスでゲームを行う。＜準備学習：撮影した自身のフォームについて、確認する。＞

第9回：バウンドテニスのルール

バウンドテニスの特性、コートの設定方法について学ぶ。＜準備学習：文献を通して、バウンドテニスのルールについて調査する。＞

第10回：バウンドテニスにおける基礎技術の習得①

フォアハンドストロークとバックハンドストロークについて学ぶ。＜準備学習：文献を通して、バウンドテニスのルールについて調査する。＞

第11回：バウンドテニスにおける基礎技術の習得②

サーブとボレーについて学ぶ。＜準備学習：バウンドテニスのシングルの試合について、ユーチューブの動画を確認する。＞

第12回：ゲーム①

ダブルスでゲームを行う。＜準備学習：バウンドテニスのダブルスの試合について、ユーチューブの動画を確認する。＞

第13回：ゲーム②

ダブルスでゲームを行う。＜準備学習：撮影した自身のフォームについて、確認する。＞

第14回：リーグ戦③

ダブルスでゲームを行う。＜準備学習：撮影した自身のフォームについて、確認する。＞

第15回：授業の総括

実技試験

テキスト

テキストは使用しない。

参考書・参考資料等

神谷勝則監修『基本が身につく：テニス練習メニュー200』（池田書店、2011年）

（図書館）（¥1650）

学生に対する評価

授業の活動状況 60点

ふりかえりシート 20点

レポート 10点

実技試験 10点

合計 100点

授業科目名： 体育実技 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：玉城 将 担当形態：単独・クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>【体育実技共通到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を通じて生涯スポーツの重要性を学び、自らの健康の保持増進を図る。 ・ スポーツを行うことで他者とのコミュニケーション能力を育み、ルールやマナーを理解することで社会性を養う。 ・ スポーツの文化的価値を理解し、「行うスポーツ」「見るスポーツ」「支えるスポーツ」についても理解する。 <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となる。【意欲・態度】 2) 卓球のルールを理解する。【知識・理解】 3) 卓球の基礎技能を身につける。【技能】 4) 目標（課題）を設定し、解決する努力を實踐できる。【課題設定力・課題解決力】 5) 他者と協力して、授業を楽しむことができる。【コミュニケーション力】 6) 健康診断結果とふりかえりシートから、自身の心身の健康を管理することができる。【自己管理能力】 <p>【体育実技共通概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツは人類が育んだ世界共通の国際文化であり、豊かな感性を發揮させることができる。 ・ また、習慣的な運動は心身の健康の保持増進に効果がある。 ・ 本授業では、「スポーツ文化を学ぶ」と「スポーツ文化で学ぶ」の二つの側面から、スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となることを目的とし多様性に富んだスポーツ種目を展開する。 <p>授業の概要</p> <p>スポーツは、人類が育んだ世界共通の国際文化である。形式知が言語で思考するのに対して、スポーツはそれを含み豊かな感性を發露させることができる。スポーツにおける自己表現は新たな自己の発見となり、またそれを他者と共有することにより連帯が生まれ、豊かな感性と人間性を培うことができる。また、技倆形成と戦術構築には主観と客観を併せ持ち、論理的かつ俯瞰的な視座を有することが求められる。さらに、習慣的な運動は心身の健康の保持増進に効果があることが、科学的に証明されている。本授業では、「スポーツ文化を学</p>			

ぶ」と「スポーツ文化で学ぶ」の二つの側面から、スポーツの文化的価値の享受し、文化の担い手となることを目的とする。具体的には(1)卓球の基本的な技術および戦術を学ぶこと(スポーツ文化を学ぶ)、(2)技能・戦術の達成度と課題の分析を通して課題設定力・課題解決力を養うこと(スポーツ文化で学ぶ)、(3)卓球のプレーを通して他者と協働するためのコミュニケーション力を養うこと(スポーツ文化で学ぶ)が本授業における課題となる。

授業計画

第1回：オリエンテーション

第2回：ラリーを続ける①：フォアハンド

第3回：ラリーを続ける②：バックハンド

第4回：左右の動きに対応する①：8の字ラリー

第5回：左右の動きに対応する②：ランダム

第6回：サービス

第7回：速いボールを打つ・返球する

第8回：ラージボール①：フォアハンド

第9回：ラージボール②：バックハンド

第10回：ダブルス

第11回：回転を加える①：下回転サービス

第12回：回転に対応する①：ツッツキ

第13回：回転を加える②：横回転サービス

第14回：回転に対応する②：ドライブ、ミート打ち

第15回：団体戦

実技試験

テキスト

無し。

参考書・参考資料等

吉田和人(2013)生涯スポーツのための卓球テキスト新装版 NPO法人卓球交流会(571円)

学生に対する評価

- 1) 平常点（課題に取り組む姿勢および他の受講生の学びへの影響度を総合的に評価）：20点
- 2) 振り返りシート（毎授業の最後に提出を求める）：60点
- 3) レポート（全授業で1回提出を求める）：10点
- 4) 実技試験：10点

※ただし、3分の2以上の出席がなければ成績評価の対象とはならない

※欠席の場合は1回につき5点、遅刻の場合は1回につき3点を減点する

授業科目名： 体育実技Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：石橋千征 担当形態：単独・クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>【体育実技共通到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を通じて生涯スポーツの重要性を学び、自らの健康の保持増進を図る。 ・ スポーツを行うことで他者とのコミュニケーション能力を育み、ルールやマナーを理解することで社会性を養う。 ・ スポーツの文化的価値を理解し、「行うスポーツ」「見るスポーツ」「支えるスポーツ」についても理解する。 <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業のテーマは、バスケットボールを通じて、自身の心身の健康について考え、他者と協力して、授業（ゲーム）を楽しむことである。</p>			
<p>到達目標</p> <p>①スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となる。【意欲・態度】</p> <p>②バスケットボールのルールを理解する。【知識・理解】</p> <p>③バスケットボールの基礎技能を身につける。【技能】</p> <p>④目標（課題）を設定し、解決する努力を實踐できる。【課題設定力・課題解決力】</p>			
<p>授業の概要</p> <p>スポーツは人類が育んだ世界共通の国際文化であり、豊かな感性を発露させることができる。また、習慣的な運動は心身の健康の保持増進に効果がある。本授業では、「スポーツ文化を学ぶ」と「スポーツ文化で学ぶ」の二つの側面から、スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となることを目的とし、多様性に富んだスポーツ種目を展開する。そのために、ボールハンドリング、パス&キャッチ、ショットなどの基礎技術を身につける。その後、バスケットボール特有のチーム戦術を訓練しつつ、ゲームを中心に講座を進めていく。また、受講生が主体的にゲーム運営にかかわり、受講生全員でバスケットボールを楽しむことができる環境を作り出す。毎回の授業において振り返りシートを記入し、心身の健康を管理する習慣を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション：授業の進め方について</p> <p>授業の概要、到達目標、授業計画と内容、テキスト、準備学習、成績評価の方法、履修条件などを</p>			

説明する。また、グループを編成し、アイスブレイク活動を行う。各グループで授業の準備や後片付けの分担を決定する。

第2回 ファーストゲーム

受講生のスキルレベルを確認するために、ゲームを行う。

第3回 ゴール下からのシュート

ゴール下からシュートを決めるためのトレーニングを行い、各個人に合ったスキルレベルを向上させる。トレーニング内容を活かす目的でのミニゲームを実施する。

第4回 リバウンド

リバウンドボールを獲得するためのスキルを紹介しトレーニングする。トレーニング内容を活かす目的でのミニゲームを実施する。

第5回 ピボット

バスケットボール特有のピボットスキルに関する練習を行う。その練習内容を活かす目的でのミニゲームを実施する。

第6回 ドリブル

ドリブルに関するトレーニングを行い、各個人に合ったスキルレベルを向上させる。トレーニング内容を活かす目的でのミニゲームを実施する。

第7回 ツーステップを用いたシュート

バスケットボール特有のツーステップに関するトレーニングを行う。トレーニング内容を活かす目的でのミニゲームを実施する。

第8回 ドリブルからのシュート

ドリブルとシュートを複合させたコーディネーショントレーニングを行う。トレーニング内容を活かす目的でのミニゲームを実施する。

第9回 ドリブル1on1

ドリブルを用いた1on1を実施する上での注意点および上達のコツを説明する。それらの練習内容を活かす目的でのミニゲームを実施する。

第10回 パスからの1on1

パスをレシーブしてから1on1に移行するための練習ポイントを説明する。それらを活かし、個人で状況を打開するスキルを身につける目的でのミニゲームを実施する。

第11回 コンビプレー

バスケットボール特有のピックプレーを紹介し、仲間と協力して得点するスキルを身につける。その練習内容を活かす目的でのミニゲームを実施する。

第12回 3on3

3on3の状況から効率良く得点するためのプレーに関するトレーニングを行う。トレーニング内容を活かす目的でのミニゲームを実施する。

第13回 トランジション (攻守の切り替え)

トランジションに関するトレーニングを行う。特に、走るコースを意識した練習を行う。そのトレーニング内容を活かす目的でのミニゲームを実施する。

第14回 アウトナンバーの攻防

数的優位な状況を作り出し、それを得点につなげるための練習を行う。アウトナンバー状況での得点を2倍にしたミニゲームを実施する。

第15回 ラストゲームとまとめ

受講生のスキルレベルを確認するために、ゲームを行う。ファーストゲームとの違いを振り返る。

定期試験 教員採用試験に頻出のバスケットボールのルールや歴史についての筆記試験

テキスト

実技中心であるため、必要に応じて資料を配布する。また、ビデオやスライドなどの視聴覚教材を使用しながら講義する。

参考書・参考資料等

バスケットボール指導教本 改訂版 (日本バスケットボール協会、大修館書店)

学生に対する評価

- | | |
|----------------------|--------|
| ① 活動状況(グループワークの取り組み) | 20点 |
| ② 振り返りシート(授業後に提出) | 30点 |
| ③ 知識習得(筆記試験) | 50点 |
| 合計 | 100点満点 |

授業科目名： 体育実技Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：神谷義人 担当形態：単独・クラス分け
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>【体育実技共通到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を通じて生涯スポーツの重要性を学び、自らの健康の保持増進を図る。 ・ スポーツを行うことで他者とのコミュニケーション能力を育み、ルールやマナーを理解することで社会性を養う。 ・ スポーツの文化的価値を理解し、「行うスポーツ」「見るスポーツ」「支えるスポーツ」についても理解する。 <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となる。【意欲・態度】 2) フットサルのルールを理解する。【知識・理解】 3) フットサルの基礎技能を身につける。【技能】 4) 目標（課題）を設定し、解決する努力を実践できる。【課題設定力・課題解決力】 5) 他者と協力して、授業を楽しむことができる。【コミュニケーション力】 6) 健康診断結果とふりかえりシートから、自身の心身の健康を管理することができる。【自己管理能力】 			
<p>授業の概要</p> <p>スポーツは人類が育んだ世界共通の国際文化であり、豊かな感性を発露させることができる。また、習慣的な運動は心身の健康の保持増進に効果がある。本授業では、「スポーツ文化を学ぶ」と「スポーツ文化で学ぶ」の二つの側面から、スポーツの文化的価値の享受し、文化の担い手となることを目的とし、多様性に富んだスポーツ種目を展開している。</p> <p>フットサルが上手になるための授業ではなく、健康づくりを実践するための一つの手段としてフットサルを用いる。またコミュニケーション、リーダーシップ、課題解決などの社会的スキル向上も目標として活動する。技術面に関して、フットサルの基本技術や基本戦術の理論と実践を学ぶ。フットサルの正式なルールを理解しながら、フットサル独特の足技や動き方を身につけ、それらをゲームで活用できるようにする。</p>			

授業計画

第1回：オリエンテーション ①授業の目的 ②シラバス ③授業の方法 ④登録

第2回：ボールコントロール (1)、ゲーム

個人でのボールタッチ、足裏ドリブルの技術に関して学習する。ボールコントロールを目的としたミニゲームを実施する。

第3回：ボールコントロール (2)、ゲーム

個人でのボールタッチ、足裏ドリブルのトレーニングを行い、ボールコントロールの技術を高める。ドリブルを主体としたミニゲームを行う。

第4回：個人でのボールキープ、ゲーム

ボールタッチ、足裏ドリブルの復習をし、1vs1でのボールキープ技術に関して学習する。ボールキープを主体としたミニゲームを行う。

第5回：キック (1)、ゲーム

各種キック (インサイドキック、トーキック、スプーンキック) の技術について学習し、短い距離のパスやシュートを蹴れるように練習する。練習したキックを主体としたミニゲームを行う。

第6回：キック (2)、ゲーム

各種キック (インサイドキック、トーキック、スプーンキック) の技術について学習し、長い距離のパスやシュートを蹴れるように練習する。練習したキックを主体としたミニゲームを行う。

第7回：チーム戦術 (1)、ゲーム

複数のプレイヤーが関与するプレーについて学習する。今回は攻撃プレイヤー2人、守備プレイヤー2人の状況でのプレーについて扱う。2vs2のミニゲームを行う。各チームで2vs2の練習メニューを作成し、実施する。

第8回：チーム戦術 (2)、ゲーム

複数のプレイヤーが関与するプレーについて学習する。今回は攻撃プレイヤー3人、守備プレイヤー3人の状況でのプレーについて扱う。3vs3のミニゲームを行う。各チームで3vs3の練習メニューを作成し、実施する。

第9～10回：フォーメーション、ゲーム

フットサルにおける各ポジションのプレーについて学習する。各グループでピヴォ (トップ)、アラ (サイド)、フィクソ (バック)、ゴレイロ (ゴールキーパー) を決め、フォーメーション練習を行い、攻撃と守備の動き方を確認する。実戦に近い形でのシュート練習やセットプレーについても練習する。練習したフォーメーションを活用したゲームを行う。

第11～12回：リーグ戦 (1)

6チームによる総当たりのリーグ戦を2週にわたり実施する。

第13～14回：リーグ戦 (2)

6チームによる総当たりのリーグ戦を2週にわたり実施する。

第15回：実技試験、全体の総まとめ

実技試験を行う。

テキスト

テキストは使用しない

参考書・参考資料等

- ・フットサル競技規則 2017/18, 日本サッカー協会, 2018 年
(最終閲覧日: 2018 年 2 月 22日) <http://www.jfa.jp/laws/>

学生に対する評価

活動状況 (授業への取り組み)	20点
ふり返しシート	60点
レポート	10点
実技試験	10点
合計	100点

授業科目名： 体育実技Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 遠矢英憲、比嘉義典 担当形態：複数・クラス分け
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>【体育実技共通到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を通じて生涯スポーツの重要性を学び、自らの健康の保持増進を図る。 ・ スポーツを行うことで他者とのコミュニケーション能力を育み、ルールやマナーを理解することで社会性を養う。 ・ スポーツの文化的価値を理解し、「行うスポーツ」「見るスポーツ」「支えるスポーツ」についても理解する。 <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となる。【意欲・態度】 2) 水泳およびスポーツダイビング、レスキュー（水難事故予防）の基礎知識を理解する。 【知識・理解】 3) 水泳およびスポーツダイビング、レスキュー（水難事故予防）の基礎技能を身につける 【技能】 4) 目標（課題）を設定し、解決する努力を実践できる。【課題設定力・課題解決力】 5) 他者と協力して、授業を楽しむことができる。【コミュニケーション力】 6) 健康診断結果とふりかえりシートから、自身の心身の健康を管理することができる。【自己管理能力】 			
<p>【体育実技共通概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツは人類が育んだ世界共通の国際文化であり、豊かな感性を発揮させることができる。 ・ また、習慣的な運動は心身の健康の保持増進に効果がある。 ・ 本授業では、「スポーツ文化を学ぶ」と「スポーツ文化で学ぶ」の二つの側面から、スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となることを目的とし多様性に富んだスポーツ種目を展開する。 <p>授業の概要</p> <p>本授業は、水泳・水辺野外運動文化を、楽しく、安全に享受するための基礎的な知識・技術の習得を目的とする。</p>			

実技内容としては、一般的な競泳種目であるクロール泳および平泳ぎを基本としながら、水辺野外運動文化への広がりとして、スポーツダイビング（スノーケリング・スキンドイビング）、レスキュー（水難事故予防）を取り扱う。

授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回 泳力チェック -10分間泳-

第3回 Stroke Correction -浮力の上手な利用法, 基本姿勢、けのび-

第4回 Stroke Correction(Crawl) -キック（フィンを利用した練習）-

第5回 Stroke Correction(Crawl) -体軸の意識、プル、キャッチアップクロール-

第6回 Stroke Correction(Crawl) -息継ぎ、コンビネーション（フィンを利用した練習）-

第7回 Sport Diving -スノーケリング①（マスク、スノーケルの使用方法）-

第8回 Sport Diving -スノーケリング②（泳ぎのバリエーション）-

第9回 Sport Diving -スキンドイビング①（潜水方法）-

第10回 Sport Diving -スキンドイビング②（泳ぎのバリエーション、置換法）-

第11回 Rescue -スノーケリングセルフレスキュー（事故想定と対応法）-

第12回 Rescue -自己保全①（浮き時間の計測、浮力体の使用方法）-

第13回 Rescue -自己保全②（平泳ぎ、エレメンタリーバックストローク）-

第14回 Rescue -自己保全③（蹴り足、巻き足、スカーリング、立泳ぎ）-

第15回 Rescue -他者救助（泳げない人でも助けることができる方法、二次事故の予防法）-
期末レポート提出<期末試験は実施しない>

テキスト

なし

参考書・参考資料等

1. 「4泳法がきれいに泳げるようになる」高橋雄介著、高橋書店、2004年
2. 吉田章、遠矢英憲著、日本スノーケリング協会公認「スノーケリング指導者教本」、財団法人社会スポーツセンター

学生に対する評価

授業への取り組み・受講態度・課題提出状況（80%）

期末レポート（20%）

合計（100%）

授業科目名： 健康・スポーツ科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高瀬 幸一
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この講義は、健康の維持・増進という概念に関わる観点からウェルビーイング関わるに関する知識とその応用について学ぶことを大項目としての目標とする。これらを達成するために、以下の目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活習慣が健康の維持と増進に強く関わることに関する基礎的な知識（健康・長寿、栄養、運動、遺伝など）を理解し身につけ説明することができる。（知識・理解・思考） 2. 健康の維持・増進に効果的な手法についての理解と実践に関する理論について習得し、説明することができる。（知識・理解・思考・意欲） <p>本講義の評価には入らないが、健康の維持増進のための実践に関する「意欲が」高まることが求められる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現代における社会環境の変化として、少子高齢化、自由時間の増大、労働環境のオートメーション化とコンピューター化、運動不足、過食や偏食などがある。これら健康の維持・増進を脅かす諸問題に対処するため、自らの身体に興味を持ち、健康維持・増進やスポーツの重要性について科学的に理解できるよう「体力」「運動」「健康」の各分野からアプローチし解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の概要説明を中心に）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の目的、シラバス、授業の方法、テキスト、登録についての説明を行う。 <p>第2回：日本と世界の健康事情（生活習慣病の原因について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 我が国の健康問題について考えるとともに、その解決に向けた施策などについてウェルネス・ウェルビーイングの観点より概論的に解説を行う。 <p>第3回：生活習慣病の予防と改善について（クイズ形式）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活習慣と生活習慣病との関わりについて、クイズ形式で学びながら、生活習慣病の予防と改善について学習を行っていく。 <p>第4回：沖縄における健康課題について（沖縄県の健康課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かつて健康長寿の地と言われた沖縄は、現在ではその健康長寿に陰りが生じている。ここでは沖縄を例に健康長寿を考えて行く。 			

第5回：沖縄における健康課題について（長野県の政策面に見る特徴） 2 一部 ICTを活用。

- ・近年平均寿命を急速に延伸してきている長野県の取り組みから、健康長寿の秘訣について考えて行く。

第6回：食育と健康（ファストフードと健康について） 一部ICTを活用。

- ・2006年に食育基本法が制定され、食と健康の関係について学習して行くことが求められる今日となっている。ここでは、ファストフードと健康についてを中心的に取り上げ、現代における食と健康について考えて行く。4・5・6をまとめる内容のレポート課題を予定する。

第7回：腸内細菌と免疫について ICTを活用する。

- ・近年、腸内の細菌は人体の様々な健康に関係してきていることが明らかになってきている。たとえば免疫や精神ストレスなど、実は腸内に住んでいる細菌が大きく関係している。ここでは、腸内細菌と免疫について取り上げ、健康との関わりについて考えていく。

第8回：腸内細菌と免疫について 2 GW形式

- ・グループワークにより腸内細菌と健康に関する課題からテーマを設定し、それについて議論を深め、まとめを行う。成果物は提出する。

第9回：アルコールと健康

- ・健康寿命の延伸には、生活して行く上での環境が大きく関係してくる。ここでは、アルコール（お酒）を取り巻く問題について提議し、健康問題について考えて行く。

第10回：喫煙と健康について 一部ICTを活用。

- ・健康寿命の延伸には、生活して行く上での環境が大きく関係してくる。ここでは、喫煙が身体に与える影響について学習し、健康意識の向上を図ることを狙いとする。9・10をまとめる内容のレポート課題を予定する。

第11回：栄養と健康について

- ・健康の維持・増進に必要な基本的な栄養学についてを学び、健康意識の向上を図ることを狙いとする。

第12回：栄養と健康について（脂質の種類とその働きについて）

- ・脂質の摂取と健康との関連は高く、摂取の仕方次第で健康を害することにもつながりかねない。沖縄県は脂質の摂取量が大きい傾向にあるため、日頃の健康維持対して脂質のことについて学習を深める。

第13回：遺伝子で仕組みと働きについて（遺伝するものしないもの）

- ・人間の成長には遺伝子の仕組みや働きが関係している。ここでは、遺伝子の構造や仕組みについて取り上げ、健康との関係について解説していく。

第14回：100歳まで健康に生きる（サクセスフルエイジング） 一部ICTを活用。

- ・ピンピンコロリという言葉が最近よく使われるようになってきているように、人生の健康目標は100歳まで健康に生きることにある。ここでは、世界の100寿者を例にその秘訣について考えていく。

第15回：酸化ストレスと健康について

- ・加齢や生活習慣と老化との関連、さらには酸化ストレスについて解説していく。

定期試験

テキスト

指定なし。関連するプレゼンの資料をTeamsを使用し配布する。必要に応じて紙ベースでも配布する。

参考書・参考資料等

スライド内に必要なものは表記する。

学生に対する評価

成績評価は、観察評価、レポート、期末試験の総合評価にて行う。

1. 観察評価：5点（0点を基準に加点していく）・関心・意欲・態度を評価・毎回、口頭にて出席をとる。観察評価は、授業中の受講態度・授業内容について質問などを主観的に評価するものである。

ポイント：できるだけ前方座席に座る（毎回後方座席の端の座席には座らない。前方座席着生の場合は意欲の観察ができるが、後方座席の着席の場合は観察評価ができにくいため不利益になる場合もありうる）。授業内容について、対面での質問、メール等での質問に対しては加点していく。

2. レポート・グループワーク：15点（レポート2回実施、グループワーク1回実施 各5点）
・知識・理解・思考を評価

レポートの場合は、思考力の評価を目的とする課題になるので、生成 AI の使用を禁止する。ただし、教員が指定した条件下や特定の場面での使用を許可する場合もある。

グループワークは不参加の場合は加点できない。

3. 期末試験：80点（試験範囲は全体）・知識・理解・思考を評価

論述形式が中心となる。

知識・理解を中心とした概論的な科目であるため、評価においては試験のエフォートを高めに設定する。

合計：100点

授業科目名： ベーシック・ イングリッシュ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：ケム ロイ
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>① 1) 言語使用の場面で言語使用の目的を達成する文法や頻度の高い語彙を学習する。</p> <p>② 2) 意味の区切れを理解し、英語の音声の特性に合った音読ができるようにする。</p> <p>③ 3) 異文化理解や、理解する喜び、積極的な参加、英語の有用性などを理解することに自立した英語学習者になる。</p> <p>④ 4) リーディングとリスニングを主に学習する。</p> <p>⑤ 5) ACTFL中級の下、CEFR A2-B1 のレベルを目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習者のレベルに応じて、実際の言語使用に配慮しながら、言語使用の機能の達成を考慮した文法や、頻度の高い語彙を学習する。意味の区切りを理解し、英語の音声の特徴にあった音読ができるようになる。英語で講義を理解したり、メモを取ったりするリスニングの基礎力と英語で専門書や説明書を理解するリーディング力の基礎を養う。異文化理解や、理解する喜び、積極的な参加、英語の有用性などを理解し、生涯、英語を学習し続ける自立した学習者になる態度を養う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション Orientation：シラバスを用いて、クラス概要、課題や成績評価の詳細説明。到達目標の明示。本科目で利活用するICT ツールの利用法や課題提示や提出方法の確認。言語学習センター(LLC)の活用方針説明</p> <p>【課題】教科書予習：p.2-3，小テスト(単語)，Smart Choice Online Practice Unit 1 開始</p> <p>第2回 Unit 1 Nice to meet you! (p.4-6),小テスト(単語)，自己紹介をし、be 動詞を使った質問を使って会話を続けます，Over To You Video。</p> <p>【課題】教科書予習：p.7-8，小テスト(文法)，Smart Choice Online Practice Unit 1</p> <p>第3回 Unit 1 Nice to meet you! (p.7-8)，小テスト(文法)，あなたが住んでいる場所とあなたがしている仕事について説明してください，SMART TALK (スピーキング活動ペアワーク)</p>			

【課題】教科書予習：p.10-12，小テスト（単語），Smart Choice Online Practice Unit 1

第4回 Unit 2 What do you do? (p.10-12), 小テスト（単語），有名人やショー番組を描写する（会話表現），単純現在形をチェックする，Over To You Video。

【課題】教科書予習：p.13-14，小テスト（文法），Smart Choice Online Practice Unit 2
開始

第5回 Unit 2 What do you do? (p.13-14), 小テスト（文法），人々や彼らが行っている仕事についての短い説明や会話を理解する，SMART TALK（スピーキング活動ペアワーク）

【課題】教科書予習：p.16-18，小テスト（単語），Smart Choice Online Practice Unit 2

第6回 Unit 3 Do you like noodles? (p.16-18), 小テスト（単語），好き嫌いについて話し、動詞 do を使って質問を構成する、Over To You Video。

【課題】教科書予習：p.19-20，小テスト（文法），Smart Choice Online Practice Unit 3
開始

第7回 Unit 3 Do you like noodles? (p.19-20), 小テスト（文法），レストランの注文に関する短い会話を理解する、屋台の食べ物に関連するテキストを理解する，SMART TALK（スピーキング活動ペアワーク）

【課題】教科書予習：p.22-23，Progress test 1（Unit 1-3の復習）準備，Smart Choice Online Practice Unit 3

第8回 Bonus Units 1-3 (p.22-23) : Video Lesson, Progress test 1 (Smart Choice) 実施

【課題】教科書予習：p.24-26，小テスト（単語）

第9回 Unit 4 How often do you exercise? (p.24-26), 小テスト（単語），頻度副詞を使用して習慣やルーチンを説明する、Over To You Video。

【課題】教科書予習：p.27-28，小テスト（文法），Smart Choice Online Practice Unit 4
開始

第10回 Unit 4 How often do you exercise? (p.27-28), 小テスト（文法），高校の同窓会（リスニング），友情のタイプ（リーディング），SMART TALK（スピーキング活動ペアワーク）

【課題】教科書予習：p.30-32，小テスト（単語），Smart Choice Online Practice Unit 4

第11回 Unit 5 I'm listening to music. (p.30-32), 小テスト (単語), 現在進行形を使用して人々の現在の行動を説明する、Over To You Video。

【課題】教科書予習 : p.33-34, 小テスト (文法), Smart Choice Online Practice Unit 5 開始

第12回 Unit 5 Gotta have it? (p.33-34), 小テスト (文法), 説明文を含む日常生活の説明を理解する, SMART TALK (スピーキング活動ペアワーク)

【課題】教科書予習 : p.36-38, 小テスト (単語), Smart Choice Online Practice Unit 5

第13回 Unit 6 Where were you? (p.36-38), 小テスト (単語), 単純な過去形を使って過去の出来事について話す、Over To You Video。

【課題】教科書予習 : p.39-40, 小テスト (文法), Smart Choice Online Practice Unit 6 開始

第14回 Unit 6 Where were you? (p.39-40), 小テスト (文法), 問題に関する会話やトリビュート バンドに関するテキストを理解する, SMART TALK (スピーキング活動ペアワーク)

【課題】教科書予習 : p.42-43, Progress test 2 (Unit 4-6の復習) 準備, Smart Choice Online Practice Unit 6

第15回 Bonus Units 4-6 (p.42-43) : Video Lesson, Progress test 2 (Smart Choice) 実施

【課題】教科書予習 : p.44-46, 小テスト (単語)

第16回 Catch-up Lesson -小テスト, Over To You Video, Smart Choice Online Practice. 完了した作品の中間評価

【課題】教科書予習 : p.44-46, 小テスト (単語)

第17回 Unit 7 Which one is cheaper? (p.44-46), 小テスト (単語), 衣服について話し、比較形容詞を使って物事を説明する、Over To You Video。

【課題】教科書予習 : p.47-48, 小テスト (文法), Smart Choice Online Practice Unit 7 開始

第18回 Unit 7 Which one is cheaper? (p.47-48), 小テスト (文法), さまざまな衣類の比較と衣類のショッピングに関するテキストを理解する, SMART TALK (スピーキング活

動ペアワーク)

【課題】教科書予習：p. 50-52, 小テスト (単語), Smart Choice Online Practice Unit 7

第19回 Unit 8 They're very friendly. (p. 50-52), 小テスト (単語), 人々の外見や性格を説明し、説明に「be like」と「look like」を使用する、Over To You Video。

【課題】教科書予習：p. 53-54, 小テスト (文法), Smart Choice Online Practice Unit 8
開始

第20回 Unit 8 They're very friendly. (p. 53-54), 小テスト (文法), 人々や友人の短い説明を理解する, SMART TALK (スピーキング活動ペアワーク)

【課題】教科書予習：p. 56-58, 小テスト (単語), Smart Choice Online Practice Unit 8

第21回 Unit 9 You can visit the zoo. (p. 56-58), 小テスト (単語), 観光地やアトラクションについて話すには「can」と「can't」を使用します、Over To You Video。

【課題】教科書予習：p. 59-60, 小テスト (文法), Smart Choice Online Practice Unit 9
開始

第22回 Unit 9 You can visit the zoo. (p. 59-60), 小テスト (文法), 観光スポットや名所の説明を理解する, SMART TALK (スピーキング活動ペアワーク)

【課題】教科書予習：p. 62-63, Progress test 3 (Unit 7-9の復習) 準備, Smart Choice Online Practice Unit 9

第23回 Bonus Units 4-6 (p. 62-63) : Video Lesson, Progress test 3 (Smart Choice) 実施

【課題】教科書予習：p. 64-66, 小テスト (単語)

第24回 Unit 10 Is there a coffee shop? (p. 64-66), 小テスト (単語), 「is there」と「are there」を使用して、町の周りの場所について話したり、尋ねたり、説明したりする、Over To You Video。

【課題】教科書予習：p. 67-68, 小テスト (文法), Smart Choice Online Practice Unit 10
開始

第25回 Unit 10 Is there a coffee shop? (p. 67-68), 小テスト (文法), 都市の施設や場所について理解する, SMART TALK (スピーキング活動ペアワーク)

【課題】教科書予習：p. 70-72, 小テスト (単語), Smart Choice Online Practice Unit 10

第26回 Unit 11 I had a good time. (p.70-72), 小テスト (単語), 単純な過去形を使用して、休暇の経験や活動について話します、Over To You Video。

【課題】教科書予習 : p.73-74, 小テスト (文法), Smart Choice Online Practice Unit 11 開始

第27回 Unit 11 I had a good time. (p.73-74), 小テスト (文法), 休暇および休暇に関連する活動/場所の説明を理解する, SMART TALK (スピーキング活動ペアワーク)

【課題】教科書予習 : p.76-78, 小テスト (単語), Smart Choice Online Practice Unit 11

第28回 Unit 12 I' m going to buy a car. (p.76-78), 小テスト (単語), 将来の計画について話すには、going to と will を使用します、Over To You Video。

【課題】教科書予習 : p.79-80, 小テスト (文法), Smart Choice Online Practice Unit 12 開始

第29回 Unit 12 I' m going to buy a car. (p.79-80), 小テスト (文法), 交通手段と交通手段の種類について理解する, SMART TALK (スピーキング活動ペアワーク)

【課題】教科書予習 : p.82-83, Progress test 4 (Unit 10-12の復習) 準備, Smart Choice Online Practice Unit 12

第30回 Bonus Units 10-12 (p.82-83) : Video Lesson, Progress test 4 (Smart Choice) 実施、Final Exam Preparation Time and Catchup Time。

【課題】教科書予習 : Prepare for Final Exam

期末試験 (筆記+リスニング)

テキスト

SMART CHOICE 4th edition Level 1 Student Book with Online Practice. Oxford University Press. (オックスフォード大学出版社)

参考書・参考資料等

教員が必要と感じた場合、配布資料にて提供する。

20点 - 小テスト (Unit Quiz)

20点 - Progress test : 3 unitsごとになる (SC Online) 30分

20点 - Class Videos 1点 x 10 回 (Google Classroom)

20点 - 期末試験 (Google Form OR Paper Test)

20点 - オンライン課題 (SC Online Practice) *Speakingに特化していないもののみ

合計 Total 100点

授業科目名： ベーシック・ イングリッシュ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：ソング キャサリ ン 担当形態：クラス分け・単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 聞くこと：自然な速さの録音や放送（天気予報や空港のアナウンスなど）を聞いて、自分に関心のある、具体的な情報の大部分を聞き取ることができる。 ② 読むこと：学習を目標とした新聞や雑誌の記事の要点を理解することができる。インターネットや参考図書などを調べて、文章の構成を意識しながら、学業や仕事に関係ある情報を手に入れることができる。平易な英語で書かれた長めの物語の筋を理解することができる。 ③ やり取り：身近なトピック（学校・趣味・将来の希望）について、簡単な英語を幅広く使って意見を表明し、情報を交換することができる。 ④ 発表：使える語句や表現を繋いで、自分の経験や夢、希望を順序だて、話を広げながら、ある程度詳しく語ることができる。 ⑤ 書くこと：自分に直接関わりのある環境（学校・職場・地域など）での出来事を、身近な状況で使われる語彙・文法を用いて、ある程度まとまりのあるかたちで、描写することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>身近な事柄に関する情報収集および発信ができ、さらに興味のある事柄を自信を持って相手に伝えるあるいは発表することを目的とした活動を多く取り入れ、実践的な英語の「聞く・読む・話す・発信する」の4つの基礎知識とスキル向上を目指す。さらに、学術的な英語として英語プレゼンテーションの基礎を学び、実践する機会を提供する。（CEFR-J-B1 レベルを到達目標とする。）</p> <p>教科書を中心に授業を進めるが、活動等はペアあるいはグループ活動を取り入れ、個々が自由にアイデアを発言することが期待される。予習や課題については、スケジュールに従い、期限内に提出する。自主的に予習や課題を果たす姿勢が求められる。</p> <p>*ユニット小テスト：毎回実施する。正当な理由の欠席で受験できない場合は、担当教員と調整し、再受験する。（*「正当な理由」とは、病欠・公欠などの理由で、欠席届が提出されていること）</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回オリエンテーション Orientation：シラバスを用いて、クラス概要、課題や成績評価の詳細説明。到達目標の明示。本科目で利活用するICTツールの利用法や課題提示や提出方法の確認。 【課題】教科書予習：p.2-6, 小テスト（単語），Smart Choice Online Practice Unit 1 開始</p> <p>第2回 Unit 1 I' ve been running. (p4-6), Useful classroom language (p.2-3)，小テスト（単語），自由時間の活動表現（会話表現），現在完了進行形を使用した表現（肯定文・否定文・疑問文）の確認 【課題】教科書予習：p.7-8，小テスト（現在完了進行形），Smart Choice Online Practice Unit 1</p> <p>第3回 Unit 1 I' ve been running. (p.7-8)，小テスト（現在完了進行形），趣味についてのラジオ放送（リスニング），趣味についてのインタビュー記事（リーディング），SMART TALK（スピーキング活動ペアワーク）</p>			

【課題】教科書予習：p.10-12，小テスト（単語），Smart Choice Online Practice Unit 1

第4回 Unit 2 I wonder what it' s about. (p.10-12)，小テスト（単語），有名人やショー番組を描写する（会話表現），間接疑問文を使用した表現の確認

【課題】教科書予習：p.13-14，小テスト（間接疑問文），Smart Choice Online Practice Unit 2 開始

第5回 Unit 2 I wonder what it' s about. (p.13-14)，小テスト（間接疑問文），ショー番組のシーンについて（リスニング），成功にとどまる秘訣（リーディング），SMART TALK（スピーキング活動ペアワーク）

【課題】教科書予習：p.16-18，小テスト（単語），Smart Choice Online Practice Unit 2

第6回 Unit 3 It was painted by a street artist. (p.16-18)，小テスト（単語），芸術について語る（会話），受動態の表現の確認，

【課題】教科書予習：p.19-20，小テスト（受動態），Smart Choice Online Practice Unit 3 開始

第7回 Unit 3 It was painted by a street artist. (p.19-20)，小テスト（受動態），美術館の描写（リスニング），ストリートアーティストについて（リーディング），SMART TALK（スピーキング活動ペアワーク）

【課題】教科書予習：p.22-23，Progress test 1（Unit 1-3の復習）準備，Smart Choice Online Practice Unit 3

第8回 Bonus Units 1-3 (p.22-23):リスニング&リーディング, Progress test 1(Smart Choice) 実施

【課題】教科書予習：p.24-26，小テスト（単語）

第9回 Unit 4 Who' s your best friend? (p.24-26)，小テスト（単語），人物描写について（会話），関係代名詞の表現の確認

【課題】教科書予習：p.27-28，小テスト（関係（詞）句），Smart Choice Online Practice Unit 4 開始

第10回 Unit 4 Who' s your best friend? (p.27-28)，小テスト（関係（詞）句），高校の同窓会（リスニング），友情のタイプ（リーディング），SMART TALK（スピーキング活動ペアワーク）

【課題】教科書予習：p.30-32，小テスト（単語），Smart Choice Online Practice Unit 4

第11回 Unit 5 Gotta have it? (p.30-32)，小テスト（単語），テクノロジーについて考える（会話），動名詞と不定詞の表現の確認

【課題】教科書予習：p.33-34，小テスト（動名詞と不定詞），Smart Choice Online Practice Unit 5 開始

第12回 Unit 5 Gotta have it? (p.33-34)，小テスト（動名詞と不定詞），旅行アプリの宣伝（リスニング），デジタルデトックス（リーディング），SMART TALK（スピーキング活動ペアワーク）

【課題】教科書予習：p.36-38，小テスト（単語），Smart Choice Online Practice Unit 5

第13回 Unit 6 He' d never seen the desert. (p.36-38)，小テスト（単語），イベントについて（会話），過去完了形の表現の確認

【課題】教科書予習：p.39-40，小テスト（過去完了形），Smart Choice Online Practice Unit

6 開始

第 14 回 Unit 6 He' d never seen the desert. (p.39-40), 小テスト (過去完了形), 旅行の物語 (リスニング), オンラインレンタルハウス (リーディング), SMART TALK (スピーキング活動ペアワーク)

【課題】教科書予習 : p.42-43, Progress test 22 (Unit 4-6 の復習) 準備, Smart Choice Online Practice Unit 6

第 15 回 Bonus Units 4-6 (p.42-43) : リスニング&リーディング, Progress test 2 (Smart Choice) 実施

【課題】教科書予習 : p.44-46, 小テスト (単語)

第 16 回 Unit 1-6 復習+活動

【課題】教科書予習 : p.44-46, 小テスト (単語) Midterm Skits

第 17 回 Unit 7 Time for a new look! (p.44-46), 小テスト (単語), 容姿の表現 (会話), have/got something done の表現の確認

【課題】教科書予習 : p.47-48, 小テスト (have/got something done), Smart Choice Online Practice Unit 7 開始

第 18 回 Unit 7 Time for a new look! (p.47-48), 小テスト (have/got something done), イメチェンの表現 (リスニング), Double makeover ブログ (リーディング), SMART TALK (スピーキング活動ペアワーク)

【課題】教科書予習 : p.50-52, 小テスト (単語), Smart Choice Online Practice Unit 7

第 19 回 Unit 8 My life would be great! (p.50-52), 小テスト (単語), 場所の描写(会話), 仮定法過去の表現の確認

【課題】教科書予習 : p.53-54, 小テスト (仮定法過去), Smart Choice Online Practice Unit 8 開始

第 20 回 Unit 8 My life would be great! (p.53-54), 小テスト (仮定法過去), 場所の描写 (リスニング), Intergenerational school 記事 (リーディング), SMART TALK (スピーキング活動ペアワーク)

【課題】教科書予習 : p.56-58, 小テスト (単語), Smart Choice Online Practice Unit 8

第 21 回 Unit9 What would you have done? (p.56-58), 小テスト (単語), 後悔と解決 (会話), should have/would have の表現の確認

【課題】教科書予習 : p.59-60, 小テスト (should have/would have), Smart Choice Online Practice Unit 9 開始

第 22 回 Unit 9 What would you have done? (p.59-60), 小テスト (should have/would have), 間違いに気づく (リスニング), 後悔を避ける方法 記事 (リーディング), SMART TALK (スピーキング活動ペアワーク)

【課題】教科書予習 : p.62-63, Progress test 3 (Unit 7-9 の復習) 準備, Smart Choice Online Practice Unit 9

第 23 回 Bonus Units 4-6 (p.62-63) : リスニング&リーディング, Progress test 3 (Smart Choice) 実施

【課題】教科書予習 : p.64-66,小テスト (単語)

第 24 回 Unit 10 Anything' s possible. (p.64-66), 小テスト (単語), ミステリー (会話),

助動詞+have の表現の確認

【課題】教科書予習：p.67-68, 小テスト(助動詞+have の表現の確認), Smart Choice Online Practice Unit 10 開始

第 25 回 Unit 10 Anything's possible. (p.67-68), 小テスト(助動詞+have), 陰謀論(リスニング), でっち上げ 記事(リーディング), SMART TALK(スピーキング活動ペアワーク)

【課題】教科書予習：p.70-72, 小テスト(単語), Smart Choice Online Practice Unit 10

第 26 回 Unit 11 What would have happened? (p.70-72), 小テスト(単語), 発明について(会話), 仮定法過去完了の表現の確認

【課題】教科書予習：p.73-74, 小テスト(仮定法過去完了), Smart Choice Online Practice Unit 11 開始

第 27 回 Unit 11 What would have happened? (p.73-74), 小テスト(仮定法過去完了), 新発見(リスニング), 発明のしくみ 記事(リーディング), SMART TALK(スピーキング活動ペアワーク)

【課題】教科書予習：p.76-78, 小テスト(単語), Smart Choice Online Practice Unit 11

第 28 回 Unit 12 Did you hear the news? (p.76-78), 小テスト(単語), ニュースについて(会話), 間接話法の表現の確認

【課題】教科書予習：p.79-80, 小テスト(間接話法), Smart Choice Online Practice Unit 12 開始

第 29 回 Unit 12 Did you hear the news? (p.79-80), 小テスト(間接話法), ニュース放送(リスニング), ニュースの本質 記事(リーディング), SMART TALK(スピーキング活動ペアワーク)

【課題】教科書予習：p.82-83, Progress test 4 (Unit 10-12 の復習) 準備, Smart Choice Online Practice Unit 12

第 30 回 Bonus Units 10-12 (p.82-83): リスニング&リーディング, Progress test 4 (Smart Choice) 実施

【課題】教科書予習：p.64-66, 小テスト(単語)

期末試験(筆記+リスニング)

テキスト

SMART CHOICE 4th edition Level 3 Student Book with Online Practice (オックスフォード大学出版社)

参考書・参考資料等

教員が必要と感じた場合、配布資料にて提供する。

学生に対する評価

- 15 点 - 小テスト (Unit tests) 単語・文法 Google form 10 分
 - 20 点 - Progress tests : 3 units ごと (SC Online) 30 分×4 回 (授業内で実施)
 - 20 点 - 期末試験 12 ユニットまとめ + リスニング
 - 15 点 - オンライン課題 (SC Online Practice) *単語・文法・会話表現
 - 10 点 - Midterm Skit
 - 20 点 - Final Skit
- 計 100 点

授業科目名： ベーシック・ イングリッシュ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：名城義久 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 言語使用の場で言語使用の目的を達成する文法や頻度の高い語彙を学習する。 ② 意味の区切れを理解し、英語の音声の特性に合った音読ができるようにする。 ③ 異文化理解や、理解する喜び、積極的な参加、英語の有用性などを理解することに自立した英語学習者になる。 ④ リーディングとリスニングを主に学習する。 ⑤ 読んだり、聞いたことに対して口頭で発表したり、書いたりする。 ⑥ ACTFL中級の下、CEFR A2-B1 level を目指す。 			
<p>授業の概要</p> <p>学習者のレベルに応じて、実際の使用場面に配慮しながら、言語使用の機能の達成を考慮した文法や、頻度の高い語彙を学習する。意味の区切りを理解し、英語の音声の特性にあった音読ができるようになる。英語で講義を理解したり、メモを取ったりするリスニングの基礎力と英語で専門書や説明書を理解するリーディング力の基礎を養う。「本科目は、ハイブリッド型授業（対面授業と遠隔授業の混成型）」「本科目は、TeamsとUniversal Passportを使用して、講義・演習（グループワーク）形式で授業を行います」「本科目は、英会話スクールで30年の勤務経験を活かして、実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める」</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 Orientation、クラス概要、課題や成績評価の詳細説明、到達目標の明示等、Smart Choice Practiceの説明、講義(学習を学ぶ目的、コミュニケーションについて、モチベーションについて)</p> <p>第2回 Unit1 How was your vacation? (pp.4-9)様々な文に対する、同意と意義について学ぶ。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。</p> <p>第3回 Unit1 How was your vacation? Grammar quiz1 (pp.4-9) ペア、グループワークでのアクティビティー(AL)を通して既習事項の定着を図る。ICT活用</p> <p>第4回 Unit2 I think it's boring (pp.10-15)～ingで終わる形容詞と～edで終わる形容詞の学習。記述問題やリスニング問題を通して既習事項の定着を図る。ICT活用</p> <p>第5回 Unit2 I think it's boring? Grammar quiz2 (pp.10-15) ペア、グループワークでのアクティビティー(AL)を通して既習事項の定着を図る。</p>			

- 第6回 Unit 3 Do it before you're 30! (pp. 16-21) 日常よく使う現在完了形の文について学ぶ。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。ICT活用
- 第7回 Unit 3 Do it before you're 30! Grammar quiz3 (pp. 16-21) ペア、グループワークでのアクティビティー(AL)を通して既習事項の定着を図る。
- 第8回 Review Units 1-3 (pp. 22-23) リスニング演習問題や視覚教材を活用して、ノートテイキングの方法を学習する。ICT活用
- 第9回 Unit 4 The best place in the world! (pp. 24-29) 日常生活でよく使われる最上級をつくる形容詞及び、最上級の文について学ぶ。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。ICT活用
- 第10回 Unit 4 The best place in the world! Grammar quiz4 リーディング・文法 ICT活用
- 第11回 Unit 5 where's the party? (pp. 30-35) 副詞節をつくるbefor, after, whenの文について学ぶ。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。ICT活用
- 第12回 Unit 5 Where's the party? リーディング・文法 ICT活用
- 第13回 Unit 6 You should try it! (pp. 36-41) 提案・示唆を表すshouldと義務・責任を表すhave toについて学ぶ。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う、ICT活用
- 第14回 Unit 6 You should try it! Grammar quiz5 リーディング・文法 ICT活用
- 第15回 Review Units 4-6 (pp. 42-43) リーディングの際の、スキミング、スキヤニングについて学ぶ。
- 第16回 Unit 7 There are too many stores! (pp. 44-49) 身近な店や品物、また可算名詞や不可算名詞について確認する。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。ICT活用
- 第17回 Unit 7 There are too many stores! Grammar quiz6 リーディング・文法 ICT活用
- 第18回 Unit 8 Wanted: People who can sing (pp. 50-55) 会話によく出てくる関係代名詞who, that, whichがつくる文について学ぶ。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。ICT活用
- 第19回 Unit 8 Wanted: People who can sing Grammar quiz7 リーディング・文法 ICT活用
- 第20回 Unit 9 What were you doing? (pp. 56-61) 過去進行形を使つての様々な表現を学ぶ。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。ICT活用
- 第21回 Unit 9 What were you doing? Grammar quiz8 リーディング・文法 ICT活用
- 第22回 Review Units 7-9 (pp. 62-63) リスニング演習問題や視覚教材を活用して、ノートテイキングの方法を学習する。ICT活用
- 第23回 Unit 10 I used to sing (pp. 64-69) 過去のかかなり長い時間及び常習的または特徴的な習慣を表す。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。ICT活用

第24回 Unit 10 I used to sing(pp.64-69) Grammar quiz 9 リーディング・文法 ICT活用

第25回 Unit 11 You'll save money if... (pp70-75) zero and first conditional(仮定法)について学ぶ。記述問題やリスニング問題を用いて演習を定着を図る。ICT活用

第26回 Unit 11 You'll save money if,,, (pp70-75) Grammar quiz 10 リーディング・文法 ICT活用

第27回 Unit 12 You could be a lifeguard. (pp.76-81) Possibilities, Speculation, Peductionについての表現を学ぶ。記述問題やリスニング問題を用いて演習を。ICT活用

第28回 Unit 12 You clild be a lifeguard. (pp.78-91) Grammar quiz 11 リーディング・文法 ICT活用

第29回 Review Units 10-12 (pp.82-83) リスニング演習問題や視覚教材を活用して、ノートテイキングの方法を学習する。 ICT活用

第30回 Review 1-12(pp4-83) リーディング ICT活用

期末テスト

テキスト

SMART CHOICE 4th edition Student Book 2 (オックスフォード大学出版社)

参考書・参考資料等

参考資料などは必要に応じて配布します。

学生に対する評価

・授業への参加	20点
・Grammar Quiz (全11回)	25点
・SMART CHOICE(Activities)	10点
・LLC 課題 (Reading assignment)	10点
・TED 課題 (Listening assignment)	10点
・期末テスト	25点
合計	100点

授業科目名： ベーシック・ イングリッシュ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：シルビア ドブコ フスカ 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 ① 日常よく使われる文法や語彙を学ぶ。 ② 音読ができるようになり、文章を理解できるようになる。 ③ 異文化や国際語としての英語の有用性を学び、積極的な参加能力と理解する喜びを身につけ、自立した学習者となる。 ④ 聞いたり読んだりしたことについて、口頭で発表したり、返事を書いたりできる。 ⑤ ACTFL Intermediate-Low (CEFR A2-B1) レベルを目指す。			
授業の概要 学習者のレベルに応じて、実際の言語使用場面に配慮しながら、言語使用の機能の達成を考慮した文法や、頻度の高い語彙を学習する。意味の区切りを理解し、英語の音声の特徴にあった音読ができるようになる。英語で講義を理解したり、メモを取ったりするリスニングの基礎力と英語で専門書や説明書等を読解するリーディング力の基礎を養う。異文化理解や、理解する喜び、積極的な参加、英語の有用性などを理解し、生涯、英語を学習し続ける自立した英語学習者になる態度を養う。			
授業計画 第1回 オリエンテーション、登録 第2回 Unit 1 休暇はどうでしたか。スピーキング バケーション、文法：同意する／同意しない、リスニング： アクティビティとプラン 第3回 Unit 1 休暇はどうでしたか？読む： 旅行記事、グループワーク pp. 文法クイズ1 第4回 Unit 2 退屈だと思う！スピーキング： 意見を言う、文法：-ing/-ed 形容詞、リスニング： リラックスしたアクティビティ。 第5回 Unit 2 つまらないと思う！読む： 映画のレビュー、グループワーク pp. 文法クイズ2 6回 Unit 3 30歳までにやりなさい！スピーキング： 個人的な経験、文法：現在完了、リスニング： スポーツインタビュー。学術論文 なぜエクストリームスポーツをやりたがる人がいると思いますか？ 第7回 Unit 3 30歳までにやろう！読む： エクストリームスポーツの記事、TED-EdのYouTubeビデオ： サーフィンの複雑な歴史（スコット・ラーダーマン著）、グループワーク pp. 20-21、文法クイズ 3			

第8回 ユニット1-3の復習

第9回 Unit 4 世界一の場所！スピーキング： 場所の描写、文法：最上級の形容詞、リスニング： 地理ゲームショー

第10回 Unit 4 世界一の場所！読む： 致命的な動物の記事、グループワーク pp. 文法クイズ4。

第11回 Unit 5 パーティーはどこ？スピーキング： 特別な行事、文法：前、後、いつ、聞く： 新年の伝統。

第12回 Unit 5 パーティーはどこ？読む： 有名なお祭り、グループワーク pp. 文法クイズ5

第13回 Unit 6 試してみてもいい？スピーキング 提案／義務、文法：should と have to、リスニング： アドバイスをする。

第14回 Unit 6 You should try it！読む： ストレスの管理、TED-EdのYouTubeビデオ： ストレスが脳に与える影響 (Madhumita Murgia著)、グループワーク pp. 文法クイズ 6

第15回 ユニット 4-6 の復習

第16回 Unit 7 店が多すぎる！スピーキング： 不満、文法：Too, enough, many, much、リスニング： 買い物の習慣

第17回 Unit 7 お店が多すぎます！読む： オンラインショッピングの記事、グループワーク p p. 文法クイズ7

第18回 Unit 8 募集中： 歌える人。スピーキング： 好みについて述べる、文法：関係詞、リスニング： 留守電メッセージ。

第19回 Unit 8 Wanted： 歌える人 読む： デートのアドバイス、グループワーク pp. 文法クイズ8

第20回 Unit 9 あなたは何をしていましたか？スピーキング： 出来事を報告する： 事故の描写。

第21回 Unit 9 あなたは何をしていましたか？読む： ドラマチックな出来事の記事、グループワーク pp. 文法クイズ9

第22回 ユニット7-9の復習

第23回 Unit 10 I used to sing. スピーキング： スピーキング： 過去の習慣、文法：Used to、リスニング： 家族の歴史。

第24回 Unit 10 私は昔歌っていました。読む： 伝記記事、グループワーク pp. 文法クイズ10

第25回 Unit 11 You'll save money if... 話す： 推測する、文法：ゼロ条件法と第一条件法、リスニング： 使い捨てプラスチック。

第26回 Unit 11 お金を節約するには... 読書： 環境に関するニュース記事、グループワーク p. 75. 文法クイズ11

第27回 Unit 12 あなたはライフガードになれるかもしれません。スピーキング： 将来の計画、文法：可能性、推測、演繹を表すモーダル、リスニング： キャリアと留学。

第28回 Unit 12 あなたはライフガードになれるかもしれない。読む： 休暇中のボランティア
活動、グループワーク pp. 文法クイズ12

第 29 回 ユニット 10-12 の復習 文法小テスト 13

第30回 1-12復習 文法小テスト14

期末テスト

テキスト

SMART CHOICE 4th edition Student Book 2 (オックスフォード大学出版社)

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

授業への参加 Class participation 30点

文法クイズ (14回) Grammar quiz 30点

期末テスト・課題 Final test & assignments 40点

合計 Total 100点

授業科目名： イングリッシュ・ コミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：タン エンハイ 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>社会生活に必要な英語を理解し、使用できるなどの英語運用能力中級程度の習得を目指す。（英検2級程度、CEFR B1 level、ACTFL中級の中程度）</p> <p>キャン・ドーリスト目標</p> <p>a. 仕事や学校、レジャーなどで定期的に遭遇する馴染みのある事柄に関する明確で標準的なスピーチの要点を理解することができる。</p> <p>b. スピーチが比較的ゆっくりで明瞭な場合、現在の出来事や個人または職業上の興味を持つトピックに関する多くのラジオ番組やテレビ番組の要点を理解することができる。</p> <p>c. 主に高頻度の日常生活や職場関連の言語、また個人の手紙における出来事、感情、願望の記述からなるテキストを理解することができる。</p> <p>d. 該当言語が話されている地域での旅行中に発生する可能性のあるほとんどの状況に対処することができる。</p> <p>e. 馴染みのある、個人的な興味がある、または日常生活に関連するトピックについて、準備なしで会話に参加することができる（例：家族、趣味、仕事、旅行、現在の出来事）。</p> <p>f. 経験や出来事、夢、希望、野望を説明し、意見や計画の理由や説明を簡潔に述べるために、簡単な方法でフレーズを結びつけることができる。</p> <p>g. 物語を語ることや本や映画のプロットを説明し、自分の反応を述べるすることができる。</p> <p>h. 馴染みのあるトピックや個人的な興味に関する単純な連結されたテキストや、経験や印象を述べた個人的な手紙を書くことができる。</p> <p>i. 特定の興味を持つトピックに関する正式なプレゼンテーションスクリプトを書くことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習者のレベルに応じて、実際の言語使用場面や機能の達成を考慮しながら、口頭コミュニケーション能力と英作文を学習する。特に、論文やグループディスカッション等を英語でプレゼンテーションできる口頭コミュニケーション能力の基礎を養う。さらに、論文の要約や口頭プレゼンテーションのアウトライン等を英語で書く英作文の基礎を養う。</p>			

授業計画

セッション1：オリエンテーション／シラバス説明／アセスメント

セッション 2：ユニット 1 興味深い人生 (pp. 1-5)相手のことを知るために質問をする。

セッション 3：ユニット 1 興味深い生活 (pp. 6-10)現在形を使って、話の中の重要な場面を強調することができる。/クイズ1

セッション4：ユニット2 個人的な好み (11-15ページ) 服やファッションの好みについて話す。

セッション5：ユニット2 個人的な好み (16-20ページ) トピックの別の側面に関するフォローアップの質問を導入するために、今使用する。/クイズ2

セッション6：ユニット3 世界の文化 (21-25ページ) 自分の国の文化的伝統について話す。

セッション7：ユニット3 世界の文化 (26-30ページ) in fact のような表現を使い、話すときに、より直接的な表現に聞こえるようにする。/クイズ3

セッション8：ユニット4 人付き合い (33-36ページ) 外出や社交について話す。

セッション9：ユニット 4 人付き合い (pp. 36-42)

トピックを始めたり閉じたりするとき、理解度を確認するとき、間を置くとき、誰かに結論を言わせるときに、so を使う。/クイズ4

セッション10：ユニット5 法と秩序 (43-47ページ) 規則、規制、犯罪、刑罰について話し合う。

セッション11：ユニット5 法と秩序 (47-52ページ) 誰かが正当な主張をしていることを示すために、That's a good point を使う。/クイズ5

セッション12：ユニット6 奇妙な出来事 (53-57ページ) 偶然の一致や迷信について話すことができる。

セッション13：ユニット6の奇妙な出来事 (pp. 57-64)意味を明確にするために、別の方法で

自分の考えを繰り返す。／クイズ6

セッション14: ユニット7 問題解決 (pp. 65-69)他の人にしてもらおうことについて話す - 直す必要があることについて話す

セッション15: ユニット7 問題解決 (69-74ページ) Uh-oh! 「や」Oops ”のような表現を使う！何か問題が起きたとき／クイズ7

セッション16: ユニット8 行動 (pp. 75-79)反応や行動について仮定的に話すことができる。

セッション 17: ユニット 8 行動 (pp. 79-84)That reminds me (of)などの表現を使い、経験を共有することができる。／クイズ8

セッション18: 口頭発表スキル1(導入とQ&A)

1. Attention Grabber & Presentation Structure: プレゼンの効果的な導入法 (質問、ストーリー、驚きの事実など) と、明確な構成 (導入・本文・結論) を学び、論理的に話す力を養う。
2. TRACT Method for Q&A: 質疑応答を自信を持って行うために、TRACK法 (Thank, Rephrase, Answer, Check, Thank Again) を導入し、模擬練習を通して実践力を高める。

セッション19: 口頭発表スキル2 (表現とスライド)

1. Effective Vocal Delivery: オンライン環境に適した声の使い方 (明瞭さ、スピード、抑揚、間の取り方) を練習し、聴衆の集中を保つ方法を学ぶ。
2. Using Visual Aids Effectively: 聴衆を圧倒しないために、「1スライド1アイデア」「大きく読みやすい文字」など、スライド作成と説明の基本原則を学ぶ。

セッション20: ユニット9 物の世界 (pp. 85-89)

所有物と物質主義について話す - お金の管理について話し合う

セッション21: ユニット9 物の世界 (pp. 90-94)

他の人や他の情報源を引用する。／クイズ9

セッション22: 最終パワーポイント・プレゼンテーション相互評価1

プレゼンテーション①～⑩

Rubric Introduction & How to Give Constructive Feedback: 評価ルーブリックの各項目 (

内容、構成、話し方、スライドの使い方などを説明し、どのように具体的かつ前向きなフィードバックを行うかを学ぶ。

セッション23: 最終パワーポイント・プレゼンテーション相互評価2

プレゼンテーション⑪～⑳

Using the Rubric Critically During Peer Presentations: 発表を聴く際に、ルーブリックを活用して注意深く観察し、評価の根拠を明確に示す練習をする。

セッション24: 最終パワーポイント・プレゼンテーション相互評価3

プレゼンテーション㉑～㉓

Reflecting on Peer and Self Feedback: 相互評価の結果をもとに、自分の発表を振り返り、改善点や今後の目標を文章でまとめる活動を行う。

セッション25: ユニット10 名声 (pp. 97-101)

有名人と有名人について話す。

セッション26: ユニット 10 名声 (pp. 102-106)

タグクエスションを使って、アドバイスを和らげたり励ましたりすることができる。 / クイズ 10

セッション27: ユニット11 トレンド (pp. 107-111)

社会の変化について話す - 環境問題について話す

セッション28: ユニット 11 の傾向 (pp. 111-116)

会話の中で、以前に話されたことに言及することができる。 / クイズ 11

セッション 29: ユニット 12 キャリア (117-121 ページ)

重要な情報を強調する。

セッション 30: ユニット 12 キャリア (122-126 ページ)

The best part was (that) のような表現を使って、話す内容を紹介する。 - I don't know if ... を使って発言を紹介し、相手を話題に巻き込む。 / クイズ 12

期末試験

テキスト

McCarthy, M., McCarten, J., & Sandiford, H. (2014). Touchstone Student Book 4 (2nd edition), Cambridge University Press. ISBN: 978-1107680432

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

25 点 Flip課題 / Flip Tasks 25 points

25 点 週間クイズ / Weekly Quizzes 25 points

10 点 IVE・プロジェクト / IVE Project 10 points

40 点 期末パワーポイントプレゼンテーション発表* / Final PowerPoint Presentation*
40 points

100 点 合計 / TOTAL 100 points

授業科目名： イングリッシュ・ コミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：ウィルソン・ク リストファー・アンドリ ユー 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育教員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 1) 一般的な英語のコミュニケーション能力を高める。 2) 自己紹介ができ、自分がよく知っている概念について話すことができる。 3) 英語の理解力を高める。 4) 日本語に戻りながら、説明や繰り返しを求めることができる。 5) ペアやグループでの学習能力の向上 6) 様々なトピックの語彙を増やす。 7) 問題に対して自分の考えを話し合う能力を高める。 8) 英語に対する自信と学習意欲の向上 9) ACTFL Intermediate-Mid (CEFR B1)			
授業の概要 テキストを使用し、基本的な表現を学びながら特にリスニングとスピーキングの練習をできるだけたくさん行う。学習者のレベルに応じて、実際の言語使用場面と言語機能の達成を考慮しながら、語彙や文法、英語独特の音声体系の習得に基づいて口頭コミュニケーションと英作文を学習する。特に、論文やグループディスカッション等を英語でプレゼンテーションできる口頭コミュニケーション能力の基礎を養う。さらに、論文の要約や口頭プレゼンテーションのアウトライン等を英語で書く英作文の基礎を養う。異文化理解のみならず、自国や身近な地域の情報を発信でき、積極的にコミュニケーション・ストラテジーを用いて意思疎通を図り、生涯、英語を学習し続ける自立した英語学習者になる態度を養う。			
授業計画 第1回 授業の概要 学習目標と戦略 (ユニットゼロ) 第2回 自己紹介と他者紹介 (ユニット1) 第3回 自己紹介-家族、興味、経験について尋ねる (ユニット 1) ミニテスト 第4回 感情について話す-語彙と例 (ユニット 2) 第5回 感情について話す-個人的な経験 (ユニット 2) ミニテスト 第6回 復習、ユニット 1 と 2 + 流暢さの拡大			

- 第7回 場所を比較し、勧める (ユニット 3) ミニテスト
- 第8回 個人的な経験を描写する (ユニット 3)
- 第9回 最上級の出来事や場所について述べる (ユニット 4) ミニテスト
- 第10回 流暢に話す力をつける (ユニット 4)
- 第11回 復習、ユニット 4 と 5 + 流暢さの拡大 ミニテスト
- 第12回 物を貸してもらおう、理由を言う、言い訳をする (ユニット 5)
- 第13回 日本文化について話す (ユニット 6) ミニテスト
- 第14回 文化財について説明する (ユニット 6)
- 第15回 自己紹介プレゼンテーション ミニテスト
- 第16回 自己紹介プレゼンテーション。
- 第17回 過去の出来事の描写 (ユニット 7) ミニテスト
- 第18回 個人的な経験について話す (ユニット 7)
- 第19回 依頼をする (ユニット 8) ミニテスト
- 第20回 イベントを企画する-提案する (ユニット 8)
- 第21回 復習、ユニット 7 と 8 + 流暢さ拡大 ミニテスト
- 第22回 問題と解決策について話す (ユニット 9)
- 第23回 アドバイスを求める/与える (ユニット 9) ミニテスト
- 第24回 話をする (ユニット 10)
- 第25回 語り (ユニット 10) ミニテスト
- 第26回 復習、ユニット 9 と 10 + 流暢さの拡大
- 第27回 意見を求める/述べる (ユニット 11) ミニテスト
- 第28回 意見と同意/不同意を表す定型文の使用 (ユニット 11)
- 第29回 将来の計画と夢 (ユニット 12) ミニテスト
- 第30回 最終プレゼンテーション ミニテスト

期末試験については、講義内で課すプレゼンテーション発表をその代替とする。

テキスト

・ English Firsthand 2 FIFTH EDITION by Helgesen, Brown & Mandeville (Longman)

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

- ・ Weekly tests 40% ・ 語彙テスト40% ・
- ・ Self-introduction20% ・ 自己紹介20%
- ・ Listening & note-taking 10% ・ リスニングとメモ取り10%

- Presentation 20% • プレゼンテーション20% •
- Listening & note-taking 10% • リスニングとメモ取り10%
- 合 計 100%

授業科目名：数理・データサイエンス・AI入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：立津 慶幸 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. AI・データサイエンスの必要性を説明できる (DP1: ○、DP2: ◎、DP4: ○) 2. 社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる (DP1: ○、DP2: ◎DP4: ○) 3. どのような思考方法でデータを扱うか説明できる (DP3: ◎、DP4: ○) 4. データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる (DP1: ○、DP2: ◎、DP4: ○) 			
<p>授業の概要</p> <p>インターネット、コンピュータ、スマートフォンの普及により、誰でもデータを取得・提供できる現代社会では、データを活用するスキルが多岐に渡る分野で求められている。本講義では、データの背後に隠れた傾向や法則を導き出すためのデータサイエンスの基礎的な内容をオンデマンド中心に学習してもらい、配布課題の実施を通して理解度を深めることで、情報を適切に活用する技術の習得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：データサイエンスとは <講義形式：オンデマンド> データサイエンスとは何か、データサイエンスが重要視されている背景について説明し、データ活用を支援するデジタル技術のキーワード(ビッグデータ、IoT、AI)等を紹介する。 参考資料動画「現在のビジネス環境」(ネットワンシステムズ社提供)も視聴すること。</p> <p>第2回：社会で起きている変化 近年の市場の大きな変化を紹介するとともに、日本国内の現状(企業の国際競争力低下、人口推移)についても触れ、データを活用した社会実装(Society5.0)のアイデアと関連分野の具体例を紹介する。</p> <p>第3回：社会で活用されているデータ 社会で活用されているデータの例を取り上げながら、統計との関連性について述べる。データの分類(1次データ/2次データ、外部データ/内部データ、構造化/準構造化/非構造化データ)を説明する。また、オープンデータを活用した国内外の実例についても紹介する。</p> <p>第4回：データ・AIの活用領域 AIの定義について説明し、AIが今日に至るまでどのような発展を遂げてきたかに関する歴史を紹介する。そして、AI活用が進んでいる業種の事例をいくつか挙げ、人間の創造活動領域に関連するAI研究</p>			

についても触れる。

参考資料動画「AI事例」(ネットワンシステムズ社提供)も視聴すること。

第5回：データ・AI利活用のための技術

認識技術(画像認識技術、文字認識技術、音声認識技術、顔認証技術)を紹介し、この技術を支えるAI・機械学習の概要を説明する。現在のAIが抱える課題・難問の例を挙げるとともに、今後AIの発展が社会にもたらす影響を考える。

参考資料動画「機械学習概要」(ネットワンシステムズ社提供)も視聴すること。

第6回：データ活用とは

データと情報の関連性を明確にしなが、データの定義を説明する。データを実際に活用するためには、モデルの構築・分析が必要であるが、いくつか具体例を紹介しながら、データから価値を生み出すための「課題発見」と「解決策検討」について説明する。

第7回：データ・AI利活用の現場

製造業・小売業・サービス業・公共・インフラ業におけるデータ・AI活用方法を、国内外の企業の取り組みから紹介する。データ・AI活用により広がりを見せるシェアリングエコノミー、DtoC (Direct to Consumer)、スマートシティについても説明する。

第8回：データ・AI利活用の最新動向

データ・AIを活用した新しいビジネスの紹介と、その関連技術について説明する。更に、AIを活用したグローバースタートアップから、近年、新ビジネスが生まれやすい社会背景について述べる。

第9回：データを読む(1)

データの種類(量的変数と質的変数、尺度、離散変数と連続変数)について説明し、統計的なデータの取り扱いについて学習する。データの前処理についても学び、実際に収集したデータを活用するための実践的なスキルを身につける。

参考資料動画「データ分析アルゴリズム」(ネットワンシステムズ社提供)も視聴すること。

第10回：データを読む(2)

データ分析で注意すべき相関と因果の内容について説明する。また、データ収集で考慮すべき「母集団と抽出」の重要性を述べた後、正しいデータの味方について紹介する。

参考資料動画「機械学習アルゴリズム」(ネットワンシステムズ社提供)も視聴すること。

第11回：データを説明する

データを分かりやすく理解するためのツールであるグラフ(棒グラフ、円グラフ、レーダーチャート、折れ線グラフ、面グラフ、散布図、ヒートマップ)の基本について説明し、優れたデータ可視化事例を紹介することでデータ表現力を養う。

第12回：データを扱う

4つの演習を通し、「目的の明確化」、「計画の立案」、「分析の実施」、「結果の解釈と施策立案」、「実施と検証」のデータ分析プロセスを体験する。

第13回：データ・AIを扱う上での留意事項（1）

「ELSI」、「データに関する不正行為」、「個人情報の保護」について学習し、データ・AIを取り扱う上で留意すべき点を身につける。

第14回：データ・AIを扱う上での留意事項（2）

データ収集・分析におけるバイアス・注意点を把握することで、データが完全なものではないことを理解し、データを実際に取り扱うマナーを身につける。また、社会実装が進んでいるAIに対する倫理および「人間中心のAI社会原則」について考える。

第15回：データを守る上での留意事項とまとめ、今後に向けた学習について

データを取り巻く環境(セキュリティ、コンピュータウイルス、認証技術)について学び、情報リテラシーの向上を目指す。本講義のまとめを行う。

定期試験：期末試験を行う <講義形式：対面>

テキスト

テキストは、以下の参考図書を使用し、必要に応じてインターネットから単元に関連する事例を引用し、教材として使用する。

参考書・参考資料等

参考図書：

- ・教養としてのデータサイエンス(データサイエンス入門シリーズ) (2021/6) : 1,800円 + 税
※購入不要
- ・Rで学ぶ統計的データ解析 (データサイエンス入門シリーズ) (2020/11) : 3,000円 + 税 ※
購入不要

学生に対する評価

各単元の課題テスト50点、期末試験50点

※各課題未提出のもの、期末試験未受験者は不可となる。

授業科目名： コンピュータ・ リテラシー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大城 宜実 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 パソコンの実習を通して情報を適切に活用する技術を習得するのが目的である。			
授業の概要 大学生活に必要なコンピュータの基本操作について学ぶ。具体的には、1)ワードプロセッサ、2)表計算、3)プレゼンテーションソフト、4)電子メール、5)学内SNSの使い方を習得する			
授業計画 第1回 オリエンテーション： シラバス、学内PC環境、SNS（Universal Passportなど）、メール、印刷、 遠隔授業の運営説明 第2回 OSの基本操作、ファイル管理、情報検索、セキュリティー、著作権、各種ソフトの紹介 （第1章） 第3回 ワードプロ： 文章作成、編集、配置、修飾、構造化（段落等）、保存 （第2章 pp.18 - 35、実習 1, 2） 第4回 ワードプロ： ページ設定と印刷。表作成と編集（レイアウト変更、セル結合や分割、書式設定） （第2章 pp.36 - 49、実習 3, 4, 5, 6） 第5回 ワードプロ： 文章の編集（書式、レイアウト）、表現力向上（図や図形の挿入、罫線） （第2章 pp.50 - 71、実習 7, 8, 9,10,11） 第6回 ワードプロ： 長文作成（見出し、段落、ヘッダー・フッター、目次、置換）、文章中に表の利用 （第2章 pp.72 - 95、実習 12,13,14） 第7回 プレゼンテーション： 基本操作、スライド作成、デザイン、スライドショー実行、画像・図・テキストボックスの挿入 （第4章 pp.194 - 214、実習：自己紹介プレゼン作成（上）出身地・出身高・趣味など）			

<p>第8回 プレゼンテーション： 図表・グラフ・表の挿入と編集。アニメーション設定、印刷 (第4章 pp.215 - 237、実習：自己紹介プレゼン作成 (下))</p> <p>第9回 自己紹介プレゼンテーション発表会</p> <p>第10回 表計算： 基礎知識、データ入力・編集、ブックの保存 (第3章 pp.96 - 109、実習 15, 16)</p> <p>第11回 表計算： 表の作成、関数、罫線、表示形式、配置、フォント、条件付き書式、行や列 の大きさ・挿入・削除・非表示、シート操作 (第3章 pp.110 - 129、実習 17, 18, 19)</p> <p>第12回 表計算： 表の印刷詳細設定、絶対参照・相対参照、基本関数 (第3章 pp.130 - 142、実習 20, p.152)</p> <p>第13回 表計算： 順位を求める、条件別の集計、表の参照、端数の処理、エラー回避、文字列 操作、日付計算 (第3章 pp.143 - 155、実習 21, 22, 23)</p> <p>第14回 表計算： グラフ作成 (棒・円・複合)、図形作成 (第3章 pp.156 - 167、実習 24, 25, 26, 27)</p> <p>第15回 表計算： データベースの利用 (並び換え・抽出)、ピボットテーブル、操作の自動化 (マクロ記録と編集)、レポート作成のコツ (第3章 pp.168 - 193、実習 28, 29, 30) 期末試験 期末試験を行う。</p>
--

テキスト

「30時間アカデミック Office 2021 Windows 11対応」

参考書・参考資料等

特になし。適宜、授業の中で紹介する。

学生に対する評価

課題の提出状況 60点

期末テストの成績 40点 合計 100点満点

タイピングのテストでは、15週までに、10分間に300文字の日本語入力ができなければ[不可]
]となる。

学習目的の生成AI利用は勧めるが、課題作成や試験での利用は固く禁じる。

本授業の成績評価における秀・優・良・可・不可の意味は、全学の成績評価基準に従う。

到達目標と評価方法との対応については、オリエンテーションで解説する。

授業科目名： コンピュータ・ リテラシー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：渡慶次 憲人 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 パソコンの実習を通して情報を適切に活用する技術を習得するのが目的である。			
授業の概要 大学生活に必要なコンピュータの基本操作について学ぶ。具体的には、1)ワードプロセッサ、2)表計算、3)プレゼンテーションソフト、4)電子メール、5)学内SNSの使い方を習得する			
授業計画 第1回 オリエンテーション： シラバス、学内PC環境、SNS（Universal Passportなど）、メール、印刷、 遠隔授業の運営説明 第2回 OSの基本操作、ファイル管理、情報検索、セキュリティー、著作権、各種ソフトの紹介 （第1章） 第3回 ワードプロ： 文章作成、編集、配置、修飾、構造化（段落等）、保存 （第2章 pp.18 - 35、実習 1, 2） 第4回 ワードプロ： ページ設定と印刷。表作成と編集（レイアウト変更、セル結合や分割、書式設定） （第2章 pp.36 - 49、実習 3, 4, 5, 6） 第5回 ワードプロ： 文章の編集（書式、レイアウト）、表現力向上（図や図形の挿入、罫線） （第2章 pp.50 - 71、実習 7, 8, 9,10,11） 第6回 ワードプロ： 長文作成（見出し、段落、ヘッダー・フッター、目次、置換）、文章中に表の利用 （第2章 pp.72 - 95、実習 12,13,14） 第7回 プレゼンテーション： 基本操作、スライド作成、デザイン、スライドショー実行、画像・図・テキストボックスの挿入 （第4章 pp.194 - 214、実習：自己紹介プレゼン作成（上）出身地・出身高・趣味など）			

第8回 プレゼンテーション： 図表・グラフ・表の挿入と編集。アニメーション設定、印刷
(第4章 pp.215 - 237、実習：自己紹介プレゼン作成(下))

第9回 自己紹介プレゼンテーション発表会

第10回 表計算： 基礎知識、データ入力・編集、ブックの保存
(第3章 pp.96 - 109、実習 15, 16)

第11回 表計算： 表の作成、関数、罫線、表示形式、配置、フォント、条件付き書式、行や列
の大きさ・挿入・削除・非表示、シート操作

(第3章 pp.110 - 129、実習 17, 18, 19)

第12回 表計算： 表の印刷詳細設定、絶対参照・相対参照、基本関数
(第3章 pp.130 - 142、実習 20, p.152)

第13回 表計算： 順位を求める、条件別の集計、表の参照、端数の処理、エラー回避、文字列
操作、日付計算

(第3章 pp.143 - 155、実習 21, 22, 23)

第14回 表計算： グラフ作成(棒・円・複合)、図形作成

(第3章 pp.156 - 167、実習 24, 25, 26, 27)

第15回 表計算： データベースの利用(並び換え・抽出)、ピボットテーブル、操作の自動化
(マクロ記録と編集)、レポート作成のコツ

(第3章 pp.168 - 193、実習 28, 29, 30) 期末試験

期末試験を行う。

テキスト

「30時間アカデミック Office 2021 Windows 11対応」

参考書・参考資料等

特になし。適宜、授業の中で紹介する。

学生に対する評価

課題の提出状況 60点

期末テストの成績 40点 合計 100点満点

タイピングのテストでは、15週までに、10分間に300文字の日本語入力ができなければ[不可]
]となる。

学習目的の生成AI利用は勧めるが、課題作成や試験での利用は固く禁じる。

本授業の成績評価における秀・優・良・可・不可の意味は、全学の成績評価基準に従う。

到達目標と評価方法との対応については、オリエンテーションで解説する。

授業科目名： コンピュータ・ リテラシー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：我部 政光 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 パソコンの実習を通して情報を適切に活用する技術を習得するのが目的である。			
授業の概要 大学生活に必要なコンピュータの基本操作について学ぶ。具体的には、1)ワードプロセッサ、2)表計算、3)プレゼンテーションソフト、4)電子メール、5)学内SNSの使い方を習得する			
授業計画 第1回 オリエンテーション： シラバス、学内PC環境、SNS（Universal Passportなど）、メール、印刷、 遠隔授業の運営説明 第2回 OSの基本操作、ファイル管理、情報検索、セキュリティー、著作権、各種ソフトの紹介 （第1章） 第3回 ワードプロ： 文章作成、編集、配置、修飾、構造化（段落等）、保存 （第2章 pp.18 - 35、実習 1, 2） 第4回 ワードプロ： ページ設定と印刷。表作成と編集（レイアウト変更、セル結合や分割、書式設定） （第2章 pp.36 - 49、実習 3, 4, 5, 6） 第5回 ワードプロ： 文章の編集（書式、レイアウト）、表現力向上（図や図形の挿入、罫線） （第2章 pp.50 - 71、実習 7, 8, 9,10,11） 第6回 ワードプロ： 長文作成（見出し、段落、ヘッダー・フッター、目次、置換）、文章中に表の利用 （第2章 pp.72 - 95、実習 12,13,14） 第7回 プレゼンテーション： 基本操作、スライド作成、デザイン、スライドショー実行、画像・図・テキストボックスの挿入 （第4章 pp.194 - 214、実習：自己紹介プレゼン作成（上）出身地・出身高・趣味など）			

<p>第8回 プレゼンテーション： 図表・グラフ・表の挿入と編集。アニメーション設定、印刷 (第4章 pp.215 - 237、実習：自己紹介プレゼン作成(下))</p> <p>第9回 自己紹介プレゼンテーション発表会</p> <p>第10回 表計算： 基礎知識、データ入力・編集、ブックの保存 (第3章 pp.96 - 109、実習 15, 16)</p> <p>第11回 表計算： 表の作成、関数、罫線、表示形式、配置、フォント、条件付き書式、行や列 の大きさ・挿入・削除・非表示、シート操作 (第3章 pp.110 - 129、実習 17, 18, 19)</p> <p>第12回 表計算： 表の印刷詳細設定、絶対参照・相対参照、基本関数 (第3章 pp.130 - 142、実習 20, p.152)</p> <p>第13回 表計算： 順位を求める、条件別の集計、表の参照、端数の処理、エラー回避、文字列 操作、日付計算 (第3章 pp.143 - 155、実習 21, 22, 23)</p> <p>第14回 表計算： グラフ作成(棒・円・複合)、図形作成 (第3章 pp.156 - 167、実習 24, 25, 26, 27)</p> <p>第15回 表計算： データベースの利用(並び換え・抽出)、ピボットテーブル、操作の自動化 (マクロ記録と編集)、レポート作成のコツ (第3章 pp.168 - 193、実習 28, 29, 30) 期末試験 期末試験を行う。</p>

テキスト

「30時間アカデミック Office 2021 Windows 11対応」

参考書・参考資料等

特になし。適宜、授業の中で紹介する。

学生に対する評価

課題の提出状況 60点

期末テストの成績 40点 合計 100点満点

タイピングのテストでは、15週までに、10分間に300文字の日本語入力ができなければ[不可]
]となる。

学習目的の生成AI利用は勧めるが、課題作成や試験での利用は固く禁じる。

本授業の成績評価における秀・優・良・可・不可の意味は、全学の成績評価基準に従う。

到達目標と評価方法との対応については、オリエンテーションで解説する。

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：嘉納英明、西本裕輝 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育の本質及び目標を理解し、子ども・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解することができる。 ○近代教育制度の成立と展開過程及び現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解することができる。 ○代表的な教育家の思想について理解することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>講義は、中学校や高校で教育を実践する上で必要になる、教育の基本的な原理・原則について内外の教育思想や教育の歴史などを手がかりに検討する。そのうえで、現代の教育が抱える課題を検討する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 イン트로ダクション 西本 第2回 教育の意義と目的 西本 第3回 子どもの発達と社会化① 西本 第4回 子どもの発達と社会化② 西本 第5回 教育と児童福祉との関連性 西本 第6回 教育の思想と歴史的変遷①：ロック、ルソー、ペスタロッチなど 嘉納 第7回 教育の思想と歴史的変遷②：フレーベル、デューイ、モンテッソーリなど 嘉納 第8回 近代の教育制度の成立 嘉納 第9回 戦後教育改革：学校制度の成立と発展、教育法規・教育行政 特別支援教育 嘉納 第10回 教育の課程：隠れたカリキュラムとは 西本 第11回 教育の評価 西本 第12回 生涯学習 西本 第13回 教育の現代的課題①：不登校、いじめ、学力低下など 西本 第14回 教育の現代的課題②：少子化、教師のメンタルヘルスなど 西本 第15回 まとめ 西本</p> <p>期末試験</p> <p>※以上の順番は受講生の様子を見ながら入れ替えることがある</p>			

テキスト

授業内容と関係する情報（ネット情報を含む）は、事前にお知らせします。

参考書・参考資料等

- 『教職へのいざない—名桜大学教職入門書—』東洋企画、平成31年
- 文部科学省『中学校 学習指導要領（令和29年告示）』
- 文部科学省『高等学校 学習指導要領（令和30年告示）』
- 文部科学省『中学校 学習指導要領解説（令和29年告示） 総則編』
- 文部科学省『高等学校 学習指導要領解説（令和30年告示） 総則編』
- 授業の中で、適宜、文科省関連情報、新聞資料等を紹介します。
- 授業と関連する基本的な資料等は、教員養成支援センターにあります。

学生に対する評価

期末試験70点

ふりかえりシート 30点=2点（ふりかえりシートへの評価）×15回

合計100点

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山城 千秋 嘉納 英明
			担当形態： オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>○現代の教員に求められる基礎的な資質能力や教員の職務の全体像及び研修の意義や制度上の位置付けについて理解することができる。</p> <p>○教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。</p> <p>○校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。</p>			
授業の概要			
<p>本授業は、現代社会における教師の専門性、教職の倫理、学校組織のあり方、教員の職務遂行能力について理解を深めることを目的とする。教師としての職責と使命を学ぶとともに、教員に求められる資質・能力の具体像を明確にする。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション：教職家庭における本科目位置づけ（嘉納）</p> <p>第2回：教職の意義①：教育の公共性と教師の社会的使命（嘉納）</p> <p>第3回：教職の意義②：教師の専門性とキャリア形成（嘉納）</p> <p>第4回：教員の職務の全体像：法令に基づく職務、学校教育の基本構造（嘉納）</p> <p>第5回：学習指導の職務：学習指導要領、授業づくりの基本（嘉納）</p> <p>第6回：生徒指導・進路指導：子どもの理解、問題行動への対応、キャリア教育（嘉納）</p> <p>第7回：学級経営と組織マネジメント：学級の機能、組織としての学校（嘉納）</p> <p>第8回：保護者・地域との連携①：学校と家庭との連携、PTA（山城）</p> <p>第9回：保護者・地域との連携②：地域社会との連携、地域学校協働活動（山城）</p> <p>第10回：チーム学校と多職種連携：スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど（山城）</p> <p>第11回：教員の働き方と労働環境：勤務実態、働き方改革、メンタルヘルス（嘉納）</p> <p>第12回：教員倫理：教育の専門職倫理、教師の責任、ハラスメント防止（嘉納）</p> <p>第13回：教員の法的責任：学校事故、管理責任、個人情報保護（嘉納）</p>			

第14回：現代の教育課題と教員の役割：インクルーシブ教育、ICT活用、児童生徒支援（山城）

第15回：振り返りとまとめ：私が考える教職の意義と教師像（嘉納）

期末試験

テキスト

特に指定しないが、授業内で適宜参考文献を紹介する。

参考書・参考資料等

○ティム・インゴルド『教育とはなにか』亜紀書房、2025

学生に対する評価

評価は期末試験（レポートを含む）に基づいておこなう。試験の評価の基準は以下の通り。問題設定に対する、論理的で一貫した解決策を提示し、創造的な論述であると評価できる（90-100点）。新しい方向性や、別の考え方を組み入れいている（80-89点）。講義の内容を主体的に受け取り直し、自分なりの考えをわずかに含んで論述されている（70-79点）。講義の内容を再現することができる（60-69点）。

授業科目名：教育制度論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松田香南
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育制度の基本原則をキーワードを用いて説明することができる。 ・教育関係法規や教育行政の理念および組織体系を理解することができる。 ・学校経営や学校安全、地域連携などについて原理と実践のあり方を理解することができる。 ・教育制度をめぐる歴史を把握した上で、近年の政策動向を捉え、今日的課題についてディスカッション及び口頭で発表することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>「教育制度」と聞くと、堅苦しく難しいイメージを持つ人が多いかもしれませんが、ですが、法制度は私達の生活の土台となる、とても身近なものです。本講義では、学校教育の仕組みを形づくる教育制度の基本的な考え方や法体系を理解し、その意義と問題点を考察します。いま、学校で「当たり前」とされている事柄がどのようにつくられてきたのか、教育制度の歴史的展開を知り、さらに、近年の教育制度改革や教育政策の動向を知ることで、これからの教育がどう変化していくのか、考察を深めます。</p> <p>本講義では適宜、受講者自身が教育制度に関する情報を収集できるよう、法規集や関連のウェブサイトなど各種ツールの利用方法を紹介します。さらに、ディスカッションや口頭発表を行うことで、講義全体を通して、受講生が自ら調べ、考え、活発な意見交流を行います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育制度を学ぶ意味（ガイダンスを含む）</p> <p>第2回：子どもの権利—教育を受ける権利の保障</p> <p>第3回：教育法のしくみ—教育制度の法律主義と不文法</p> <p>第4回：学校の制度— 一条校と公の性質</p> <p>第5回：義務教育の制度—だれにとっての「義務」？</p> <p>第6回：教育の機会均等と無償制—選別主義と普遍主義</p> <p>第7回：教育内容の制度—学習指導要領と教科書制度</p> <p>第8回：教職員の制度—職務・福利厚生—</p> <p>第9回：教職員の制度—養成・採用・研修・評価—</p> <p>第10回：教育行政の制度—国・地方の教育行政組織—</p> <p>第11回：学校の経営と地域との連携—地域に根ざす学校づくり</p>			

第12回：危機管理の制度—安全な学校づくりを目指して

第13回：多様な教育機会と子どもの権利（子どもの貧困）

第14回：多様な教育機会と子どもの権利（障害のある子どもと教育）

第15回：多様な教育機会と子どもの権利（学校の中のジェンダー秩序とLGBTQ+）

定期試験

テキスト

なし。毎回プリントを使用する。

参考書・参考資料等

石井拓児ほか『教育小六法2026』（学陽書房）

川口洋誉・古里貴士・中山弘之『未来を創る教育制度論 [新版]』（北樹出版）

高妻紳二郎『新・教育制度論 [第2版]：教育制度を考える15の論点』（ミネルヴァ書房）

阿内春生『基礎から学ぶ教育行政学・教育制度論』（昭和堂）

上地完治・西本裕輝『沖縄で教師をめざす人のために』（協同出版）

添田久美子・石井拓児『事例で学ぶ学校の安全と事故防止』（ミネルヴァ書房）

日本教育法学会編『教育法の現代的争点』（北樹出版）

学生に対する評価

定期試験（50%）、レポート（20%）、リアクションペーパー&発表（30%）で評価する。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：木村堅一 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①心身の発達の概念並びに関連要因を踏まえ、教育における発達理解の意義を理解できる。</p> <p>②発達段階の各時期における運動、言語、認知及び社会性の発達の特徴を理解できる。</p> <p>③学習の概念及びその過程を説明する諸理論を理解できる。</p> <p>④主体的学習を支える動機づけ、集団づくり及び学習評価のあり方を発達の特徴と関連づけて理解できる。</p> <p>⑤心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を促す支援の基礎となる考え方を理解できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育心理学(educational psychology)とは、教育過程における諸現象について心理学的に研究し、教育実践の合理化と効率化に貢献しようとする心理学の一分野である。本講義では、教育心理学の基本的知見を整理し、またその背後にある心理学的なものの見方、考え方をアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。講義内容は次の4領域で構成されている。(1)認知心理学や学習心理学の基本的な理論を紹介しながら、教育実践とのかかわりに触れる(第2～5週)。(2)学校教育場面でのより実践的な問題について理解する(第6・7・9週)。(3)心身の発達を理解する(第10～12週)。(4)発達障害・カウンセリング・臨床実践の基礎知識を得る(第13～15週)。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： オリエンテーション ①授業の目的 ②シラバス ③授業の方法 ④テキスト ⑤登録</p> <p>第2回： 記憶力がいいとはどういうことか(短期記憶、長期記憶、忘却) 教育心理学が心理学の中でどのような立ち位置を占めているのかということと、「学習」するうえで非常に重要な機能である記憶について解説する。〈授業形式： 講義・グループワーク〉 〈準備学習： 予習(第1章)〉</p> <p>第3回： 学ぶことと考えること(知識、問題解決) われわれの中で知識がどのように蓄えられているかを考察する。また、「よく定義された問題」に対する2種類の問題解決方略を解説する。〈授業形式： 講義・グループワーク〉 〈準備学習： 復習(第1章) 予習(第2章)〉</p> <p>第4回： ほめることの大切さ(古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、自己強化) ほめられるということは一種の報酬である。ほめられた人間はその原因となった行動を再び行おうとする。教育において児童生徒をほめることは重要であり、その効果を解説する。〈授業形式： 講義・グループワ</p>			

ーク> <準備学習：復習（第2章）・予習（第3章）>

第5回： 「やる気」を考える（期待－価値モデル、統制感、原因帰属、内発的動機づけ） 個人はどのような課題に対してやる気をもつのか、またどのような個人がやる気もちやすいのかについて解説する。<授業形式： 講義・グループワーク> <準備学習：復習（第3章）・予習（第4章）>

第6回： 学級という社会（学級集団、教師－生徒関係、学級雰囲気、生徒の人間関係、テスト） 学級は各児童生徒にとって重要な環境と言える。学級のありよう次第で各児童生徒の気持ちや学習効果が左右されることがある。この回では学級という集団が児童生徒に与える影響を解説する。<授業形式： 講義・グループワーク> <準備学習：復習（第4章）・予習（第5章）>

第7回： どのように教えるか（学習指導、発見学習、受容学習、グループ学習、個別学習、ATI） 学習指導形態には様々あり、ICT環境の整備とともにプログラム学習が脚光を浴びている。発見学習や仮説実験授業、グループ学習、プログラム学習と伝統的な一斉学習の長所・短所について解説する。<授業形式： 講義・グループワーク> <準備学習：復習（第5章）・予習（第6章）>

第8回： 前半のまとめ、中間試験 <授業形式： 講義・試験> <準備学習：復習（第1～6章）>

第9回： 児童・生徒をどう評価するか（教育の成果を評価する、評価のための情報を得る方法） 教員が児童生徒を公平・適切に評価するのは難しい。この回では様々な評価方法と、評価する際に生じるバイアスについて解説する。<授業形式： 講義・グループワーク> <準備学習：予習（第7章）>

第10回： 人間の発達について考える（発達とは、遺伝と環境、学習の臨界期と敏感期） 人間の知能・性格などは環境と遺伝の影響を受けて段階的に発達していく。発達に及ぼす遺伝と環境の影響力の大きさや研究方法について解説する。<授業形式： 講義・グループワーク> <準備学習：復習（第7章）・予習（第8章）>

第11回： 知的発達のメカニズム（頭がよいということ、知能の発達） 人間の知的能力がどのように発達していくのかについて解説する。特に乳児～青年期の知的発達についてピアジェの発達理論を下に詳しく解説する。<授業形式： 講義・グループワーク> <準備学習：復習（第8章）・予習（第9章）>

第12回： 人格発達の基礎（フロイトの発達段階、エリクソンの発達段階、愛着、自我同一性） 人間の人格や性格がどのように発達していくのかについて、フロイトやエリクソンの発達段階を下に、特に幼少期における基本的信頼の獲得、青年期の自我同一性の獲得について解説する。<授業形式： 講義

・グループワーク> <準備学習：復習（第9章）・予習（第10章）>

第13回： 困難を抱える子どもたち（発達障害とは、主な発達障害） 発達障害（学習障害、ADHD、自閉症など）の定義や概略とその教育現場の状況を解説し、その上でどのような教育を行っていくべきかを議論する。<授業形式： 講義・グループワーク> <準備学習：復習（第10章）・予習（第11章）>

第14回： カウンセリングとは（クライアント中心療法、行動療法、認知療法） 児童生徒が罹患しやすい心の病気とそれに対する代表的な心理療法（クライアント中心療法、行動療法、認知療法）を解説する。<授業形式： 講義・グループワーク> <準備学習：復習（第11章）・予習（第12章）>

第15回： 教育心理学 最新事情、まとめ <授業形式： 講義・グループワーク> <準備学習：復習（第12章）・予習（配布プリント）>

期末試験

テキスト

鎌原雅彦・竹網誠一郎（著） やさしい教育心理学 第5版（有斐閣アルマ）（有斐閣，2019年）

参考書・参考資料等

板山勝樹（編著） 教職へのいざない（名桜大学教職入門書）（東洋企画，2019年）

学生に対する評価

毎回の振り返り	25点（各授業の結論とその根拠となる理論・研究の記述）
中間試験	25点
期末試験	50点
合計	100点

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐和田 聡 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>○障害のある子どもへの見方、教育に関する歴史的な事例等を通して、特別支援教育の基本的な考え方が何であるかを理解する</p> <p>○特別支援教育の現状と課題を把握し、適切な指導・支援の在り方について自身の考えを整理する</p> <p>○通常の教育と特別支援教育との違いについて検討し、「教育の本質」について考えを深める。</p> <p>○母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある子どもの学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>○特別支援教育に関する様々な情報を通して、以下の点について理解を深めるとともに、「教育」の本質と関連させながら特別支援教育についての学びを進めていく。①日本における障害児教育の歴史から現代の教育を見つめ直す ②現在の特別支援教育の現状と課題（本県） ③障害についての理解（障害観、障害の特性、障害児本人・保護者の心情等） ④障害のある子どもへの適切な指導・支援の在り方や特別支援教育の内容 ⑤特別支援学校卒業後の状況（進路・社会生活等） ⑥障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもへの適切な指導・支援の在り方</p> <p>○本授業においては、講義を中心とした形態となるが、途中でグループ・ディスカッションなどを取り入れ、考えをまとめる時間設定をしながら進めていく。その際に「正しい解」はなく、他者の考えとの比較や取り入れなど摺り合わせることで自身の「考えの質」を高めることを大事にしていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>○本授業に関する概要、講義の進み方（留意点等含む）</p> <p>○学生自身が現時点で考える「本県の教育課題」等をテーマにしたディスカッション（子どもの貧困や外国にルーツを持つ子どもの教育課題も含む）</p> <p>第2回：日本における障害児教育の歴史①</p> <p>○日本の「障害」にまつわる話や障害児（者）の存在</p> <p>○障害者への教育（職業教育中心）について</p> <p>○明治から大正期における国策及び国の情勢と障害児（者）への見方や教育について</p> <p>第3回：日本における障害児教育の歴史②</p> <p>○戦後の教育の変遷と特殊教育</p> <p>○特殊教育から特別支援教育への転換</p> <p>第4回：特別支援教育についての基本的な考え</p> <p>○特別支援教育への転換の背景となる障害観の変遷</p> <p>○文部科学省の通達から読み解く特別支援教育の基本的な考え</p> <p>第5回：障害の特性①</p> <p>○各障害の特性等について（知的障害、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱）</p> <p>第6回：障害の特性②及びインクルーシブ</p> <p>○発達障害</p> <p>○ノーマライゼーション思想や社会の動きと教育</p> <p>第7回：障害のある子どもや保護者の心理をふまえた教育相談</p> <p>○障害のある子どもや保護者の心理</p> <p>○クライアントに寄り添った教育相談の在り方</p>			

<p>第8回：障害児（者）に関する国の施策 ○障害者差別法等</p> <p>第9回：○沖縄県における特別支援教育の状況 ○特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童生徒 ○市町村の取組（教育支援委員会など） ○課題について</p> <p>第10回：特別支援学校等における教育 ○学習指導要領 ○教育課程（「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容を含む。） ○学級経営の重要性</p> <p>第11回：マネジメントを導入した実践 ○学校経営、学級経営、授業実践、カリキュラム・マネジメントなど ○母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある子どもの学習上又は生活上の困難や組織的な対応</p> <p>第12回：「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」 ○個別の指導計画の内容 ○個別の教育支援計画の内容 ○個別の教育指導計画と個別の教育支援計画との関係（指導と支援）</p> <p>第13回：○障害のある子どもへの具体的な指導・支援 ○子ども理解（アセスメントを含む） ○事例をもとに具体的な手立ての検討（事例研究）</p> <p>第14回：特別支援学校卒業後の社会生活の状況 ○卒業後の進路 ○社会生活における課題 ○卒業後のエピソードから見える課題についてグループ・ディスカッション</p> <p>第15回：学校現場での実習に向けて ○実習時における留意点等：特別の教育的ニーズのある子どもの配慮や対応を含む。 ○本授業のまとめ ○特別支援教育の本質と通常教育との相違</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>○授業の内容や流れ等についてレジュメを毎時間配布し、それに基づいて展開する。また、参考資料等についての情報を適宜提供する</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>○特別支援学校学習指導要領解説及び自立活動編（平成29年告示）</p> <p>○「特別支援学校への転換を目指した知的障害養護学校の在り方」2007年 佐和田聡</p> <p>○知的障害教育校における教育課程に関する実践的研究 ―生徒の主体性を促す進路指導の在り方― 琉球大学教職センター 2019年 佐和田 聡</p> <p>○特別支援学校における学校組織マネジメントを活かした学校経営 I 琉球大学教職センター 2019年 佐和田 聡</p> <p>○知的障害教育校における教育課程に関する実践的研究 ―「個別の教育支援計画」の目標設定からみえる課題― 琉球大学教育学部紀要第94集 2019年 佐和田 聡</p>
<p>学生に対する評価：レポート30点 期末試験 70点 合計100点</p>

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：板山 勝樹 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>日本の学校で、子どもは何を、いつ、どのような順序で学び、教師はそれを教え、いかに評価・改善するのかという教育課程の問題についての理解を深め、学生が一定の考え方を持つことができるようになることを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>目標を達成するために、教育課程の基本問題である、以下の四点についての授業（課題把握と研究の進展等）を展開する。</p> <p>(1) 教育課程の内容選定の基準や原理に関する問題 ＝「何を教育内容として選択し、編成するのか」という問題</p> <p>(2) 教育課程の全体構造に関する問題 ＝「学校の教育活動を全体としてどのように編成するのか」という問題</p> <p>(3) 教育過程の評価・改善に関わる問題 ＝「学校の教育課程をどのように客観的に評価し、改善に役立てるか」という問題</p> <p>(4) 教育課程の編成主体の在り方、その組織や権限の所在に関する問題 ＝「誰が学校の教育課程を編成するのか」という問題</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション等 授業の目的・内容・方法の説明，シラバスの確認，診断的評価，登録 等</p> <p>第2回：教育課程を考える意味1 教育課程編成の基本原理や学力問題と教育課程の関係性について学ぶ。</p> <p>第3回：教育課程を考える意味2 カリキュラム・マネジメントの意義や重要性等を学ぶ。</p> <p>第4回：現代日本の教育課程の歴史1 1948・1951年学習指導要領の特徴やその社会的背景，社会において果たした役割・機能，1948年版と1951年版における変容について学ぶ。グループでの討議を行い，1948・1951年学習指導要領の特徴等を整理する。</p> <p>第5回：現代日本の教育課程の歴史2</p>			

1958・1968年学習指導要領の特徴やその社会的背景，社会において果たした役割・機能，1951年版と1958年版・1958年版と1968年版における変容について学ぶ。グループでの討議を行い，1958・1968年学習指導要領の特徴等を整理する。

第6回：現代日本の教育課程の歴史3

1977・1989年学習指導要領の特徴やその社会的背景，社会において果たした役割・機能，1968年版と1977年版・1977年版と1989年版における変容について学ぶ。グループでの討議を行い，1977・1989年学習指導要領の特徴等を整理する。

第7回：現代日本の教育課程の歴史4

1998・2008年学習指導要領の特徴やその社会的背景，社会において果たした役割・機能，1989年版と1998年版・1998年版と2008年版における変容について学ぶ。また，教科・領域を横断した教育課程編成や子ども，学校，地域の実態を踏まえた教育課程編成について学ぶ。グループでの討議を行い，1998・2008年学習指導要領の特徴等を整理する。

第8回：現代日本の教育課程の歴史5

2018年学習指導要領の特徴やその社会的背景，社会において果たした役割・機能，2008年版と2018年版における変容について学ぶ。各時期の学習指導要領の特徴やその社会的背景，社会において果たした役割・機能，また，教科・領域を横断した教育課程編成や子ども，学校，地域の実態を踏まえた教育課程編成について整理するとともに，中間テストを行い，確認する。

第9回：学力評価と新しい評価論・評価法

学力評価やカリキュラム評価の考え方やその変遷について学ぶ。

第10回：学校批判論と教育課程1（P. フレイレと教育課程）

P. フレイレの「問題提起型教育」の特徴やその社会的背景，教育課程論に及ぼした影響，それへの批判論について学ぶ。

第11回：学校批判論と教育課程2（I. イリッチと教育課程）

I. イリッチの「脱学校論」の特徴やその社会的背景，教育課程論に及ぼした影響，それへの批判論について学ぶ。

第12回：教育課程における平等1（B. バーンステインと教育課程）

B. バーンステインの「言語コード理論」の特徴やその社会的背景，教育課程論に及ぼした影響，それへの批判論について学ぶ。

第13回：教育課程における平等2（P. ブルデューと教育課程）

P. ブルデューの「文化的差異生産論」の特徴やその社会的背景，教育課程論に及ぼした影響，それへの批判論について学ぶ。

第14回：社会階層と教育課程（学校効果論・批判的教育学の展開）

「教育課程における平等」という視点から，再び，教育課程が社会において果たしている役割・機能やあるべき教育課程編成原理について検討する。

第15回：本授業のまとめ

全授業のまとめを行い，習得内容を整理する。

期末テスト

テキスト

特には指定せず，自作のテキスト・資料等を用いる。

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校 学習指導要領（令和29年告示）』，『高等学校 学習指導要領（令和30年告示）』，『中学校 学習指導要領解説（令和29年告示） 総則編』，『高等学校 学習指導要領解説（令和30年告示） 総則編』を参照すること。

学生に対する評価

- ・ 中間テスト 20 点
- ・ 授業時の態度・活動 30 点…上のレポートをグループでの議論・発表することをはじめとして，随時，グループでの議論を行う予定にしている。その際の，協議の方法，発表内容等も評価する。
- ・ 期末テスト 50 点…2 / 3 以上の出席がない場合，受験資格を失う。
- ・ 合 計 100 点

授業科目名： 道徳教育の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目（中一種免のみ）	単位数： 2単位	担当教員名：伊波 和子 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>これから教職をめざす皆さんにとっては、道徳教育に対する知見は今後ますます重要な資質・能力となります。本講座は、道徳教育が形成すべき「道徳性」の本性についての理解を深めるとともに、道徳授業を要とした学校教育活動全体での道徳教育の指導の在り方、さらに道徳科の特性を生かした授業の在り方、指導方法、授業設計、教材活用、評価等についての具体的実践について学び、学校現場での実践的指導力を身に付ける機会とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う教育活動である。</p> <p>その目標達成のために、道徳性の本性についての理論研究を通して、学校教育活動全体で行われる道徳教育の全体構想や指導体制、及び、その要となる「道徳科」の授業の在り方等を具体的に理解するとともに模擬授業の実践を通して「考え、議論する道徳」の授業を試行する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 班編制等</p> <p>第2回：日本社会の変遷と道徳教育</p> <p>第3回：道徳教育の意義（個人主義の光と影等）</p> <p>第4回：教育基本法等の改正と道徳教育</p> <p>第5回：「道徳授業」を要の時間とした道徳教育</p> <p>第6回：課題発表第1章「現代社会と道徳」の総括</p> <p>第7回：学校教育活動全体での道徳指導体制の在り方</p> <p>第8回：課題発表 第2章「道徳教育の本質と目標」の総括</p> <p>第9回：道徳の教科化の背景（社会的・制度的等）</p> <p>第10回：「道徳の時間」と「道徳科」の授業の指導理念の違い</p> <p>第11回：新学習指導要領の趣旨を生かした道徳授業（「考え議論する」道徳授業の実践事例の教材・指導案の分析等）</p> <p>第12回：「考え議論する道徳」の授業作り（実践事例、指導案分析・教材分析・指導略案作成）</p> <p>第13回：模擬授業① 担当班の模擬授業、相互評価（個人・班）</p> <p>第14回：模擬授業② 担当班の模擬授業、相互評価（個人・班）</p> <p>第15回：模擬授業の総括、授業全体の振り返りのまとめ</p>			

<p>期末試験</p>

<p>テキスト（推薦図書）</p>

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・【特別の教科 道徳編】小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 ・【特別の教科 道徳編】中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 ・道徳教育-改訂二版-（井ノ口淳三編：学文社，2020） |
|--|

<p>参考書・参考資料等 授業の中で適宜紹介する。</p>

<p>学生に対する評価</p>

- | |
|--|
| <p>(1) 活動状況等 20% ※積極性・主体性等(20%)</p> <p>(2) レポート 20% ※レポートは毎時終了時提出（内容稚拙は1点減点）</p> <p>(3) 課題発表 20% ※毎時各班20分を分担（最終評価は各班の評価を参考に講師が行う。）</p> <p>(4) 期末試験 40% ※欠席6回以上は、総括試験の受験資格は失格</p> |
|--|

<p>履修の条件：明確な目標と教育実践の即戦力を培うという意欲を持ち前向きに取り組む。</p>

<p>履修の心得：本時のねらいの確認及び授業後の振り返り（評価）を行う。班活動に協力する。</p>

<p>その他：毎時の講義資料の適切な管理と情報の確実な蓄積 等</p>

<p>※たて綴りの A4 判のファイルを準備</p>

授業科目名： 総合的な学習の時間 の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 新城 敦
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に 関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 総合的な学習の時間に関して、①その意義を理解しカリキュラム作成の考え方を理解すること。②指導計画作成と作成能力を育成すること。③指導評価に関する留意点を理解すること。以上の3点を目標とする。			
授業の概要 講義を通して「総合的な学習の時間」に関する指導方法の理解を深めると共に演習を通して互いの意見を交流し、主体的・対話的で深い学びについての指導方法を学ぶ。さらに、様々な実践事例を紹介し、指導計画の作成や指導方法に関しての基礎的な知識や能力・技能を身につける。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 講師の紹介、講義の目的、講義内容、試験・レポート、評価、登録などについて ・総合的な学習の時間の変遷、総合的な学習の時間の特質 第2回：「総合的な学習の時間」とは 総合的な学習の時間の創設の経緯と改定の意味を捉えることで、その意義や役割について知る。その上で、今後必要とされる資質・能力の育成と深い関わりについて理解する。 ※実践事例の紹介①・・・今帰仁村内小・中学校の総合的な学習の時間 第3回：「総合的な学習の時間」の目標 総合的な学習の時間の目標を確認し、各学校における目標及び内容の検討の際に留意すべきことについて議論し、理解を深める。 ※実践事例の紹介②・・・新潟県柳都中学校と沖縄県今帰仁中学校の事例紹介 第4回：「総合的な学習の時間」の内容と探究課題 総合的な学習の時間の内容と目標を具現化するための探究課題について、その特徴を分析する。 ※実践事例の紹介③・・・国頭地区内中学校の総合的な学習の時間の内容 第5回：「総合的な学習の時間」と地域の教育力の活用 実務経験がある学外講師を招聘し、理論と実践の部分から理解を深める。今帰仁村教育委			

員会の地域コーディネーターの実践発表を本人から聴き、質疑応答を行う。

※実践事例の紹介④・・・今帰仁村地域コーディネーター上間哲朗氏講話

第6回：「総合的な学習の時間」とカリキュラムマネジメント

カリキュラムマネジメントが必要とされる背景やその構成要素、視点を踏まえ教科横断的な視点を持った教育活動や地域人材の活用、教育課程編成について理解する。

※実践事例の紹介⑤・・・大分県の全体計画例、京都堀川高校の実践事例を紹介する。

第7回：「総合的な学習の時間」と地域課題解決学習

隠岐島前高校のPBLの実践事例を紹介し、地域課題解決学習や魅力化プロジェクトについて学ぶ。主体的対話的で深い学びを生み出す授業改善の視点を理解し、単元をデザインすることや個の気づきや疑問を共有し、探究のプロセスを重視することを理解する。

※実践事例の紹介⑥・・・島根県隠岐島前高校の実践例(前編)

第8回：「総合的な学習の時間」と校内研修

独立行政法人教職員支援機構の校内研修シリーズの動画を視聴し、総合的な学習の時間を通しての教職員の学びと研修の必要性を認識し、教員としての資質向上について理解する。

※実践事例の紹介⑦・・・教職員支援機構校内研修シリーズ(隠岐島前高校の実践:後編)

第9回：「総合的な学習の時間」の評価

評価の基本的な考え方や評価方法について理解し、授業改善や生徒の関心・意欲を高めるための評価と留意点について学ぶ。学習評価の進め方、評価規準の作成の方法、多様な評価方法、各学校の指導計画の評価、生徒の指導要録について等

※実践事例の紹介⑧・・・総合的な探究の時間(高等学校の事例)

第10回：「総合的な学習の時間」の全体計画について

総合的な学習の時間の全体計画の作成方法を学び、その留意点や各学校の実態に応じた目標の立て方等を理解する。

※実践事例の紹介⑨・・・単元配列表の例、総合的な学習を指導する学年教師集団の在り方

第11回：「総合的な学習の時間」の単元計画について

総合的な学習の時間の単元計画の作成方法を学び、その基本的な考え方、留意点等を理解し、学生自身が自己のやってみたい単元をイメージし、作成する。

※実践事例の紹介⑩・・・様々な学校、校種の実践事例

第12回：「総合的な学習の時間」の授業づくり

総合的な学習の時間の授業づくりの視点やポイントを踏まえ、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりの方法を理解する。

※実践事例の紹介⑪・・・学生の立てた単元計画の事例を基に演習を行う。

第13回：「総合的な学習の時間」の指導案の作成①

総合的な学習の時間の指導案の作成を行う。単元目標の設定、単元設定の理由、評価規準、本時案の作成方法を理解する。

第14回：「総合的な学習の時間」の指導案の作成②

指導案を作成する意義や留意点を理解し、指導案作成のポイントを学ぶ。

※実践事例の紹介⑫・・・補助教材の利活用、グループ学習の目的

第15回：「総合的な学習の時間」まとめ

前時で作成した指導案をグループで検討し、その中から良い事例を発表する。

これまでの講義内容を振り返り、まとめを行う。

学期末テスト：到達目標を達成するような定期テスト(講義内容を基にした記述問題)

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）総合的な学習の時間編」、「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）総合的な学習の時間編」、「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）総合的な探究の時間編」等を活用し自作資料を適宜配布

参考書・参考資料等

「今、求められる総合的な学習の時間の展開(小学校編)・(中学校編)」

「新学習指導要領の展開 総合的な学習(明治図書)」、「解説 総合的な学習の時間指導法(開隆堂)」、「総合的な学習の時間の指導法(日本文教出版)」、「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 中学校 総合的な学習の時間(国立教育政策研究所)」

学生に対する評価

- 授業点 45点 「出席カードのコメント内容を A3点・B2点・C1点の三段階で評価
- 発表・レポート 30点
- 学期末テスト点 25点

授業科目名： 特別活動の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：板山勝樹 村末勇介 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導方法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>自己の被教育経験を相対化しながら、学習指導要領特別活動の目標におけるキーワードである「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三点についての課題とその克服に向けた取り組みを検討する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別活動の意義や目標、内容・方法等を学ぶことによって、これからの特別活動のありようを構想できるようにする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（板山） 授業の目的・内容・方法の説明、シラバスの確認、診断的評価、登録 等</p> <p>第2回：特別活動とは何か（板山） 学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容ならびに、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質等を学ぶ。</p> <p>第3回：学校・学級集団に関する理論1（板山） 組織論・人間関係論の観点から、学校・学級集団や学級活動・ホームルーム活動の特質について学ぶ。</p> <p>第4回：学校・学級集団に関する理論2（板山） リーダーシップ論・準拠集団論の観点から、学校・学級集団や学級活動・ホームルーム活動の特質について学ぶ。</p> <p>第5回：子どもの状況と教育病理について議論し、共有する1（板山） 「集団」や「人間関係」に関わる子どもの課題をグループにて議論し、その課題克服をめざした教育課程全体で取り組む特別活動の指導のあり方を検討する。</p> <p>第6回：子どもの状況と教育病理について議論し、共有する2（板山） 「集団」や「人間関係」に関わる子どもの課題をグループにて議論し、その課題克服をめざした教育課程全体で取り組む特別活動の指導のあり方を検討する。</p> <p>第7回：Q-U活用の在り方1（Q-Uとは何かを考える）（板山）</p>			

Q-Uを活用した「望ましい集団活動」・「よりよい生活や人間関係」・「自主的、実践的な態度」・「生き方についての自覚」の形成を実践する前提として、Q-Uそのものやその理論的根拠等について学ぶ。

第8回：Q-U活用の在り方2（Q-Uを活用した教育実践づくりの検討）（板山）

Q-Uを活用した教育実践づくり等の検討を通して、特別活動における取り組みの評価・改善活動等について学ぶ。

第9回：思春期と向き合う教育実践の創造(1)～「いのち・からだ・性・死」を学ぶことの意味（村末）

全国・沖縄県における「思春期」世代の実態分析により、現代的な教育実践課題を明確にする。

第10回：思春期と向き合う教育実践の創造(2)～学級活動「男子の性」の授業づくり（村末）

「男子の性」の視点から、学級活動における授業の具体的内容と方法を理解する。

第11回：思春期と向き合う教育実践の創造(3)～学級活動「女子の性」の授業づくり（村末）

「女子の性」の視点から、学級活動における授業の具体的内容と方法を理解する。

第12回：思春期と向き合う教育実践の創造(4)～学級活動「多様な性(LGBTQ)」の授業づくり（村末）

「多様な性」の視点から、学級活動における授業の具体的内容と方法を理解する。

第13回：思春期と向き合う教育実践の創造(5)～特別活動の中での「デス・エデュケーション・がん教育」（村末）

「デス・エデュケーション・がん教育」の視点から、学級活動における授業の具体的内容と方法を理解する。

第14回：思春期と向き合う教育実践の創造(6)～体罰、いじめ、スクール・セクシュアルハラスメント問題とどう向き合うか（村末）

教員による子どもの人権侵害について、具体的事例分析をもとに、特別活動で何ができるか対策方法を導き出す。

第15回：本授業のまとめ（板山）

全授業のまとめを行い、習得内容を整理する。

期末テスト

テキスト

特には指定せず、自作のテキスト・資料等を用いる。

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校（平成29年告示）学習指導要領』，『高等学校 学習指導要領（平成30年告示）』，『中学校 学習指導要領解説（平成29年告示 特別活動編）』，『高等学校 学習指導要領解説（平成30年告示）特別活動編』を参照すること。

学生に対する評価

- ・ レポート内容 30 点… 1 回のレポート提出を求める。
- ・ 授業時の態度・活動 30 点… 上のレポートをグループでの議論・発表することをはじめとして、随時、グループでの議論を行う予定にしている。その際の、協議の方法、発表内容等も評価する。
- ・ 期末テスト 40 点… 2 / 3 以上の出席がない場合、受験資格を失う。
- ・ 合 計 100 点

授業科目名： 教育方法 (ICTの活用を含む。)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：比嘉俊 森本雅人 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>本授業では、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育方法の基礎的理論をふまえ、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解することができる。 ○授業を構成する基礎的な要件を理解し、学習評価について理解することができる。 ○基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案の作成方法について理解することができる。 ○子どもの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器及びICTを活用して効果的に教材等を作成・提示する方法を理解することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>教育の方法や技術、情報機器・教材の活用及び情報通信機器の活用に関する基礎的な知識や様々なメディアを活用した遠隔授業の方法・技術を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション：「教育方法」という科目、授業計画の説明、評価（担当：比嘉俊）</p> <p>第2回 学校と教育課程（担当：比嘉俊）</p> <p>第3回 求められる資質・能力（主体的・対話的で深い学び）と協働的な学びの実現（担当：比嘉俊）</p> <p>第4回 教師の指導技術とは何か～発問と質問、指示、板書計画、机の配置～（担当：比嘉俊）</p> <p>第5回 教職の専門性とは何か～授業の構造～（担当：比嘉俊）</p> <p>第6回 教職の専門性とは何か～学習指導案の構成～（担当：比嘉俊）</p> <p>第7回 教職の専門性とは何か～学習指導案の検討～（担当：比嘉俊）</p> <p>第8回 授業の省察と教師の成長（担当：比嘉俊）</p> <p>第9回 情報通信技術（遠隔・オンライン教育）の活用の意義と理論（担当：森本雅人）</p>			

- 第10回 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や統合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進 (担当：森本雅人)
- 第11回 各教科等における横断的な情報活用能力 (情報モラルを含む) を育成するための指導法 (担当：森本雅人)
- 第12回 学習履歴の活用と教育情報セキュリティ (担当：森本雅人)
- 第13回 情報通信技術を効果的に活用した授業事例1～特別の支援を必要としている生徒～ (担当：森本雅人)
- 第14回 情報通信技術を効果的に活用した授業事例2 (担当：森本雅人)
- 第15回 ICT支援員との連携と授業支援 (担当：森本雅人)
- 第16回 遠隔・オンライン教育の意義やシステムの活用法 (担当：森本雅人)
定期試験 (担当：比嘉俊)

テキスト

授業で活用する資料は、適宜、印刷・配布します。

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校 学習指導要領 (平成29年告示)』, 『高等学校 学習指導要領 (平成30年告示)』, 『中学校 学習指導要領解説 (平成29年告示 総則編)』, 『高等学校 学習指導要領解説 (平成30年告示) 総則編』を参照すること。

学生に対する評価

- ・活動状況 :20点 (模擬授業、討論等)
- ・定期試験 :50点
- ・毎回の[ふりかえりカード]提出:30点
- ・合計 100点満点

授業科目名： 生徒指導の理論及び方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：板山勝樹 小波津義嵩 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導方法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>生徒指導の意義と学校病理等の生徒指導上の課題を踏まえ、課題解決をめざした具体的な方策を検討することによって、生徒指導上の実践的指導力の基礎を培うことを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生徒指導における課題の実態や背景、生徒指導を進める上で必要となる理念、内容・方法、組織運営等を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（板山） 授業の目的・内容・方法の説明、シラバスの確認、診断的評価、登録 等</p> <p>第2回：生徒指導とは何か（板山） 教育課程における生徒指導の位置付けならびに、生徒指導と各教科・道徳教育・特別活動との関係性について学ぶ。</p> <p>第3回：生徒指導と生活指導（小波津） 日本独自の生活指導論を検討することを通して、学級自治、集団指導の方法原理について学ぶ。</p> <p>第4回：「不登校」問題について議論し、共有する1（発生要因について議論する）（小波津） 不登校（暴力行為、いじめ）問題の発生原因とその予防策についてグループで議論する。その後、不登校の定義及び対応の視点等を学ぶ。</p> <p>第5回：「不登校」問題について議論し、共有する2（予防について議論する）（小波津） 不登校（暴力行為、いじめ）問題の発生原因とその予防策についてグループで議論する。その後、不登校の定義及び対応の視点等を学ぶ。</p> <p>第6回：「不登校」問題について整理する（小波津） 第4・5回の学生たちの議論を受け、登校しぶり、別室登校している子どもたちの課題を整理し、そうしたこともたちに対する支援のあり方を整理する。</p> <p>第7回：生徒指導と教師・学校1（板山） 校務分掌上の立場や役割、組織的・計画的な日常的な生徒指導のあり方について検討し、生</p>			

徒指導における教師の役割等について学ぶ。

第8回：生徒指導と教師・学校2（学校組織としての生徒指導のあり方）（板山）

学校組織としての生徒指導のあり方（自己決定の場の設定、自己存在感・他者との共感的理解が形成される指導のあり方）について学ぶ。

第9回：生徒指導における法規（板山）

校則、懲戒、体罰、高等学校においては停学及び退学等の生徒指導に関する主な法令の概要について学ぶ。また、生徒指導体制について学ぶ。

第10回：「体罰」問題について議論し、共有する（板山）

体罰問題の発生原因とその予防策についてグループで議論する。その後に、体罰に関する主な法令の内容について学ぶ。

第11回：懲戒・体罰について（板山）

懲戒・体罰に焦点化し、生徒指導に関する主な法令の内容について学ぶ。また、第9週における議論結果を踏まえ、懲戒のあり方について、さらに深く検討する。

第12回：教育相談1（板山）

教育相談の行う体制を取り上げることを通して、教育相談を行う組織運営のあり方やその課題を学ぶ

第13回：教育相談2（板山）

教育相談の内容・方法を取り上げることを通して、生徒指導と教育相談それぞれの基礎的な考え方と違いならびに、個別指導の方法原理について学ぶ

第14回：生徒指導における保護者・地域等との連携・協働（板山）

基本的な生活習慣の確立、規範意識の醸成、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題やそうした課題克服をめざした生徒指導における保護者・地域、専門家や関係機関との連携の在り方について学ぶ。

第15回：本授業のまとめ（板山）

全授業のまとめを行い、習得内容を整理する。

定期試験

テキスト

特には指定せず、自作のテキスト・資料等を用いる。

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校 学習指導要領（平成29年告示）』、『高等学校 学習指導要領（平成30年告示）』、『中学校 学習指導要領解説（平成29年告示） 総則編』、『高等学校 学習指導要領解説（平成30年告示） 総則編』、『生徒指導提要』を参照すること。

学生に対する評価

- ・ レポート内容 20点… 1回のレポートを求める。
- ・ 授業時の態度・活動 30点… 上のレポートをグループでの議論・発表することをはじめとして、随時、グループでの議論を行う予定にしている。その際の、協議の方法、発表内容等も評価する。
- ・ 期末テスト 50点… 2 / 3以上の出席がない場合、受験資格を失う。
- ・ 合 計 100点

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岸本 琴恵 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 教育相談の理論（子どもの発達やカウンセリング理論）を理解し、教育現場で課題解決できる実践力の基礎を身につける。			
授業の概要 本科目では、学校現場が抱える問題について事例を交えながら紹介する。教育相談の基礎理論を理解・活用しながら、子どもや教師が抱える様々な問題について対応策を議論し、問題解決のための資質・能力を身につけてもらいたい。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、学校教育と教育相談 学校教育における教育相談の重要性について解説する。 第2回：子ども理解（乳幼児期における子どもの問題） 発達の基礎である乳幼児期の発達課題や理論を理解し、児童生徒理解と対応策を学ぶ 第3回：子ども理解（小学校における子どもの問題） 小学校では、現在どのような課題を抱えているのか、最新の情報や事例をもとに対応策を考える 第4回：子ども理解（中学校・高等学校における子どもの問題） 中学、高校生の思春期の心理を理解し、彼らが抱える問題や葛藤を学ぶ 第5回：発達障害の理解と支援 発達障害により児童生徒は何に困るのかを具体的に理解し、効果があった支援方法を紹介する 第6回：精神疾患の理解と支援 不登校や自殺の増加が深刻化する中、その背景に精神疾患が見え隠れする。その精神疾患を理解することにより、児童生徒の適切な支援が可能となる 第7回：教育相談の理論1 カウンセリングの基礎理論である、精神分析や自己理論について学ぶ 第8回：教育相談の理論2 カウンセリングの基礎理論である、行動療法や交流分析について学ぶ 第9回：教育相談の技法1 教育相談場面で実際に児童生徒と向き合う時、どのような心構えや寄り添いが必要なのか。その技法によって、カウンセリングが深まっていく			

第10回：教育相談の技法2

教師がカウンセリングを行う際に、活用できる技法について学ぶ

第11回：学級経営に活かす教育相談

教育相談の理論や技法は、学級経営や授業にも活用できる。つまり、相談場面でなくとも児童生徒のケアが可能。

第12回：学校で使えるアセスメント

児童生徒をどのように理解し、抱える問題をどのように分析するか、それがアセスメントである。アセスメントができることにより、適切で効果的な支援が可能となる。

第13回：保護者への理解と対応

保護者との連携により、問題は早期に解決する傾向がある。しかし、連携がうまくいかないケースも少なくない。そこに見られる構造について紹介する。そして、適切な保護者との連携について考える。

第14回：校内および関係機関との連携

チーム学校として協働し問題解決することが求められている。その協働こそ教師のケアと実践力の向上、同僚性の構築につながる。しかし、そこには多くの課題がある。協働するには何が必要なのか考える。

第15回：スクールカウンセラーの活用

スクールカウンセラーの専門性を理解し、効果的な連携により問題解決へとつながる。しかし、そこには課題もありそうだ。教師とスクールカウンセラーの声やその研究結果から、より効果的な連携のあり方を模索する。

定期試験

テキスト

- ・「教師のたまごのための教育相談」（改訂版）2017 会沢信彦（著） 北樹出版

参考書・参考資料等

- ・「教師・保育者のためのカウンセリングの理論と方法」2021 会沢信彦 編著 北樹出版
- ・「教育相談」2019 高柳真人・前田基成・服部環 ミネルヴァ書房
- ・文部科学省『中学校 学習指導要領（令和29年告示）』
- ・文部科学省『高等学校 学習指導要領（令和30年告示）』
- ・文部科学省『中学校 学習指導要領解説（令和29年告示） 総則編』
- ・文部科学省『高等学校 学習指導要領解説（令和30年告示） 総則編』

学生に対する評価

- ・活動状況（授業後のリフレクションシート） 20点
 - ・レポート 30点
 - ・期末試験 50点
- 合計：100点

授業科目名： 進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：板山勝樹 仲盛康治
科 目			担当形態：オムニバス
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳、総合的な学習の時間等の指導方法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>進路指導の意義、歴史・理論について学んだ後に、1999年以降、日本においても推進されているキャリア教育の成果と課題について検討する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>進路指導やキャリア教育の意義や歴史・理論、実践について学び、課題解決をめざした具体的方策を検討することによって、キャリア教育の実践的指導力の基礎を培う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（板山） 授業の目的・内容・方法の説明、シラバスの確認、診断的評価、登録 等</p> <p>第2回：進路指導とは何か（板山） 進路指導の意味や教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け等を学ぶ。</p> <p>第3回：生徒理解と進路相談（板山） 生徒理解に基づいた進路相談、キャリア・カウンセリングについて学ぶ。</p> <p>第4回：進路指導の歴史と理論（板山） 進路指導が生み出されてきた歴史と進路指導に活かすことができるであろう理論を学ぶ。</p> <p>第5回：「非正規雇用」問題を議論する1（板山） 進路指導上の課題の一つとして、「若年非正規雇用者の創出」を取り上げ、その要因についてグループ・全体で議論する。</p> <p>第6回：「非正規雇用」問題を議論する2（板山） 進路指導上の課題の一つとして、「若年非正規雇用者の創出」を取り上げ、その打開策についてグループ・全体で議論する。</p> <p>第7回：キャリア教育の必要性とその推進の経緯（仲盛） キャリア教育が推進される社会的背景やその経緯、その過程で提示された重点目標等を学ぶことを通して、キャリア教育の視点と指導のあり方の概略を学ぶ。</p> <p>第8回：「制度化」されたキャリア教育の目標（仲盛）</p>			

「制度化」されたキャリア教育の目標論に焦点化し、その変遷を学ぶ。

第9回：「制度化」されたキャリア教育の限界（仲盛）

推進されてきたキャリア教育を批判的に検討し、その課題について学ぶ。

第10回：キャリア教育の方法等について1（仲盛）

P D C Aサイクルを位置づけた組織的なキャリア教育実践を行う前提条件（学校内組織体制、家庭・地域社会・関係諸機関との連携）について学ぶ。

第11回：キャリア教育の方法等について2（仲盛）

キャリア教育実践を六つの側面（①自己理解に関わる活動・②進路情報に関わる活動・③進路相談・④啓発的経験・⑤進路選択・決定への支援・⑥追指導）から整理し、その六側面について具体的な実践事例を交えて学ぶ。

第12回：進路指導 学習指導プランづくり・交流1（板山）

グループのメンバーが協働し（あるいは個人で）、進路指導・キャリア教育学習指導案を作成・発表・協議することを通して、進路指導・キャリア教育に関する指導・評価とその改善のあり方について学ぶ。

第13回：進路指導 学習指導プランづくり・交流2（板山）

グループのメンバーが協働し（あるいは個人で）、進路指導・キャリア教育学習指導案を作成・発表・協議することを通して、進路指導・キャリア教育に関する指導・評価とその改善のあり方について学ぶ。

第14回：進路指導 学習指導プランづくり・交流3（板山）

グループのメンバーが協働し（あるいは個人で）、進路指導・キャリア教育学習指導案を作成・発表・協議することを通して、進路指導・キャリア教育に関する指導・評価とその改善のあり方について学ぶ。

第15回：本授業のまとめ（板山）

全授業のまとめを行い、習得内容を整理する。

定期試験

テキスト

特には指定せず、自作のテキスト・資料等を用いる。

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校 学習指導要領（平成29年告示）』、『高等学校 学習指導要領（平成30年告示）』、『中学校 学習指導要領解説（平成29年告示）総則編』、『高等学校 学習指導要領解説（平成30年告示）総則編』を参照すること。

学生に対する評価

- ・ レポート内容 30点…レポートと学習指導プラン各1回の提出を求める。
- ・ 授業時の態度・活動 30点…上のレポートをグループでの議論・発表することをはじめとして、随時、グループでの議論を行う予定にしている。その際の、協議の方法、発表内容等も評価する。
- ・ 期末テスト 40点…2/3以上の出席がない場合、受験資格を失う。
- ・ 合計 100点

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (中・高)		単位数：2単位		教職担当教員：板山勝樹 教科担当教員： 久高利美子（国語） 兼次（高良）由加利（社会・公民）	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	25人（2クラスで実施）				
教員の連携・協力体制 第1～6回、第10、第16回は、「教育の基礎的理解に関する科目等」の担当者が連携・協働して取り組む。 第7～9回、第11～15回は、「各教科の指導法又は各教科の実践研究」の担当者が連携・協働して取り組む。					
授業のテーマ及び到達目標 教師となる上での課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、教職生活をより円滑にスタートできるようにすることを目標とする。					
授業の概要 実務経験のある教員が担当し、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として、「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」・「社会性や対人能力に関する事項」・「幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項」・「教科・保育内容等の指導力に関する事項」の定着を図る。					
授業計画 第1回：オリエンテーション 授業の目的・内容・方法の説明、シラバスの確認、教職履修カルテと学びの振り返り、登録等。『人権論の教科書』序章（2-17頁）を事前に読んだうえで、授業に参加すること。 第2回：指導事例を考える 様々な問題を抱えた生徒の事例に対して、どのように取り組むのかをグループ・ディスカッションを行い、その方策を検討する。『人権論の教科書』第2章（38-54頁）を事前に読んだうえで、授業に参加すること。 第3回：人権教育について考える 人権教育とは何を課題として、どのように取り組まれる教育なのかについての理解を深める。『人権論の教科書』第5章（93-109頁）、第11章（207-224頁）、第12章（225-245頁）を事前に読んだうえで、授業に参加すること。 第4回：子どもの貧困とその克服策を考える 社会問題化している子どもの貧困を巡る課題とその課題の克服策についてのグループ・ディスカッションを行い、整理してゆく。『人権論の教科書』第10章（187-204頁）を事前に読んだうえで、授業に参加すること。 第5回：LGBTQについての理解を深める LGBTQ当事者を講師として招き、問題の概要とその克服に向けた方向性についての理解を深					

<p>める。『人権論の教科書』第7章（129-145頁）を事前に読んだうえで、授業に参加すること。</p> <p>第6回：教師のストレスマネジメントについて考える</p> <p>若年教師が早期退職に追い込まれる原因の一つであるストレスをマネジメントすることができることをめざし、その方法等を理解する。『人権論の教科書』第9章（167-186頁）を事前に読んだうえで、授業に参加すること。</p> <p>第7回：各教科等に分かれた模擬授業等1</p> <p>各教科等（国語・社会・公民）に分かれ、模擬授業とその振り返り（ICTの活用、グループ・ディスカッションを含む）、学校現場実践者を招いた講話等を中心として行う。</p> <p>第8回：各教科等に分かれた模擬授業等2</p> <p>各教科等（国語・社会・公民）に分かれ、模擬授業とその振り返り（ICTの活用、グループ・ディスカッションを含む）、学校現場実践者を招いた講話等を中心として行う。</p> <p>第9回：各教科等に分かれた模擬授業等3</p> <p>各教科等（国語・社会・公民）に分かれ、模擬授業とその振り返り（ICTの活用、グループ・ディスカッションを含む）、学校現場実践者を招いた講話等を中心として行う。</p> <p>第10回：教育・養護実習報告</p> <p>教育・養護実習報告書に記述した内容に基づき、実習を通して学んだこと、明らかになったこと等をPPTに整理し、報告する。</p> <p>第11回：各教科等に分かれた模擬授業等4</p> <p>各教科等（国語・社会・公民）に分かれ、模擬授業とその振り返り（ICTの活用、グループ・ディスカッションを含む）、学校現場実践者を招いた講話等を中心として行う。</p> <p>第12回：各教科等に分かれた模擬授業等5</p> <p>各教科等（国語・社会・公民）に分かれ、模擬授業とその振り返り（ICTの活用、グループ・ディスカッションを含む）、学校現場実践者を招いた講話等を中心として行う。</p> <p>第13回：各教科等に分かれた模擬授業等6</p> <p>各教科等（国語・社会・公民）に分かれ、模擬授業とその振り返り（ICTの活用、グループ・ディスカッションを含む）、学校現場実践者を招いた講話等を中心として行う。</p> <p>第14回：各教科等に分かれた模擬授業等7</p> <p>各教科等（国語・社会・公民）に分かれ、模擬授業とその振り返り（ICTの活用、グループ・ディスカッションを含む）、学校現場実践者を招いた講話等を中心として行う。</p> <p>第15回：各教科等に分かれた模擬授業等8</p> <p>各教科等（国語・社会・公民）に分かれ、模擬授業とその振り返り（ICTの活用、グループ・ディスカッションを含む）、学校現場実践者を招いた講話等を中心として行う。</p> <p>大学での教職課程及び教職実践演習を振り返り、最終レポートを記述し、提出する。</p>
--

テキスト

テキストとして、古橋エツ子監修・和田幸司編『人権論の教科書』ミネルヴァ書房を用いる。

参考書・参考資料等

自作のテキスト・資料等を用いる。なお、文部科学省『中学校 学習指導要領（平成29年告示）』、『高等学校 学習指導要領（平成30年告示）』、『中学校 学習指導要領解説（平成29年告示） 総則編』、『高等学校 学習指導要領（平成30年告示） 解説 総則編』を参照すること。

学生に対する評価

- | | | |
|----------|------|-------------------------------|
| ・教職関係の評価 | 50点 | ・授業時の態度・活動、発表内容、最終レポート等を評価する。 |
| ・各教科等の評価 | 50点 | ・授業時の態度・活動、発表内容、最終レポート等を評価する。 |
| ・合計 | 100点 | |

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。